

【東洋文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
1301001	系共通科目(国語学)	講義	2-4	4	通年	水2	大槻 信		東洋文化学系1
1303001	系共通科目(国文学)	講義	2-4	4	通年	火1	金光 桂子		東洋文化学系2
1402001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	前期	木1	池田 巧		東洋文化学系3
1404001	系共通科目(中国語学)	講義	2-4	2	後期	木1	池田 巧		東洋文化学系4
1406001	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	前期	月5	成田 健太郎		東洋文化学系5
1408001	系共通科目(中国文学)	講義	2-4	2	後期	月5	成田 健太郎		東洋文化学系6
1502001	系共通科目(中国哲学史)	講義	1-4	2	前期	金4	宇佐美 文理		東洋文化学系7
1504001	系共通科目(中国哲学史)	講義	1-4	2	後期	金4	宇佐美 文理		東洋文化学系8
1602001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)	講義	1-4	2	前期	月3	天野 恭子		東洋文化学系9
1604001	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)	講義	1-4	2	後期	月3	横地 優子		東洋文化学系10
1702001	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	前期	水4	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系11
1704001	系共通科目(インド哲学史)	講義	1-4	2	後期	水4	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系12
1802001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	前期	月2	宮崎 泉		東洋文化学系13
1804001	系共通科目(仏教学)	講義	1-4	2	後期	月2	宮崎 泉		東洋文化学系14
1330001	国語学国文学	特殊講義	3-4	4	通年	月2	河村 瑛子		東洋文化学系15
1330003	国語学国文学	特殊講義	3-4	4	通年	月3	田中 草大		東洋文化学系16
1330002	国語学国文学	特殊講義	2-4	4	通年	火2	池田 恭哉		東洋文化学系17
1331001	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水4	須田 千里		東洋文化学系18
1331002	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水4	須田 千里		東洋文化学系19
1331003	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	佐野 宏		東洋文化学系20
1331004	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	佐野 宏		東洋文化学系21
1331005	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	長谷川 千尋		東洋文化学系22
1331006	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	長谷川 千尋		東洋文化学系23
1331007	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	木1	岡崎 友子		東洋文化学系24
1331008	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	後期	木1	岡崎 友子		東洋文化学系25
1331009	国語学国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	田中 則雄		東洋文化学系26
1340001	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	金5	大槻 信		東洋文化学系27
1340002	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	火3	金光 桂子		東洋文化学系28
1340003	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	月5	河村 瑛子		東洋文化学系29
1340004	国語学国文学	演習	3-4	4	通年	木5	田中 草大		東洋文化学系30
1341001	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	木2	緑川 英樹		東洋文化学系31
1341002	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	木2	緑川 英樹		東洋文化学系32
1341003	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	月4	鈴木 隆司		東洋文化学系33
1341004	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	月4	鈴木 隆司		東洋文化学系34
1341007	国語学国文学	演習	3-4	2	前期	木3	峯村 至津子		東洋文化学系35
1341008	国語学国文学	演習	3-4	2	後期	木3	峯村 至津子		東洋文化学系36
1350001	国語学国文学	講義	2-4	4	通年	金3	宮武 衛		東洋文化学系37
1345001	国語学国文学	卒論演習	4	4	通年	月1	大槻 信,金光 桂子,河村 瑛子,田中 草大		東洋文化学系38
1431001	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火1	永田 知之		東洋文化学系39
1431002	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火1	永田 知之		東洋文化学系40
1431003	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	道坂 昭廣		東洋文化学系41
1431004	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	道坂 昭廣		東洋文化学系42
1431005	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	野村 鮎子		東洋文化学系43
1431006	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	松江 崇		東洋文化学系44
1431007	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	松江 崇		東洋文化学系45
1431008	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	金1	野原 将揮		東洋文化学系46
1431009	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	野原 将揮		東洋文化学系47
1431010	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	水5	宇佐美 文理		東洋文化学系48
1431011	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	宇佐美 文理		東洋文化学系49
1431012	中国語学中国文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	岡崎 由美		東洋文化学系50
1447001	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	水3	成田 健太郎	語学演習	東洋文化学系51
1447002	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	水3	成田 健太郎	語学演習	東洋文化学系52
1447003	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	月2	津守 陽	語学演習	東洋文化学系53
1447004	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	月2	木津 祐子	語学演習	東洋文化学系54
1449001	中国語学中国文学	演習	3-4	2	前期	木2	緑川 英樹	文学演習	東洋文化学系55
1449002	中国語学中国文学	演習	3-4	2	後期	木2	緑川 英樹	文学演習	東洋文化学系56
1451001	中国語学中国文学	講義	2-4	2	前期	金5	緑川 英樹		東洋文化学系57
1451002	中国語学中国文学	講義	2-4	2	後期	金5	緑川 英樹		東洋文化学系58
1464001	中国語学中国文学	外国語実習	4	1	前期	金5	楊 維公		東洋文化学系59
1464002	中国語学中国文学	外国語実習	4	1	後期	金5	楊 維公		東洋文化学系60
1464003	中国語学中国文学	外国語実習	3-4	1	前期	金4	楊 維公		東洋文化学系61
1464004	中国語学中国文学	外国語実習	3-4	1	後期	金4	楊 維公		東洋文化学系62
1445001	中国語学中国文学	卒論演習	4	2	通年	水2	木津 祐子,緑川 英樹,成田 健太郎		東洋文化学系63
1530002	中国哲学史	特殊講義	3-4	4	通年	水1	池田 恭哉		東洋文化学系64
1531001	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	集中	塚本 鷹充		東洋文化学系65
1531002	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	水5	宇佐美 文理		東洋文化学系66
1531003	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	水5	宇佐美 文理		東洋文化学系67
1531004	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系68
1531005	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系69
1531006	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	前期	火4	船山 徹		東洋文化学系70
1531007	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	火4	船山 徹		東洋文化学系71
1531008	中国哲学史	特殊講義	3-4	2	後期	月5	福谷 彬		東洋文化学系72

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
1540001	中国哲学史	演習	3-4	4	通年	金5	宇佐美 文理		東洋文化学系73
1540002	中国哲学史	演習	3-4	4	通年	月2	池田 恭哉		東洋文化学系74
1541001	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	金3	吉本 道雅		東洋文化学系75
1541002	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	金3	吉本 道雅		東洋文化学系76
1541003	中国哲学史	演習	3-4	2	前期	月3	古勝 隆一		東洋文化学系77
1541004	中国哲学史	演習	3-4	2	後期	月3	古勝 隆一		東洋文化学系78
1550001	中国哲学史	講読	2-4	4	通年	火2	池田 恭哉		東洋文化学系79
1633001	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	横地 優子		東洋文化学系80
1633002	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	火2	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系81
1633003	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	火2	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系82
1633007	インド古典学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	CATT, Adam Alvah		東洋文化学系83
1633008	インド古典学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	CATT, Adam Alvah		東洋文化学系84
1644001	インド古典学	演習	3-4	2	後期	月2	Tao PAN		東洋文化学系85
1644002	インド古典学	演習	2-4	2	後期	月3	Tao PAN		東洋文化学系86
1644003	インド古典学	演習	3-4	2	前期	金3	横地 優子		東洋文化学系87
1644004	インド古典学	演習	3-4	2	前期	火5	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系88
1644005	インド古典学	演習	2-4	2	前期	木4	山口 周子		東洋文化学系89
1644006	インド古典学	演習	2-4	2	後期	木4	芳原 綾子		東洋文化学系90
1644007	インド古典学	演習	3-4	2	前期	水2	天野 恭子		東洋文化学系91
1644008	インド古典学	演習	3-4	2	前期	月2	Tao PAN		東洋文化学系92
1644009	インド古典学	演習	3-4	2	前期	火1	横地 優子, VASUDEVA,Somdev, Tao PAN		東洋文化学系93
1644010	インド古典学	演習	3-4	2	後期	火1	横地 優子, VASUDEVA,Somdev, Tao PAN		東洋文化学系94
1644011	インド古典学	演習	3-4	2	後期	火5	VASUDEVA,Somdev		東洋文化学系95
1653001	インド古典学	講読	2-4	2	前期	月4	横地 優子		東洋文化学系96
1653002	インド古典学	講読	2-4	2	後期	月4	天野 恭子		東洋文化学系97
1653003	インド古典学	講読	3-4	2	前期	木3	Tao PAN		東洋文化学系98
1653004	インド古典学	講読	3-4	2	後期	木3	Tao PAN		東洋文化学系99
9616001	インド古典学/仏教学	語学	1-4	4	通年	月4	山口 周子	学部共通科目	東洋文化学系100
9617001	インド古典学/仏教学	語学	1-4	8	通年	月5,木5	Tao PAN	学部共通科目	東洋文化学系101
9633001	インド古典学	語学	1-4	4	通年	金4,金5	虫賀 幹華	学部共通科目	東洋文化学系102
9659001	インド古典学	語学	2-4	2	前期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	東洋文化学系103
9660001	インド古典学	語学	2-4	2	後期	火3	西岡 美樹	学部共通科目	東洋文化学系104
1831001	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	宮崎 泉		東洋文化学系105
1831002	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	宮崎 泉		東洋文化学系106
1831003	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	船山 徹		東洋文化学系107
1831004	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	船山 徹		東洋文化学系108
1831005	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	木5	室寺 義仁		東洋文化学系109
1831006	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	木5	室寺 義仁		東洋文化学系110
1831007	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	DEROCHE,Marc-Henri Jean		東洋文化学系111
1831008	仏教学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系112
1831009	仏教学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	倉本 尚徳		東洋文化学系113
1841001	仏教学	演習	3-4	2	前期	火3	宮崎 泉		東洋文化学系114
1841002	仏教学	演習	3-4	2	後期	火3	宮崎 泉		東洋文化学系115
1841003	仏教学	演習	3-4	2	前期	集中	加納 和雄		東洋文化学系116
1841004	仏教学	演習	3-4	2	前期	水4	熊谷 誠慈		東洋文化学系117
1841005	仏教学	演習	3-4	2	後期	水4	熊谷 誠慈		東洋文化学系118
1841006	仏教学	演習	3-4	2	前期	火2	佐藤 直実		東洋文化学系119
1841007	仏教学	演習	3-4	2	後期	月5	志賀 浄邦		東洋文化学系120
1841008	仏教学	演習	2-4	2	前期	木4	山口 周子		東洋文化学系121
1841009	仏教学	演習	2-4	2	後期	木4	芳原 綾子		東洋文化学系122
1851001	仏教学	講読I	3-4	2	前期	木3	Tao PAN		東洋文化学系123
1851002	仏教学	講読I	3-4	2	後期	木3	Tao PAN		東洋文化学系124
9628001	仏教学	語学	2-4	2	前期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	東洋文化学系125
9629001	仏教学	語学	2-4	2	後期	水1	宮崎 泉	学部共通科目	東洋文化学系126
9630001	仏教学	語学	3-4	2	前期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	東洋文化学系127
9630002	仏教学	語学	3-4	2	後期	月1	高橋 慶治	学部共通科目	東洋文化学系128

東洋文化学系1

科目ナンバリング		U-LET10 21301 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国語学)(講義) Japanese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本の古辞書									
【授業の概要・目的】											
日本語を日本語たらしめているのは何であろうか。本講義では、日本語の様々な側面に注目しながら、日本語の歴史をたどる。今年度は、日本において編纂された古辞書を中心に概説しながら、関連する諸問題について考察を加える。日本語の特性とその歴史を知ることが目的とする。											
【到達目標】											
日本における辞書と語彙の歴史的展開を知り、それを通して日本語の特性について理解する。											
【授業計画と内容】											
講義を主体とするが、可能な範囲で発表や資料講読などを交える。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎する。知識よりも思考を重視する。 主たる講義内容は以下の通り。本年度は平安時代に編纂された辞書を中心に論じる予定である。基本的に以下の計画によって講義を進めるが、内容の順序や回数を変えることがある。											
【前期】											
第1回イントロダクション											
第2回古辞書を使うということ 竹取物語「よ」 前半											
第3回古辞書を使うということ 竹取物語「よ」 後半											
第4回古辞書を使うということ 古今和歌集「ほのかに」 前半											
第5回古辞書を使うということ 古今和歌集「ほのかに」 後半											
第6回古辞書を使うということ 今昔物語集「繚」 前半											
第7回古辞書を使うということ 今昔物語集「繚」 後半											
第8回古辞書を使うということ まとめ											
第9回古辞書年表を作成するために											
第10回古辞書年表作成											
第11回古辞書の「眷」字 中国の辞書											
第12回古辞書の「眷」字 日本の辞書											
第13回【発表】古辞書の歴史(前半)											
第14回【発表】古辞書の歴史(後半)											
第15回まとめ											
【後期】											
第1回イントロダクション											
第2回古辞書概観 新撰字鏡・和名類聚抄											
第3回古辞書概観 類聚名義抄・色葉字類抄											
第4回論文の収集方法											
第5回論文の読み方											
----- 系共通科目(国語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国語学)(講義)(2)

第6回【発表】新撰字鏡解題  
第7回【発表】新撰字鏡序文  
第8回『新撰字鏡』の序文を読む  
第9回『新撰字鏡』と臨時雑要字  
第10回【発表】和名類聚抄解題  
第11回【発表】和名類聚抄に関わる論文を読む  
第12回和名類聚抄の注文構成  
第13回和名類聚抄と和訓  
第14回まとめ  
第15回期末レポート

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績はレポートを中心に評価し発表、プリントへの回答などを平常点として加味する。  
概ね毎回「プリント」課題を配布し回収する。  
期末にレポートを課す。  
「レポート：平常点」は「50：50」を基本とする。

【教科書】

使用しない  
ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)  
西崎亨編『日本古辞書を学ぶ人のために』(世界思想社)ISBN:4790705552  
レファレンスとして『日本古辞書を学ぶ人のために』(世界思想社、1995)が便利であろう。詳しくは授業時に指示する。

【授業外学修(予習・復習)等】

レファレンス『日本古辞書を学ぶ人のために』を予習すること。  
また、授業中にあげる参考文献を読むことが良い復習となる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系2

科目ナンバリング		U-LET10 21303 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(国文学)(講義) Japanese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		国文学研究入門									
【授業の概要・目的】											
日本古典文学の主要な作品ないしジャンルにおいて、これまでどのような研究が行われてきたか、どのような研究方法が求められているかを講述し、国文学研究の手引きとする。各作品・ジャンルの概説を行った上で、具体例に基づきつつ研究方法を紹介するという形で、授業を進める。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本古典文学の主要な作品・ジャンルについて、これまでどのような研究が行われてきたかを知り、研究方法を学ぶ。</li> <li>・上記で学んだ研究方法を用い、自ら設定した課題を解決する力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
以下のようなテーマを取り上げる予定。ただし進捗状況によって変更する可能性がある。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 『万葉集』 概説</li> <li>3. 『万葉集』 訓詁の問題</li> <li>4. 『万葉集』 1418番歌</li> <li>5. 『伊勢物語』 概説</li> <li>6. 『伊勢物語』 古注釈の問題</li> <li>7. 『伊勢物語』 二十三段</li> <li>8. 『源氏物語』 概説</li> <li>9. 『源氏物語』 典拠論の問題</li> <li>10. 『源氏物語』 桐壺巻</li> <li>11. 『源氏物語』 人物論の問題</li> <li>12. 『源氏物語』 夕顔巻</li> <li>13. 日記文学 概説</li> <li>14. 日記文学 作者と読者の問題</li> <li>15. 日記文学 『紫式部日記』</li> <li>16. 歌学書 概説</li> <li>17. 歌学書 成立の問題</li> <li>18. 歌学書 『顕注密勘』</li> <li>19. 『平家物語』 概説</li> <li>20. 『平家物語』 諸本の問題</li> <li>21. 『平家物語』 覚一本</li> <li>22. 私家集 概説</li> <li>23. 私家集 構成の問題</li> <li>24. 私家集 『実材卿母集』</li> <li>25. 室町物語 概説</li> <li>26. 室町物語 異本の問題</li> </ol>											
----- 系共通科目(国文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(国文学)(講義)(2)

- 27.室町物語 『しぐれ』  
28.室町物語 『文正草子』  
29.レポート作成準備  
30.フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業中に課す課題・コメントなど。20点）および期末レポート（80点）による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り上げる作品を、注釈書などを利用しつつできるだけ原文で読むこと。また、授業中に紹介する論文・研究書のほか、関連する論文等を自分で探して読んでみることを。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系3

科目ナンバリング		U-LET11 21402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 池田 巧			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説1(文法)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上を対象に、現代中国語の文法について、言語史的な視点をまじえつつ、今日までの研究で明らかにされてきた基礎的な知見を紹介する。											
【到達目標】											
この科目は現代中国語(普通話)の文法入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)現代中国語(普通話)の文法構造、(2)中古中国語文法から現代中国語文法への史的発展に関する基礎知識を習得することが期待される。あわせて古典中国語文法の基礎にも留意する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.はじめに：中国語とはどのような言語か</li> <li>2.現代中国語の表記法(簡体字と繁体字、ピンイン)</li> <li>3.普通話と方言(1)</li> <li>4.普通話と方言(2)</li> <li>5.文法の復習</li> <li>6.品詞分類、語構成(接頭辞、接尾辞、重ね型)</li> <li>7.句と文、否定、疑問</li> <li>8.名詞、代名詞、量詞</li> <li>9.動詞、形容詞、副詞(1)</li> <li>10.動詞、形容詞、副詞(2)</li> <li>11.時制とアスペクト</li> <li>12.補語と目的語(1)</li> <li>13.補語と目的語(2)</li> <li>14.ヴォイス(受身、使役、「把」構文)</li> <li>15.連動文と前置詞</li> </ol>											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点】											
授業内レポート(70%)、平常点(30%)。きちんと授業に出席し、積極的に発言すること。											
-----系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

池田 巧 『中国語のしくみ《新版》』(白水社) ISBN:978-4560086636

三宅登之 『中級中国語 読みとく文法』(白帝社) ISBN:978-4560085875

太田辰夫 『中国語歴史文法』(朋友書店) ISBN:978-4892811326 ( (江南書院1958年初版本) の復刊)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する参考文献に関しては、あらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説1」および「中国語学概説2」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系4

科目ナンバリング		U-LET11 21404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国語学)(講義) Chinese Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 池田 巧			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国語学概説2(漢字史と中国語音韻史)									
【授業の概要・目的】											
中国語は、世界で最も広く話されている言語であり、言語史的資料も豊かである。この授業は、学部2回生以上を対象に、漢字の歴史と中国語音韻史について、今日までの研究で明らかにされてきた基礎的な知見を紹介する。											
【到達目標】											
この科目は漢字史および中国語音韻史の入門として、中国語学・中国文学に関連した専門科目の履修に向けた基礎となるものである。学修を終えた段階では、(1)漢字の構造、(2)中国語音韻史に関する基礎知識を習得することが期待される。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに、中国語研究史</li> <li>2. 現代中国語の音韻 (1) 普通話</li> <li>3. 現代中国語の音韻 (2) 方言の多様性</li> <li>4. 現代中国語の音韻 (3) 日本漢字音との関わり</li> <li>5. 中古中国語の音韻 (1) 韻書と反切</li> <li>6. 中古中国語の音韻 (2) 声調と声母</li> <li>7. 中古中国語の音韻 (3) 韻母</li> <li>8. 中古中国語の音韻 (4) 等韻図</li> <li>9. 古代中国語学(小学)の基礎 (1) 漢字の形</li> <li>10. 古代中国語学(小学)の基礎 (2) 漢字の義</li> <li>11. 小学の発展と清朝考証学</li> <li>12. 周辺諸地域への漢字の伝播</li> <li>13. 日本語と中国語：接触の歴史(日本から見た中国)</li> <li>14. 日本語と中国語：接触の歴史(中国から見た日本)</li> <li>15. 総括討論</li> </ol>											
【履修要件】											
初級中国語を履修していること											
【成績評価の方法・観点】											
授業内レポート(70%)、平常点(30%)きちんと授業に出席し、積極的に発言すること。											
-----系共通科目(中国語学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国語学)(講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

頼惟勤 『中国古典を読むために 中国語学史講義』(大修館書店) ISBN:978-4469231243

Jerry Norman 『Chinese』(Cambridge University Press) ISBN:978-0521296533

この分野の扱う範囲は多岐にわたるので、追加の参考書は授業時に随時指示する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業中に指示する参考文献に関しては、次回までにあらかじめ読んで理解したうえで出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

中国語学中国文学専修の学部学生は、「中国語学概説1」および「中国語学概説2」の両方が必修である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系5

科目ナンバリング		U-LET11 21406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論（先秦～唐前半期）									
【授業の概要・目的】											
先秦より盛唐までの中国文学の代表的なジャンル、作品、作者について、包括的な知識を身につけることを目的とする。後期の同時限の講義とあわせて受講すれば、中国文学の通史を把握することができる。											
【到達目標】											
先秦より盛唐までの中国文学の代表的なジャンル、作品、作者に関する基本的な知識を身につけ、それを自分の言葉で的確に説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 緒論 第2回 詩経 第3回 先秦諸子 第4回 辞賦 第5回 史記・漢書 第6回 漢の詩 第7回 建安の詩文 第8回 魏晉の詩文 第9回 南朝の詩文 第10回 魏晉南北朝の小説 第11回 北朝の詩文 第12回 初唐の詩 第13回 盛唐の詩 第14回 復習 第15回 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（リアクションペーパーの内容等、25%）および期末筆記試験（75%）による。											
-----系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

**[教科書]**

PandAを使用して作品のテキストを共有し、授業中に資料を配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

興膳宏[編] 『中国文学を学ぶ人のために』(世界思想社, 1991) ISBN:9784790703860

松原朗ほか 『教養のための中国古典文学史』(研文出版, 2009) ISBN:9784876363049

W. Denecke, et al., ed. 『The Oxford Handbook of Classical Chinese Literature (1000 BCE-900 CE)』(Oxford University Press, 2017) ISBN:9780199356591

安藤信廣 『中国文学の歴史：古代から唐宋まで』(東方書店, 2021) ISBN:9784497221124

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で紹介する参考文献を手がかりとして関連する文献を探索し多く読むように努めてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系6

科目ナンバリング		U-LET11 21408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国文学)(講義) Chinese Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国文学概論（唐後半期～現代）									
【授業の概要・目的】											
唐後半期より現代までの中国文学の代表的なジャンル、作品、作者について、包括的な知識を身につけることを目的とする。前期の同時限の講義とあわせて受講すれば、中国文学の通史を把握することができる。											
【到達目標】											
唐後半期より現代までの中国文学の代表的なジャンル、作品、作者に関する基本的な知識を身につけ、それを自分の言葉で的確に説明する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 中唐の詩文 第2回 唐の小説 第3回 晩唐の詩 第4回 宋金の詩文 第5回 詞 第6回 元曲 第7回 元明の詩文 第8回 元明の小説 第9回 清の詩文 第10回 清の小説 第11回 文学革命 第12回 現代の小説 第13回 今世紀の小説 第14回 復習 第15回 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（リアクションペーパーの内容等、25%）および期末筆記試験（75%）による。											
-----系共通科目(中国文学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国文学)(講義)(2)

**[教科書]**

PandAを使用して作品のテキストを共有し、授業中に資料を配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

興膳宏[編] 『中国文学を学ぶ人のために』 (世界思想社, 1991) ISBN:9784790703860

松原朗ほか 『教養のための中国古典文学史』 (研文出版, 2009) ISBN:9784876363049

W. Denecke, et al., ed. 『The Oxford Handbook of Classical Chinese Literature (1000 BCE-900 CE)』 (Oxford University Press, 2017) ISBN:9780199356591

宇野木洋ほか[編] 『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』 (世界思想社, 2003) ISBN:9784790709947

藤井省三 『中国語圏文学史』 (東京大学出版会, 2011) ISBN:9784130820455

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業で紹介する参考文献を手がかりとして関連する文献を探索し多く読むように努めてほしい。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系7

科目ナンバリング		U-LET12 11502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義 ( )									
【授業の概要・目的】											
「気」や「理」などの中国哲学の基本概念を講義し、中国哲学ならびに中国文化への理解を深める。											
【到達目標】											
中国哲学における「気」、「性」、「道」、「理」などの基本的諸概念の持つ意味を理解することにより、中国文化のみならず、人類の文化全体を考えるための基礎的な知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
1 中国哲学とは何か 2 中国における「学問」の意味について 3 「気」について 一 気思想概観 4 「気」について 二 藝術作品に見る気 5 「気」について 三 画像石にみる気の死生観 6 「気」について 四 太極図 7 「理」について 一 理思想概観 8 「理」について 二 朱子学における理 9 「性」について 一 孟子と荀子の性説 10 「性」について 二 朱子の性説 11 「道」について 一 儒家の考える道 12 「道」について 二 道家の考える道 13 「無」について 14 ふたたび「中国哲学とは何か」 15 試験及びフィードバック(詳細は授業時に解説)											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数回履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末試験による(100パーセント)											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
漢文資料などは授業時に適宜コピーして配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
島田虔次『朱子学と陽明学(岩波新書)』(岩波書店) ISBN:4004120284  
その他は授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

ひろく中国の古典に親しんでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系8

科目ナンバリング		U-LET12 11504 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(中国哲学史)(講義) History of Chinese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		中国哲学史講義( )									
【授業の概要・目的】											
中国の目録学について概要を示すことから始めて、中国哲学史上の重要な書物について、経部と子部の書物を中心にそれぞれの内容について解説し、その書物が学問全体においてもつ位置についての知識を深める。											
【到達目標】											
目録学の概要を学ぶことにより、目録学が持つ「学術史」としての意味、目録学の存在意義を理解するとともに、中国の経部書（儒教の経書に関わる書物群）、子部書（諸子百家と、いわゆる技術書とされるもの）といった、中国哲学が主に扱う分野の書物について、それぞれの書物がどういう経緯で作られ、いったい何が書かれているか、さらには、学術全体の中でその書物がどのような位置にあるのかなどを知り、中国学を学ぶ上で基礎的な知識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
1 目録学の意義について 2 目録の歴史 一 目録学における焚書の意義 3 目録の歴史 二 漢書藝文志の構成について 4 目録の歴史 三 六朝期から『四庫全書総目提要』へ 5 子部書について 一 儒家類から藝術類まで 6 子部書について 二 「雑」と子部 7 子部書について 三 類書の問題 8 経部書の分類について 9 易 10 書 11 詩 12 礼 13 春秋 14 四書、小学書 15 フィードバック（詳細は授業時に解説する）											
【履修要件】											
同一科目コードの講義科目を複数履修しても、成績の良いもののみが単位認定されるので注意すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末試験（100パーセント）											
-----系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(中国哲学史)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
資料はプリントして配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
野間文史『五経入門 中国古典の世界(研文選書)』(研文出版) ISBN:4876363749  
その他は授業中に紹介します。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

ひろく中国の古典に親しんでください。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系9

科目ナンバリング		U-LET13 11602 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 天野 恭子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)									
[授業の概要・目的]											
<p>ヴェーダからウパニシャッドに至るヴェーダ聖典に触れ、古代インドの宗教・思想の展開、古代インド文化・社会のあり方について、学び、考える。古代インドの宗教や歴史について詳しく解説を行うが、それらの知識を得ることだけでなく、当時の宗教文献に向き合い、作者の宗教体験や世界観に迫る体験を、参加者と共に味わいたい。原典の日本語訳を精読し、まず最低限必要な解説をするが、その後は個人個人が文献と向き合う時間を取り、授業の最後にレポートとして提出してもらう。次の授業でそれらのレポートを基にして、様々な視点での解釈を互いに学びつつ、文献への理解を深めていく。古代インドの宗教や歴史を学ぶことを目的の一つとするが、それを広く古代インドを超えて世界を理解することに生かせる視点を養うことが、この授業の重要な目的である。</p>											
[到達目標]											
<p>ヴェーダ文献およびその思想、社会的背景についての基本的な知識を得、古代文献の研究における様々な課題、難題について、理解する。思想や社会を研究する上で、様々な視点を持って研究対象を見ること、自分なりの問いを立てることを学ぶ。文献に書かれたことから思想や文化・社会を読み解く力、さらにその上に想像力を発揮する力も養いたい。古代インドに見られる様々な思想的、社会的事象を普遍的に捉え、古代インドを超えて広く世界全体を見る視点として生かすことを学ぶ。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 古代インドの歴史と言語          第2回 インド・アーリア人とヴェーダの宗教          第3回 リグヴェーダにおける自然神への崇拜          第4回 ルドラ神への讃歌・祭式(1)リグヴェーダ          第5回 ルドラ神への讃歌・祭式(2)アタルヴァヴェーダ          第6回 ヴェーダ祭式の発展とヤジュルヴェーダ          第7回 ルドラ神への讃歌・祭式(3)ヤジュルヴェーダ          第8回 家畜(牝牛)の繁栄を願う讃歌・祭式(1)リグヴェーダ          第9回 家畜(牝牛)の繁栄を願う讃歌・祭式(2)アタルヴァヴェーダ          第10回 家畜(牝牛)の繁栄を願う讃歌・祭式(3)ヤジュルヴェーダ          第11回 家畜の繁栄とルドラ(シヴァ)信仰について：まとめ          第12回 祭式哲学の発展：地獄遍歴の物語          第13回 ウパニシャッド哲学          第14回 マヌによる世界創造：マヌ法典          第15回 古代インドの宗教思想の発展と社会の変化について：まとめ</p>											
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

毎回授業の際に書く短いレポートを、総合して評価する。

**【教科書】**

必要な資料は授業中に配布する。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

予習は必要ない。毎回の授業で、その日の題材について考えを深め、それを短いレポートに書いて提出する。

**(その他(オフィスアワー等))**

サンスクリット文献全般について学ぶために、サンスクリット文献史(叙事詩以降)も受講することが望ましい。また、インド思想のその後の展開を知るためには、インド哲学史を受講することをすすめる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系10

科目ナンバリング		U-LET13 11604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義) History of Sanskrit Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット文献史（叙事詩以降）									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、インド二大叙事詩『マハーバーラタ』（「偉大なるバラタ族の物語」）と『ラーマヤナ』（「ラーマの勲」）以降に作られたサンスクリット文献について、分野別とその歴史的背景と内容を多角的な視点をもって概説する。これを通じて、インド古代・中世の思想、文化、社会の基本的枠組みを学び、理解することを授業の目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>インド古代・中世の思想、文化、社会を形づくる基本的枠組みを学び、理解することにより、関心ある主題に関して自学する能力が育まれることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 サンスクリット文献全般と授業で扱う分野の概説          第2回 二大叙事詩の内容と特徴          第3回 二大叙事詩の成立過程          第4回 叙事詩成立の歴史的背景          第5回 ダルマと人生の四大目的（法、実利、愛、解脱）          第6回 法典文献と政治学文献          第7回 ヒンドゥー教の形成：一神教信仰の成立とヒンドゥー神話          第8回 古伝承文献（プラーナ）の内容概観・形成史          第9回 プラーナの世界観・時間観          第10回 インドにおける説話：動物寓話と大説話          第11回 サンスクリット美文学（カーヴィヤ）のジャンル・内容概観          第12回 サンスクリット詩の諸特徴          第13回 演劇と美的体験の理論          第14回 詩学の発展、カーヴィヤの形成期から成熟期          第15回 全体の総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（70％）と期末レポート（30％）により評価する。											
【教科書】											
<p>教科書は特に使用しない。参照すべき資料は、授業内容に合わせて適宜紹介され、PandAにアップロードされる。叙事詩と説話、カーヴィヤについては、世界歴史大系「南アジア史1：先史・古代」（山崎元一・小西正捷編）山川出版社（2007年）の「第9章：文学史の流れ」を主たる教材とする。</p>											
系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)(講義)(2)

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

各ジャンルごとの参考文献リストをPandAにアップロードする。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習は必要ない。授業中に配布する資料などを使って、講義内容の復習をすること。また、平常点評価と授業の双方向性を保つために、ほぼ毎回授業のポイントや質問などをPandAの課題にアップロードしてもらう(要半時間から1時間程度)。

**(その他(オフィスアワー等))**

サンスクリット文献全般について学ぶためには、サンスクリット文献史(ヴェーダ文献)、インド哲学史(前期と後期)も合わせて受講することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系11

科目ナンバリング		U-LET13 11702 LJ36										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語	
題目		History of Indian Philosophy A										
【授業の概要・目的】												
<p>This class aims to give an overview of the most influential traditions of Indian philosophical thought and to present brief summaries of the main doctrines as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義では、インドの哲学的思想において最も影響力をもっていた哲学諸派を概観します。授業では、それぞれの学派が伝承してきた主な原典を参照しつつ、それぞれの教義について見ていきます。それによって、それらの諸伝統を形成している思想の歴史的発展と、諸伝統の間で交わされた主要な議論について考えていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA（ティーチング・アシスト）による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>												
【到達目標】												
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought.          2) Students will become familiar with the historical development of these themes.          3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions.          4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions.          5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。          2) これらのテーマの歴史的発展を知る。          3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や思想的立場を学ぶ。          4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。          5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>												
【授業計画と内容】												
<p>Week 1. Introduction. Is philosophy the same as tradition, darsana or tarka? How do we study it? Can we compare it to other traditions?</p> <p>Week 2. The Vedas and Upanishads as the source. The argument of infallible tradition. The counter-argument of omniscient founders.</p> <p>Week 3. The grammarians and the language of philosophy. The style and content of Patanjali's Great Commentary. The Vakyapadiya and linguistic monism.</p> <p>Week 4. Abhidharma and the conceptual vocabulary of Buddhist thought.</p>												
系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く												

## 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 5. Yogachara idealism. Phenomenological and ontological emptiness.

Week 6. Nyaya. Knowledge and realism. Liberation through knowledge.

Week 7. Vaishesika categorization. Prasastapada.

Week 8. Samkhya dualism. The Samkhyakarika and the Yuktidipika.

Week 9. Yoga analysis of mental processes. The Yogasutra and its commentaries.

Week 10. Mimamsa hermeneutics. Kumarila and Prabhakara.

Week 11. Advaita Vedanta. Shankara and his followers

Week 12. Visistadvaita and Dvaita Vedanta. Theistic interpretations. Ramanujan and Madhva.

Week 13. Shaiva Siddhanta and Isvarapratyabhijna. Shaiva dualism and non-dualism

Week 14. Navya Nyaya. The Tattvacintamani and its influence on all schools of thought.

Week 15. Review.

第1週：序章。インド「哲学」は、インド思想における「ダルシャナ」や「タルカ」といった伝統と同じか？また、どのようにしてそれを学ぶのか？あるいは、他の伝統と比較することは可能なのか？

第2週：インド思想の資料としてのヴェーダとウパニシャッドについて。「無謬」についての伝統的な議論について。全知者としての創造者に対する反論。

第3週：文法学者と哲学の言語について。パタンジャリの『大注解』の文体と内容。バルトリハリの『ヴァーキャパディーヤ』と言語的一元論について。

第4週：アビダルマ思想および仏教の思想に見られる概念的な語彙について。

第5週：ヨーガーチャラ（瑜伽行）派の観念論（唯心論）。現象学のおよび存在論的な「空」の思想について。

第6週：ニヤーヤ学派の知識論と実在論。彼らの考える「知識による解脱」とは。

第7週：ヴァイシェシカ学派のカテゴリー論について。プラシャスタパーダによる著作を中心に。

第8週：サーンキヤ学派の二元論について。『サーンキヤ・カーリカー』と『ユクティ・ディーピカー』を中心に。

第9週：精神的なプロセスについてのヨーガ学派の考え方について。『ヨーガ・スートラ』とその注釈書を中心に。

第10週：ミーマーンサー学派の聖典解釈学について。クマーリラとプラバーカラの思想について。

第11週：アドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の不二一元論）について。シャンカラとその弟子たちの思想的伝統について。

第12週：ヴィシシュタ・アドヴァイタ（ヴェーダント学派の限定（制限）不二一元論）とドヴァイタ・ヴェーダント（ヴェーダント学派の二元論）について。有神論的な解釈について。ラーマヌジャとマドゥヴァの思想。

第13週：シャイヴァ・シッダント（シヴァ教の伝統）と『イーシュヴァラ・プラティヤビジュニ

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

ャー』について。シヴァ教の二元論と一元論。

第14週：ナヴィヤ・ニヤーヤ（新ニヤーヤ学派）について。『タットヴァ・チンターマニ』の内容と、その思想が他のすべての諸学派へ与えた影響について。

第15週：まとめ。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

【教科書】

Garfield, Jay 『Treatise on the Three Natures (Trisvabhavanirdeśa)』 ( Oxford University Press ) ( pp. 35-45 in William Edelglass and Jay Garfield (eds.), Buddhist Philosophy: Essential Readings. 2009 )

Franco, Eli 『On the Periodization and Historiography of Indian Philosophy.』 ( Publications of the De Nobili Research Library ) ( Periodization and Historiography of Indian Philosophy. Vienna 2013. )

Halbfass, Wilhelm 『The Sanskrit Doxographies and the Structure of Hindu Traditionalism』 ( : State University of New York Press ) ( India and Europe: An Essay in Understanding. Albany, 1988 )

Materials distributed in class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

Details provided in class.

【授業外学修（予習・復習）等】

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

（その他（オフィスアワー等））

It is desirable to continue with Indian Philosophy B in the next semester to study the content of the Indian Philosophical traditions in relation to specific themes, especially ontology and epistemology.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系12

科目ナンバリング		U-LET13 11704 LJ36										
授業科目名 <英訳>		系共通科目(インド哲学史)(講義) History of Indian Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語	
題目		History of Indian Philosophy B										
【授業の概要・目的】												
<p>This class aims to give an overview of the most influential themes and problems debated in the Indian philosophical traditions as presented in original sources. We will study the historical development and the main debates that shaped these traditions.</p> <p>本講義は、インドの哲学的伝統において最も影響力のあったテーマや、諸伝統の間で長年議論されてきた諸問題について概観します。授業では、原典の資料を紹介しながらそれぞれのテーマについて見ていきます。授業ではサンスクリット語によって書かれた原典を参照しますが、サンスクリット語の知識が必須というわけではありません。また、本講義は英語で進められますが、TA（ティーチング・アシスト）による日本語の簡単な解説も同時に行われます。</p>												
【到達目標】												
<p>1) Students will learn about the principal themes and problems discussed in Indian philosophical thought.</p> <p>2) Students will become familiar with the historical development of these themes.</p> <p>3) Students will study the main arguments and positions upheld by competing traditions.</p> <p>4) Students will study the most important intra-system debates that shaped the development of these traditions.</p> <p>5) Students will compare the main concepts and methods of Indian philosophical thought with the beliefs of other philosophical traditions.</p> <p>1) インドの哲学思想で論じられている主要なテーマや問題について学ぶ。</p> <p>2) これらのテーマの歴史的発展を知る。</p> <p>3) インド思想の諸伝統によって支持されている主な議論や立場を学ぶ。</p> <p>4) これらの伝統の発展に寄与した重要な議論について学ぶ。</p> <p>5) インド哲学思想の主な概念や思考方法を、他の哲学的伝統の考え方と比較する。</p>												
【授業計画と内容】												
Week 1. Introduction. Metaphysics, Ontology, Epistemology and Cosmology.												
Week 2. Pramana Epistemology. What is an instrument of knowing? How many instruments are there?												
Week 3. Perception												
Week 4. Error and Doubt. What is error? How many types of doubt are there?												
Week 5. Inference. How can vyapti be established?												
Week 6. Verbal cognition. The relationship between word and meaning. What is a referent?												
----- 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)へ続く -----												

## 系共通科目(インド哲学史)(講義)(2)

Week 7. Analogy. Is analogy reliable?

Week 8. Other means of knowledge.

Week 9. Competing ontologies. Elements, categories, or phenomena? Substances, qualities and relations.

Week 10. Theories of Causation.

Week 11. Transformatio, evolution, agency and action.

Week 12. The nature and qualities of the self.

Week 13. Non-existence.

Week 14. Theories of Time.

Week 15. Review.

- 第1週：序章。インド思想における重要なテーマ、形而上学、存在論、認識論、宇宙論について。  
第2週：プラマーナ（認識論）について。正しく知るための道具とは何か？それはいくつあるのか？  
第3週：正しい認識方法1。直接知覚について。  
第4週：誤謬と疑いについて。認識における誤謬（誤り）とは何か？疑いにはどのような種類があるのか？  
第5週：正しい認識方法2。推論について。推論における遍充関係はどのようにして確立されるのか？  
第6週：正しい認識方法3。ことばによる認識について。ことばと意味の関係とは。ことばの指し示す対象とは何か？  
第7週：正しい認識方法4。類推について。類推による認識は、正しい認識根拠として信頼できるのか？  
第8週：その他の知識の手段について。  
第9週：インド思想において論争される存在論について。存在は要素なのか、カテゴリーなのか、または現象なのか？物質と、性質、そしてそれらを結びつける諸関係について。  
第10週：因果関係に関する理論。  
第11週：物事の変様と展開について。行為の主体と行為について。  
第12週：自己の本質と性質について。  
第13週：非存在について。  
第14週：インド思想における時間の理論について。  
第15週：まとめ。

### [履修要件]

特になし

系共通科目(インド哲学史)(講義)(3)

**[成績評価の方法・観点]**

Class work 60%. Final paper to be submitted in week 15: 40%.

**[教科書]**

Details provided in class.

**[参考書等]**

(参考書)

Taber, John 『A Hindu Critique of Buddhist Epistemology: Kumarila on Perception』 (Routledge) (London and New York:, 2005. )

Westerhoff, Jan 『The Dispeller of Disputes: Nagarjuna ' s Vignahavyavartani. 』 ( Oxford University Press ) ( 2010 )

Dravid, N. S. 『A Bouquet of Flowers of Reasoning (Nayakusumanjali)』 ( Indian Council of Philosophical Research ) ( New Delhi 1996 )

Details provided in class.

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Preparation consists of reading short articles and text passages in advance for the next week.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系13

科目ナンバリング		U-LET14 11802 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、インドで大乗仏教が興るまでの思想史の流れを概説する。仏教誕生の背景から仏教教義が体系化されていく様子を初期仏教、部派仏教の順に追う。											
【到達目標】											
大乗仏教興起以前のインド仏教の特徴的な思想について、基本的な事項を理解した上で、全体の流れを把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
第1回 序論：仏教と仏教学 第2回 仏教誕生の背景 第3回 仏陀の生涯 第4回 初期仏教：基本的な教説 第5回 初期仏教：教説の特徴 第6回 初期仏教：教団の発展 第7回 部派仏教：アショーカ王と教団の分裂 第8回 部派仏教：阿含（アーガマ）と論（アビダルマ） 第9回 説一切有部の思想：概説 第10回 説一切有部の思想：その世界観 第11回 説一切有部の思想：五位七十五法の成立 第12回 説一切有部の思想：五位七十五法 第13回 説一切有部の思想：因果説と縁起解釈 第14回 説一切有部の思想：実践と聖者の階位 第15回 フィードバック											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の仏教学講義をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業期間中の十回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習の必要がある時は、授業中に指示する。  
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系14

科目ナンバリング		U-LET14 11804 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(仏教学)(講義) Buddhist Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		インド・チベット仏教思想史									
【授業の概要・目的】											
インド・チベット仏教思想史のうち、経量部の思想を含め、インドで大乗仏教が興って以降の思想史の流れを概説する。大乗仏教の興起とその展開を、大乗經典、中観学派、唯識学派、密教の順に追う。さらにチベット仏教について、国家仏教としての色彩の濃い前伝期の仏教と、宗派仏教の性格を持つ後伝期に現れる諸宗派の特徴的な思想を概説する。											
【到達目標】											
インド・チベットにおける大乗仏教興起以降の特徴的な思想について、基本的な事項を理解し、全体の流れも把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
毎回の授業内容は、おおよそ以下の通りである。											
<p>第1回 経量部の思想：概説</p> <p>第2回 経量部の思想：三世実有説批判と五位七十五法の整理</p> <p>第3回 大乗運動と大乗經典：概説</p> <p>第4回 大乗運動と大乗經典：空性と慈悲</p> <p>第5回 中観学派の思想：概説</p> <p>第6回 中観学派の思想：『中論』に説かれる縁起と空</p> <p>第7回 唯識学派の思想：概説とアールヤ識</p> <p>第8回 唯識学派の思想：三性説と空性理解</p> <p>第9回 仏教論理学派</p> <p>第10回 中期中観派</p> <p>第11回 後期インド仏教と密教</p> <p>第12回 前伝期のチベット仏教</p> <p>第13回 後伝期の仏教諸派の思想1（カダム派、サキャ派、カギユ派）</p> <p>第14回 後伝期の仏教諸派の思想2（ニンマ派、ジョナン派、ゲルク派）、宗派折衷運動、ボン教の歴史と思想</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
【履修要件】											
特にないが、後期の授業は前期の内容を引き継ぐものなので、前期の仏教学講義を受講していることが望ましい。											
----- 系共通科目(仏教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(仏教学)(講義)(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業期間中の十回程度の課題（50％）と筆記試験（50％）を行い、インド仏教とチベット仏教の思想の流れと、個々の思想に対する理解にしたがって評価する。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習の必要がある時は、授業中に指示する。  
授業内容に馴染みがないことが多いと思われるので、毎回の授業後に復習が必要である。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芭蕉研究									
【授業の概要・目的】											
<p>俳諧は、俳句の源流とされる短詩型文芸である。近世初期、俳諧は文学ジャンルとして確立し、以来、急速な成熟と変容を遂げた。そのような俳諧史の変革に最も意識的に与した人物に、芭蕉がいる。芭蕉は、同時代より近現代に到るまで日本文学史上の重要人物とされており、文学・文化・思想における影響力は甚大である。本講義では、最新の研究状況を踏まえ、その文学的特性や表現上の妙味について実践的に把握することを目指す。</p> <p>前期は、まず、芭蕉の伝記と作品および後世への影響について、文学史の展開を踏まえつつ、具体的な資料に基づいて講義する。その上で、芭蕉作品の精読を行う。作品の生成過程を吟味しつつ、関連資料の運用方法を学びながら、一字一句に込められた作意を繙くことで、作品を実証的に解釈する手法を身につける。</p> <p>後期は、近世文学研究を行う上で重要な資料であり、芭蕉の作品とも分かちがたく結びつく書簡資料を取り上げる。書簡資料を扱う上での入門的な講義を行った上で、芭蕉書簡の読解に取り組む。内容に関連する芭蕉の作品や、伝記上の問題、俳壇状況、芭蕉の思想・人間性など、俳諧史の諸問題と併せて解説し、芭蕉の文事を史的動態の中に位置づける。</p> <p>芭蕉は、文学作品・書簡を含めた「ふみ」の持つ力について、きわめて意識的な人物として特筆される。本講義の主体的な受講を通して、文学および文学研究の意味について、各自が考察を深めることを期待する。</p>											
【到達目標】											
<p>近世前期から中期にかけての俳諧史と、諸派の俳諧の特性を把握し、その動態の中で、芭蕉文学の特性を説明できるようになる。芭蕉作品の生成過程の諸相を理解し、関連資料を適切に運用しつつ、作品を精密に読解できるようになる。くずし字の読解能力を身につけ、俳諧作品や書簡資料を読解できるようになる。テキストにおける良質な問題点を自ら発見し、それを実証的方法によって解決できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 芭蕉の伝記と作品(1) 寛文</li> <li>3. 芭蕉の伝記と作品(2) 延宝・天和</li> <li>4. 芭蕉の伝記と作品(3) 貞享</li> <li>5. 芭蕉の伝記と作品(4) 元禄元年～元禄2年</li> <li>6. 芭蕉の伝記と作品(5) 元禄3年～元禄4年</li> <li>7. 芭蕉の伝記と作品(6) 元禄5年～元禄7年</li> <li>8. 芭蕉の伝記と作品(7) 芭蕉の臨終とその後</li> <li>9. 芭蕉の伝記と作品(8) 後世への影響</li> <li>10. 『奥の細道』精読(1) 概説</li> <li>11. 『奥の細道』精読(2) 深川</li> <li>12. 『奥の細道』精読(3) 千住</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

13. 『奥の細道』精読(4) 草加
14. 『奥の細道』精読(5) 室の八島
15. 『奥の細道』精読(6) 日光、前期のまとめ
16. 書簡資料概説
17. 往来物読解(1) 往信
18. 往来物読解(2) 返信
19. 俳人の書簡(前半)
20. 俳人の書簡(後半)
21. 芭蕉書簡精読(1) 麿峙宛(前半)
22. 芭蕉書簡精読(2) 麿峙宛(後半)
23. 芭蕉書簡精読(3) 曲翠宛(冒頭)
24. 芭蕉書簡精読(4) 曲翠宛(「風雅の道筋」～)
25. 芭蕉書簡精読(5) 曲翠宛(「路通事は」～)
26. 芭蕉書簡精読(6) 杉風宛(前半)
27. 芭蕉書簡精読(7) 杉風宛(後半)
28. 芭蕉書簡精読(8) 松尾半左衛門宛
29. 総括
30. フィードバック

授業の進行度や受講者の理解度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、内容や順序等を変更する場合がある。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点(30%)、小テスト(20%)、年度末のレポート(50%)による。平常点は、授業への参加度や、毎回提出されるコメント等によって評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、小テストを課題提出に変更する可能性がある。

### 【教科書】

使用しない  
プリントを配布する。

### 【参考書等】

(参考書)  
鈴木勝忠 『俳諧史要』(明治書院、1973)  
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

版本文・写本および書簡資料など文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。配付資料の予習・復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。くずし字を自在に読み解く力を身につけることは、各人の研究活動の幅を広げることとなる。また、書簡資料に馴染みのない場合、活字化された書簡集を読むなどして書簡の文体に親しむことが、読解能力の向上を

国語学国文学(特殊講義)(3)へ続く

国語学国文学(特殊講義)(3)

支えるであろう。

俳諧は、和漢雅俗にわたる文化現象を取りこむ文芸であるから、日頃より幅広い読書を心がけることが望ましい。また、授業で扱わない芭蕉作品や、前時代・同時代の俳人の作品についても、積極的に読解を試みてほしい。講義内容を精緻かつ俯瞰的に理解する助けとなるはずである。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系16

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 草大			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代日本語表記の史的変遷									
【授業の概要・目的】											
<p>日本語の歴史を、「古代語」（奈良時代以前から鎌倉時代まで）と「近代語」（室町時代から現代まで）に2分する捉え方があります。この授業では、後者すなわち近代語における文字・表記の歴史を概説します。</p> <p>表記は「どのような文字・符号を用いるか（形態）」と「それらの文字・符号をどのように用いるか（運用）」という2つの観点から捉えることができますが、本講義ではこの両観点から、近代日本語がどのように表記されてきたかを通観します。また、それぞれのトピックについて、先行研究等をもとに、より専門的な問題や知見を紹介します。</p>											
【到達目標】											
<p>近代日本語の表記法の歴史を下記の2方向から理解し、説明できる。</p> <p>(1) どのような文字・符号を用いるか。 (2) それらの文字・符号をどのように用いるか。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：講義概要、総説（表記史）          第2回：古代日本語表記の概要          第3回：中世後期～近世の日本語表記の概要          第4回：漢字仮名交じり文          第5-6回：仮名遣い          第7-8回：候文          第9-10回：真名本          第11-13回：論文講読          第14回：期末試験1          第15回：フィードバック</p> <p>* * *</p> <p>第16回：近代（狭義）の日本語表記の概要          第17回：印刷技術          第18回：補助符号          第19回：ローマ字          第20回：点字と速記          第21-22回：近現代国語施策：漢字          第23-24回：近現代国語施策：仮名          第25回：外来語の表記</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

第26回：人名用漢字  
第27-28回：論文講読  
第29回：期末試験2  
第30回：フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

2度の期末試験：70%  
平常点（授業コメントなど）：30%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示する参考文献を読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31330 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「孟子」の思想を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業の最大の目的は、漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることである。そのため前期の中盤までは、漢文とその読み方について概説をする。</p> <p>概説の後には、実際の漢文読解の段階に進む。今年度はテキストに「孟子」の代表的な注釈書である清・焦循『孟子正義』を用いる。孟子については性善説など高校の授業でその思想に触れたことのある人も多いだろう。本授業では、原典を自分で読むことを通じて、孟子の思想と向き合ってみよう。その際、清朝の焦循が著した孟子の代表的な注釈書である『孟子正義』に導かれつつ読む。中国古典の読解に欠かせない「注釈」の意義を実感し、またその形式に慣れてもらうためである。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、漢文読解の経験、専攻分野を問わず、様々な興味関心から多くの学生の参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。</li> <li>2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。</li> <li>3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。</li> <li>4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。</li> <li>5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>最初のうちは講義形式で進める。時にその内容の定着を見る問いを発し、それに出席者に答えてもらう場合もある。</p> <p>焦循『孟子正義』を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画、発言を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 漢籍に触れる：漢籍の歴史、形態について</li> <li>3・4 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳について</li> <li>5・6 漢文の読み方：典故について</li> <li>7・8 漢文の読み方：注釈について</li> <li>9 『孟子』とその注釈：その成立と趙岐、朱熹、焦循らによる注釈について</li> <li>10～30 『孟子正義』の読解と討議（梁恵王章句上から）</li> </ol> <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

**【教科書】**

授業中に指示する  
テキストはコピーして配布する。

**【参考書等】**

（参考書）  
授業中に紹介する

**【授業外学修（予習・復習）等】**

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系18

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治～昭和に活躍した作家である。この授業では、その文学・作品のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は教室で対面で行う。授業は、Zoomの画面共有により、教員がPandAのリソースに置いた論文を読む形で行うので、受講生は教室にパソコンを持参すること。</p> <p>受講生は、授業に関する質問・意見を全体で4回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。授業後に修正した論文をPandAのリソースに置くので、受講生は復習に利用する。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること。従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)、鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車</p> <p>第2回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔</p> <p>第3回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔</p> <p>第4回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉姫と飛天夜叉</p> <p>第5回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家</p> <p>第6回 鏡花文学における「魔」の女性像 前の世</p> <p>第7回 鏡花文学に見られる「魔」関連語彙</p> <p>第8回 鏡花における美女と「魔」</p> <p>第9回 泉鏡花「山海評判記」の概要</p> <p>第10回 「山海評判記」の材源</p> <p>第11回 泉鏡花への柳田国男の影響</p> <p>第12回 「半島一奇抄」の素材</p> <p>第13回 「山海評判記」の構想</p> <p>第14回 「山海評判記」周辺作品の構想</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>理解の程度にあわせて進度や内容を調整する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

授業に関して自分で疑問に思ったことや、考えたり調べたりしたことを提出するのが4割(4回、各10点)、レポート6割(60点)。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

**【教科書】**

PandAのリソースに資料や論文等を置く。

**【参考書等】**

(参考書)  
授業中に紹介する

**【授業外学修(予習・復習)等】**

教員の講義・論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見をPandAに提出する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系19

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		久生十蘭と芥川龍之介									
【授業の概要・目的】											
<p>久生十蘭と芥川龍之介は大正～昭和に活躍した作家である。この授業では、その代表作のモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を行う。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。授業は教室で対面で行う。Zoomの画面共有により、教員がPandAのリソースに置いた論文を読む形で行うので、受講生は教室にパソコンを持参すること。</p> <p>受講生は、授業に関する質問・意見を全体で4回(各回600～800字で締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員はPandAを通じてそれに答える。期末にはレポート(4000字)を提出する。授業後に修正した論文をPandAのリソースに置くので、受講生は復習に利用する。</p> <p>研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、第1回目の講義に必ず出席すること。</p>											
【到達目標】											
<p>久生十蘭や芥川龍之介に関する研究内容の把握が出来ること。従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス(研究方法や心構えなど、重要な伝達があるので、必ず出席すること)。久生十蘭の生涯と文学。「重吉漂流記」について</p> <p>第2回 「重吉漂流記」と「藤九郎の島」</p> <p>第3回 「藤九郎の島」</p> <p>第4回 「ボニン島物語」の材源と構想</p> <p>第5回 「ボニン島物語」の主題</p> <p>第6回 「鈴木主水」の概要</p> <p>第7回 「鈴木主水」の材源</p> <p>第8回 「鈴木主水」の主題</p> <p>第9回 芥川龍之介の生涯と文学。「神神の微笑」の概要</p> <p>第10回 「神神の微笑」の材源</p> <p>第11回 「神神の微笑」の主題</p> <p>第12回 芥川龍之介「忠義」の概要</p> <p>第13回 「忠義」の材源</p> <p>第14回 「忠義」の主題</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整する。</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業に関して疑問に思ったことや、自分で考えたり調べたりしたことを提出するのが4割(4回、各10点)、レポート6割(60点)。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

### 【教科書】

PandAのリソースに資料や論文等を置く。

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義・先行論文の内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、質問や意見等をPandAに提出する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系20

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々と表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念を簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 古事記概説</li> <li>2 日本書紀概説</li> <li>3 万葉集概説</li> <li>4 調査研究法</li> <li>5 古事記歌謡の特質</li> <li>6 日本書紀歌謡の特質</li> <li>7 「古代歌謡」について</li> <li>8 実例演習 倭建尊命歌謡</li> <li>9 実例演習 素盞烏尊歌謡</li> <li>10 実例演習 風土記歌謡と東歌</li> <li>11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革</li> <li>12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革</li> <li>13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

14 歌経標式の歌体理論について

15 今期のまとめ

8回から10回は受講生に課題を与えるのでこれまでの議論を踏まえて実際に演習形式で研究発表をしてもらいます。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

### 【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』(和泉書院)(レポート作成に使用するので購入しておくこと)  
井手至 『校注萬葉集』(和泉書院)  
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』(岩波書店)(岩波文庫本です。)

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1)参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2)また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

### (その他(オフィスアワー等))

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系21

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		国語史特殊研究									
【授業の概要・目的】											
<p>日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。「古代歌謡」とも称されるその一群はその限りに於いて万葉集などの「古代和歌」とは別に扱われ、ときとして万葉集の作品群から「古代歌謡」的な要素を抽出することが試みられもしている。その議論は万葉歌に先行する民族的要素の強い記紀歌謡の存在という時代的な先後関係と、それに依拠した影響・受容関係を想定した分析である。しかしながら、後世に象られた「古代歌謡」という概念はそもそもが作業仮説であって、記紀という作品に縛られた以上に実体があるわけではない。さらに記紀編纂以前の伝承歌があったとしても、8世紀当時の彼らに我々の「古代歌謡」があるわけではない。そもそも影響関係が辿れるということは「古代歌謡」と「古代和歌」を同一次元に措いた議論であるが、そのことへの自覚的な分析は十分に試みられたとはいえないように思われる。この点で、記紀歌謡を万葉集の歌々とを表現・修辞の方法という観点で同列に見なし、記紀歌謡の一群を万葉集に包摂するとどのように位置づけられるかを考えてみたい。この逆は用例数が異なるため記紀歌謡で万葉集を包摂することはあまり意味をなさない。結局、雑歌・相聞・挽歌があるということに落ち着くからである。すなわち記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みるのが、本講義の目的である。方法は、従来の古典分析とさして変わらない。訓詁として文法史、語彙史の方法が行われるのは当然のことながら、とくに書紀歌謡については漢字音が問題になるため、音韻史、文字史、表記史についての知見が必要になる。日本語学文献講読論IIIと関連する国語学分野の科目を予め受講しておくことが望ましいが、並行して受講することも許容する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代日本和歌の淵源について基礎研究の成果を共有するとともに、新たな研究領域を構築することを目的として、次の2点を到達目標とする。1) 古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念を簡潔に説明できること。2) 教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 古事記概説(研究史)</li> <li>2 日本書紀概説(研究史)</li> <li>3 万葉集概説(研究史)</li> <li>4 調査研究法(「初期万葉」と「記紀歌謡」その定義の在り方)</li> <li>5 古事記歌謡の特質</li> <li>6 日本書紀歌謡の特質</li> <li>7 「古代歌謡」について(「歌の共有」がもたらすもの)</li> <li>8 実例演習 担当者による演習</li> <li>9 実例演習 担当者による演習</li> <li>10 実例演習 担当者による演習</li> <li>11 歌謡の歌体について 長歌歌体沿革</li> <li>12 歌謡の歌体について 旋頭歌体沿革</li> <li>13 実例演習 催馬楽、琴歌譜の課題</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義)(2)

- 14 歌経標式の歌体理論と万葉集内部にみる「歌病歌」の分布  
15 まとめ

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験70%、平常点30%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。その採点基準は、問題設定30点、解決方法50点、結論20点の100点満点で評価する。なお口頭発表を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

### 【教科書】

坂本信幸・毛利正守 『萬葉事始』（和泉書院）  
井手至 『校注萬葉集』（和泉書院）  
大谷雅夫他 『萬葉集 一～四』（岩波書店）（岩波文庫です。）

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

次の2点を通常の授業外学習とする。1）参考文献として掲出している関連論文を要約して、研究史のレポートを作成すること。2）また配付資料を予め検討して講義中の質疑応答の準備をすること。

### （その他（オフィスアワー等））

火曜日の13:00～14:00、木曜日の14:40～15:30まで。ただし、木曜日は会議が入りやすいので、事前に確認して欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 東洋文化学系22

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 長谷川 千尋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『九代抄』（春夏雑）講読									
【授業の概要・目的】											
『九代抄』は、『後撰和歌集』から『続後撰和歌集』に至る九代の勅撰和歌集から、連歌、和歌の創作に資すると考えられたであろう1500首の秀歌を抄出したものである。文亀三年（1503）肖柏の奥書が備わる。加注本も『九代抄』『九代集抄』の二種が翻刻されているが、後者と少しく異なる別種注の存在も確認される。そこで、以上三種の古注に、『九代抄』古注を批判した貞徳の『九六古新註』を加え、各説を比較検討しつつ問題点を考察する。前期は春、夏、雑部を対象として問題となる箇所を講読し、以て『九代抄』注の性格や成立事情を探る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。</li> <li>・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『九代抄』の成立</li> <li>2. 『九代抄』の諸本</li> <li>3. 『九代抄』『九代集抄』講読（春1～63）</li> <li>4. 『九代抄』『九代集抄』講読（春64～118）</li> <li>5. 『九代抄』『九代集抄』講読（春119～169、夏170～194）</li> <li>6. 『九代抄』『九代集抄』講読（夏195～265）</li> <li>7. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑955～1037）</li> <li>8. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1038～1102）</li> <li>9. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1103～1184）</li> <li>10. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1185～1246）</li> <li>11. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1247～1317）</li> <li>12. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1318～1378）</li> <li>13. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1379～1439）</li> <li>14. 『九代抄』『九代集抄』講読（雑1440～1500）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末レポートに拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の視点で課題を設定し、実証的に結論を導き出しているものを高く評価する。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない  
プリント配布。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

レポート課題のテーマの選定、調査、論述が中心となる

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系23

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 長谷川 千尋			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『九代抄』（秋冬恋）講読									
【授業の概要・目的】											
『九代抄』は、『後撰和歌集』から『続後撰和歌集』に至る九代の勅撰和歌集から、連歌、和歌の創作に資すると考えられたであろう1500首の秀歌を抄出したものである。文亀三年（1503）肖柏の奥書が備わる。加注本も『九代抄』『九代集抄』の二種が翻刻されているが、後者と少しく異なる別種注の存在も確認される。そこで、以上三種の古注に、『九代抄』古注を批判した貞徳の『九六古新註』を加え、各説を比較検討しつつ問題点を考察する。後期は、前期に引き続き、秋、冬、恋部を対象として問題となる箇所を講読し、以て『九代抄』注の性格や成立事情を探る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養う。</li> <li>・授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『九代抄』の成立</li> <li>2. 『九代抄』の諸本</li> <li>3. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋266～329）</li> <li>4. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋330～390）</li> <li>5. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋391～451）</li> <li>6. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋452～505）</li> <li>7. 『九代抄』『九代集抄』講読（秋506～559）</li> <li>8. 『九代抄』『九代集抄』講読（冬560～625）</li> <li>9. 『九代抄』『九代集抄』講読（冬626～696）</li> <li>10. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋697～757）</li> <li>11. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋758～816）</li> <li>12. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋817～866）</li> <li>13. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋867～912）</li> <li>14. 『九代抄』『九代集抄』講読（恋913～954）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験（筆記）に拠り、到達目標の達成度に基づき評価する。											
【教科書】											
プリント配布。											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

定期試験の課題に向けての事前準備が中心となる。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 教授 岡崎 友子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語のバリエーションー文法・語彙を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>本講義は、時代、地域(方言)、男女、書き言葉・話し言葉(文体)等、様々なバリエーションをもつ現代日本語の諸相と歴史的变化を学ぶことにより、日本語の多様な姿を理解することを目的とする。特に文法・語彙の用法と歴史的变化を中心に、これまでに明らかにされてきたことを学んでいく。文法史に関しては、自立語(名詞、動詞、形容詞・形容動詞、副詞、接続詞、感動詞)を扱う。文法は体系的に変化しており、そのダイナミックさを感じて欲しい。</p> <p>また、本講義では自らが見つけ出した日本語の問題について発表し、出席者同士で討議することも行う。そこで、講義内で研究用の情報を付与したデータベースであるコーパス(国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語歴史コーパス』等)を使用できるように紹介していく。検索ツール「中納言」の説明、コーパスを有効に用いた研究についても講義していく。</p>											
【到達目標】											
<p>1.現代及び古代日本語(文法・語彙史)における各時代の用法と体系性、歴史の変遷について理解し、説明できる。</p> <p>2.現代及び古代日本語の問題について、自らテーマを設定し議論できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の概要 古代語と現代語の対照研究</p> <p>第2回 「そうだ京都、行こう」現代語の指示詞の用法 直示・非直示 フィラー</p> <p>第3回 「黄昏」は「その人は誰」 古代語の指示詞の用法 歴史的变化</p> <p>第4回 「カラカラ」と笑う 現代・古代日本語のオノマトペ</p> <p>第5回 「かちんうどん」は何うどんなの 位相語 女性のことば</p> <p>第6回 「またまた～」って感動詞? 副詞から接続詞、そして感動詞へ 変化の方向</p> <p>第7回 コーパスとは 「中納言」操作法 『日本語歴史コーパス』解説</p> <p>第8回 コーパスによる日本語研究(現代・古代)</p> <p>第9回 テーマ設定 身近な言葉から</p> <p>第10回 Boom! Boom! 漢語ブーム! 中世・近代における漢語ブーム 明治新漢語</p> <p>第11回 活用のリストラ 二段動詞の一段化をどう捉えるか</p> <p>第12回 「河豚は食いたし命は惜しし」「熱っ!」 形容詞・形容動詞活用 語幹用法</p> <p>第13回 テーマの発表と討議(1)</p> <p>第14回 テーマの発表と討議(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義) (2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

成績は、期末のレポート試験60%、平常点40%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。なお、口頭発表・議論を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

### [教科書]

教科書は使用しない。穴埋めのプリントを授業内で配布する。

### [参考書等]

(参考書)

高山善行・青木博史編 『ガイドブック日本語文法史』(ひつじ書房、2010年) ISBN:978-4-89476-489-7

岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂編 『ココが面白い日本語学!』(ココ出版、2017年) ISBN:978-4-904595-90-9

岡崎友子・森勇太 『ワークブック日本語の歴史』(くろしお出版、2016年)

その他、授業内に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

#### 【予習】

この授業では、穴埋め式の資料(授業内で配布)を使用する。また、このシラバスを見て、事前に参考書にも目を通しておくこと。

#### 【復習】

より理解するために、講義で習ったことを復習し、分からなかったところや疑問点がある場合はメモをするなどして、次の講義で質問すること。

### (その他(オフィスアワー等))

コーパスに興味がある方は「中納言」に登録してみてください。

国立国語研究所・コーパス開発センター：[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/)

国立国語研究所・日本語史研究資料：<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/>

実例詳解古典文法総覧 補遺稿(和泉書院)：

[http://www.izumipb.co.jp/izumi/modules/pico/index.php?cat\\_id=60](http://www.izumipb.co.jp/izumi/modules/pico/index.php?cat_id=60)

リアクションペーパーを配布し、質問は次の授業で答えていきます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学文学部 教授 岡崎 友子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本語のバリエーションー文法・語彙を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>( 授業の概要・目的 )</p> <p>本講義は、時代、地域（方言）、男女、書き言葉・話し言葉（文体）等、様々なバリエーションをもつ現代日本語の諸相と歴史的变化を学ぶことにより、日本語の多様な姿を理解することを目的とする。特に文法・語彙の用法と歴史的变化を中心に、これまでに明らかにされてきたことを学んでいく。文法史に関しては、付属語（助詞・助動詞）を扱っていく。文法は体系的に変化しており、そのダイナミックさを感じて欲しい。</p> <p>また、本講義では自らが見つけ出した日本語の問題について発表し、出席者同士で討議することも行う。そこで、講義内で研究用の情報を付与したデータベースであるコーパス（国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語歴史コーパス』等）を使用できるように紹介していく。検索ツール「中納言」の説明、コーパスを有効に用いた研究についても講義していく。</p>											
【到達目標】											
<p>1.現代及び古代日本語（文法・語彙史）における各時代の用法と体系性、歴史の変遷について理解し、説明できる。</p> <p>2.現代及び古代日本語の問題について、自らテーマを設定し議論できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の概要</p> <p>第2回 「いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり」準体句 接続助詞</p> <p>第3回 「図書館に行く？図書館へ行く？」 格助詞の用法と歴史</p> <p>第4回 歴史的に見られる方言 東歌・防人の歌 『浮世風呂』上方VS江戸</p> <p>第5回 スタンダード（標準語）はどこにある 標準語の制定</p> <p>第6回 なぜ方言はあるのか？ 言語の地域差が生まれるパターン スタイル・レジスター</p> <p>第7回 「君、役割語を学びたまえ」って誰！？ 役割語研究</p> <p>第8回 「なんでやねん、知らんけど」関西弁のイメージ 方言コスプレ</p> <p>第9回 テーマ設定 身近な言葉から</p> <p>第10回 副詞性の助詞 副助詞</p> <p>第11回 係り結びの発生と衰退</p> <p>第12回 テンス・アスペクト 「夕」の表す時間</p> <p>第13回 テーマの発表と討議（1）</p> <p>第14回 テーマの発表と討議（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>											
----- 国語学国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 国語学国文学(特殊講義) (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、期末のレポート試験60%、平常点40%によって評価する。レポート試験の課題は講義中に指示する。なお、口頭発表・議論を受講者に求めることがあるが、これをもって平常点とする。

### 【教科書】

教科書は使用しない。穴埋めのプリントを授業内で配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

小田勝 『実例詳解古典文法総覧』 (和泉書院、2015年) ISBN:978-4757607316

金水敏 『ヴァーチャル日本語役割語の謎』 (岩波書店、2003年) ISBN:978-4000068277

真田信治 『標準語の成立事情 日本人の共通ことばはいかにして生まれたか (PHP文庫)』 (PHP研究所、2001年) ISBN:978-4569576077

その他、授業内で紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

【予習】

この授業では、穴埋め式の資料(授業内で配布)を使用する。また、このシラバスを見て、事前に参考書にも目を通しておくこと。

【復習】

より理解するために、講義で習ったことを復習し、分からなかったところや疑問点がある場合はメモをするなどして、次の講義で質問すること。

(その他(オフィスアワー等))

コーパスに興味がある方は「中納言」に登録してみてください。

国立国語研究所・コーパス開発センター：[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/)

国立国語研究所・日本語史研究資料：<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/>

実例詳解古典文法総覧 補遺稿(和泉書院)：

[http://www.izumipb.co.jp/izumi/modules/pico/index.php?cat\\_id=60](http://www.izumipb.co.jp/izumi/modules/pico/index.php?cat_id=60)

リアクションペーパーを配布し、質問は次の授業で答えていきます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(特殊講義) Japanese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 田中 則雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		後期読本の成立と展開									
【授業の概要・目的】											
<p>1700年代の中葉から後半にかけて都賀庭鐘・上田秋成らによって制作された初期読本に比して、1800年代初め頃から、山東京伝・曲亭馬琴の先導によって成立した後期読本には、幾つかの際立つ特質がある。</p> <p>その一つに、初期読本が短編中心であるのに対し、後期読本は長編中心であるという点が挙げられ、馬琴の『南総里見八犬伝』がその典型として知られる。かくて、後期読本を長編小説という観点から把握することを、本講義の基盤に据える。</p> <p>長編小説であるということは、単に分量の問題ではない。そこには、全編を大きな統一体として括り、構造をもたらすための型が用いられている。</p> <p>後期読本の作者たちは、中国白話小説、仏教長編説話、演劇（浄瑠璃・歌舞伎）、実録などの他ジャンルの作を典拠として取り込みつつ、そこから独自の長編構造を持つ小説へと作り上げていった。</p> <p>また、江戸には京伝・馬琴以外にも特色有る作法を有する作者がおり、一方上方においても独特の作風が形成された。</p> <p>以上のような後期読本の諸相について、具体例に即しつつ考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>後期読本における典拠の受容やその展開のさせ方などを分析することにより、長編小説における構造の問題を理解する。</p> <p>後期読本は、貸本屋を通じて広い範囲の読者に愛好され、明治期に至っても活字本が刊行され読み継がれた。後期読本を探究することにより、近世から近代へと続く文化の重要な一面を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.概要説明 後期読本の成立と展開に関する諸問題</li> <li>2.長編構成の方法</li> <li>3.後期読本における「因果」</li> <li>4.後期読本における「転生」</li> <li>5.中国白話小説の受容</li> <li>6.仏教長編説話の受容(1)大江文坡の仏教長編説話</li> <li>7.仏教長編説話の受容(2)山東京伝の読本における受容</li> <li>8.仏教長編説話の受容(3)曲亭馬琴の読本における受容</li> <li>9.演劇の受容(1)曲亭馬琴・小枝繁の読本における受容</li> <li>10.演劇の受容(2)栗杖亭鬼卵の読本における受容</li> <li>11.実録の受容(1)速水春暁齋の読本における受容</li> <li>12.実録の受容(2)栗杖亭鬼卵の読本における受容</li> <li>13.江戸読本と上方読本</li> <li>14.総括 後期読本の特質</li> <li>15.濱田啓介文庫の後期読本</li> </ol>											
----- 国語学国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

国語学国文学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点（講義時の課題やコメント等）（20%）、レポート（80%）

**[教科書]**

講義資料を配付する。

**[参考書等]**

（参考書）

田中則雄『読本論考』（汲古書院、2019年）

（関連URL）

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>(国文学研究資料館「新日本古典籍総合データベース」には、後期読本の画像が多数収録されている。)

**[授業外学修（予習・復習）等]**

講義中にも言及するが、濱田啓介文庫（文学研究科図書館）、貸本屋大野屋惣八（大惣）旧蔵本（附属図書館）には多くの後期読本が含まれる。後期読本においては、本の形態（外形）、そこに収録される当時一流の画師たちによる挿絵なども重要な意味を持つので、積極的に原本を閲覧されたい。

（その他（オフィスアワー等））

メールによる質問等を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系27

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		鈴鹿本『今昔物語集』の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>京都大学が所蔵する鈴鹿本『今昔物語集』（国宝）をとりあげ、演習形式で研究を行う。説話、漢字片仮名交り文、和漢混淆文についての基礎知識を獲得し、資料を日本語史・日本文学の研究資料として使用するための方法・視点を学ぶことを目的とする。授業では、調べ、考える楽しさを重視する。</p>											
【到達目標】											
<p>説話、漢字片仮名交り文、和漢混淆文についての基礎知識を獲得する。様々な工具書を用いて資料を読解し、そこに現れた日本語表現について考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本演習では、京都大学が所蔵する鈴鹿本『今昔物語集』（国宝）をとりあげ、その研究を行う。具体的には、資料を一文字ずつ読みながら、読解・注釈を行い、その過程で、出典・表記・音韻・文法・語彙といった種々の方面から検討を加える。説話、日本語史、古辞書に興味がある人には面白いものとなる。</p> <p>年度はじめ数回をイントロダクションにあてる。その後、受講者による発表形式で進める。発表者は担当部分から問題点を見つけ出し、発表する。授業では受講者からの積極的な発言を歓迎し、活発な議論が行われることを期待している。</p> <p>第1回イントロダクション  第2回イントロダクション、担当決め  第3回～第29回発表と議論  第30回まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績は発表によって評価し、授業中の発言等を平常点として加味する。発表の機会がなかった者は発表に相当するレポートをもって評価する。</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**[教科書]**

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000125>

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者全員がその時間に取り上げる該当部分について予習した上で授業にのぞむこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 金光 桂子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		歌合を読む									
【授業の概要・目的】											
新古今時代の歌壇における最大の催しであった『千五百番歌合』より、藤原俊成が加判した春四（二百二十六番～）を精読する。歌合の和歌を判詞とともに読むことにより、和歌を正確に解釈するとともに、当時の和歌観を踏まえて鑑賞することをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本歌や用例の調査に基づいて、和歌を正確に解釈する方法を習得する。</li> <li>・歌合の判詞をもとに、当時の和歌観に即した和歌の評価ができるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 授業の目的や進め方を説明し、受講者の担当部分と発表順を決める。											
第2回 二百二十六番を例に、調べ方やレジユメの作り方について解説する。											
第3回～第29回 作品精読 受講者の発表により作品を読み進める。発表者は担当した番の和歌の翻字、本歌の指摘、語釈、現代語訳などを行う。さらに判詞を踏まえて、それぞれの和歌を鑑賞・評価する。それらの内容をレジユメにまとめ、発表する。 発表者以外の受講者もあらかじめ熟読してから授業に臨み、積極的に質問や意見を述べることが望まれる。 各回の講読範囲はおおむね下記のように予定している（受講者の人数によって調整する）。											
第3回 二百二十七番 解釈											
第4回 二百二十七番 解釈の補訂および鑑賞											
第5回 二百二十八番 解釈											
第6回 二百二十八番 解釈の補訂および鑑賞											
第7回 二百二十九番 解釈											
第8回 二百二十九番 解釈の補訂および鑑賞											
第9回 二百三十番 解釈											
第10回 二百三十番 解釈の補訂および鑑賞											
第11回 二百三十一番 解釈											
第12回 二百三十一番 解釈の補訂および鑑賞											
第13回 二百三十二番 解釈											
第14回 二百三十二番 解釈の補訂および鑑賞											
第15回 二百三十三番 解釈											
第16回 二百三十三番 解釈の補訂および鑑賞											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

第17回	二百三十四番	解釈
第18回	二百三十四番	解釈の補訂および鑑賞
第19回	二百三十五番	解釈
第20回	二百三十五番	解釈の補訂および鑑賞
第21回	二百三十六番	解釈
第22回	二百三十六番	解釈の補訂および鑑賞
第23回	二百三十七番	解釈
第24回	二百三十七番	解釈の補訂および鑑賞
第25回	二百三十八番	解釈
第26回	二百三十八番	解釈の補訂および鑑賞
第27回	二百三十九番	解釈
第28回	二百三十九番	解釈の補訂および鑑賞
第29回	総括	
第30回	フィードバック	

### [履修要件]

くずし字の文献を扱うため、「国語学国文学講読」を履修済み又は受講中であることが望ましい(必須とはしない)。

### [成績評価の方法・観点]

平常点(発表および授業中の発言等)による。授業時間内に発表できなかった者は、レポートで代替する。発表・レポートは到達目標の達成度に基づいて評価する。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

渡部 泰明 『和歌とは何か』(岩波新書) ISBN:9784004311980

### [授業外学修(予習・復習)等]

自分の担当以外の箇所についても、十分に下読みしてから授業に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河村 瑛子			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『俳諧類船集』研究									
[授業の概要・目的]											
<p>過去の文献に記されたことがらを正確に理解するためには、言葉の精密な意味合いと、その背後にある世界観を把握することが肝要である。近世前期に花開いた古俳諧は、文学史上初めて、豊富な俗語の資料を残してくれた。本演習では、古俳諧が齎した史上最大の連想語辞書『俳諧類船集』の読解を通して、古人の精神世界に分け入りたい。</p> <p>本書に記された連想語群は、日本人の伝統的な共通認識を反映しており、しかも、和漢雅俗にわたる浩瀚な内容を含んでいる。たとえば「語る」の項目を見ると、その連想語として、浄瑠璃、平家、みどり子、謡、梓神子、盗人、遊女などが挙げられている。これを眺めるだけで、「語る」と「話す」とがどう違うのかといった言葉の原義から、物語や歴史叙述の根源的な問題にまで想像が膨らんでくるだろう。本演習では、『類船集』の連想語のネットワークを分析する方法とその意義について実践的に学ぶ。</p> <p>本演習では、はじめに教員による概説的講義を行い、以後は受講者の発表によって進める。具体的には、本書の見出語と連想語との関係性を文献上の根拠にもとづいて考察し、そこから浮かび上がる問題点を受講者全員で吟味することによって、言葉の深奥に迫る。</p> <p>この授業は、古文献の基礎的な調査・読解の方法を習得し、文学・語学・文化における良質な問題点を発見するための思考を養う場である。近世文学研究の立場にとどまらず、様々な角度から取り組むことが可能であろう。本演習が受講者各々の専門的研究へとつながる視座を獲得する機会となることを期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>くずし字読解能力と、和本の基本的な扱い方を身につける。多様な資料の性格を把握し、古文献を適切に運用できるようになる。テキストを実証的に解釈する方法を習得する。自ら良質な問題点を発見し、それを適切な方法によって解決できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 『俳諧類船集』概説</li> <li>3. 和装本の扱い方について</li> <li>4. 受講者による発表と討議 (1) 「秤」条</li> <li>5. 受講者による発表と討議 (2) 「鉢」条・前半</li> <li>6. 受講者による発表と討議 (3) 「鉢」条・後半</li> <li>7. 受講者による発表と討議 (4) 「箸」条</li> <li>8. 受講者による発表と討議 (5) 「箒」条・前半</li> <li>9. 受講者による発表と討議 (6) 「箒」条・後半</li> <li>10. 受講者による発表と討議 (7) 「箱」条・前半</li> <li>11. 受講者による発表と討議 (8) 「箱」条・後半</li> <li>12. 受講者による発表と討議 (9) 「袴」条・前半</li> <li>13. 受講者による発表と討議 (10) 「袴」条・後半</li> <li>14. 受講者による発表と討議 (11) 「脛巾」条</li> </ol>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

- 15.受講者による発表と討議 (12) 「羽折」条
- 16.受講者による発表と討議 (13) 「旗」条・前半
- 17.受講者による発表と討議 (14) 「旗」条・後半
- 18.受講者による発表と討議 (15) 「白衣」条
- 19.受講者による発表と討議 (16) 「初もとゆひ」条
- 20.受講者による発表と討議 (17) 「白髪」条
- 21.受講者による発表と討議 (18) 「初雪」条
- 22.受講者による発表と討議 (19) 「浜」条・前半
- 23.受講者による発表と討議 (20) 「浜」条・後半
- 24.受講者による発表と討議 (21) 「橋」条・前半
- 25.受講者による発表と討議 (22) 「橋」条・後半
- 26.受講者による発表と討議 (23) 「階子」条
- 27.受講者による発表と討議 (24) 「柱」条・前半
- 28.受講者による発表と討議 (25) 「柱」条・後半
- 29.総括
- 30.フィードバック

受講者の理解の度合いや発表の進行度、新型コロナウイルスの感染拡大状況等によって、予定を変更する場合がある。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業への参加度(20%)、発表(40%)、年度末のレポート(40%)による。発表・レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

### 【教科書】

使用しない  
プリントを配付する。

### 【参考書等】

(参考書)

頼原退蔵『頼原退蔵著作集 第16巻 近世語研究』(中央公論社) ISBN:4124012012  
このほかの参考書は、適宜授業中に紹介する。

### 【授業外学修(予習・復習)等】

発表担当者はもちろん、受講者全員が該当箇所を十分に予習し、自身の見解を持って授業に臨むこと。授業では版本・写本および文書類の写真を用いるため、くずし字読解への強い意欲が求められる。授業で扱う資料の予習復習はもちろんのこと、不断に古典籍に親しむこと。『類船集』の注釈研究においては、古俳諧をはじめとした和漢の古典文学作品はもとより、近世期の随筆類、歴史資料や図像資料、時には民俗学・文化人類学など隣接諸学の成果をも参照することが求められる。専門分野にかかわらず、日頃から広い分野の読書を心がけること。

国語学国文学(演習)(3)へ続く

国語学国文学(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系30

科目ナンバリング		U-LET10 31340 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 田中 草大			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本語学・日本文学の問題設定と論文化									
【授業の概要・目的】											
<p>[前期] 参加者各人の関心に応じて日本語学・日本文学の研究論文を選んで読み、その要旨を作成し、論旨・方法・表現などを分析する。それによって論文を読む/書く上での注意点を学ぶとともに、自分の研究のための問題意識を具体化していく。</p> <p>[後期] 前期で見いだした問題意識に基づいて研究を行い、論文化する。論文作成においては、一旦書き上げた後の綿密な修正作業が肝要である。発表時の議論・コメントに基づいて更に論文を練り上げていき、論文作成のための要点を実地に学習する。</p>											
【到達目標】											
<p>次の2点を理解する。</p> <p>(1) 学術論文を書く際にどのような問題点が生じやすいか</p> <p>(2) それを避けるにはどうしたらよいか</p>											
【授業計画と内容】											
<p>[前期]</p> <p>01. ガイダンス、模擬発表 02. 講義：論文とはどのような文書か 03. 講義：論文はどのように書くか 04. 講義：アウトライナーを使おう 05～14. 学生発表（論文分析） 15. フィードバック</p> <p>[後期]</p> <p>01.～14. 学生発表（自由論文） 15. フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点および期末課題による（100％）。

演習では、自分の発表だけでなく他人の発表も学習の大きな機会です。欠席はなるべく控えて下さい。特に、無断欠席は大幅な減点とします。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習：発表論文を事前に読み、問題点を明らかにしておく。

復習：発表中に指摘された注意点などを確認し、今後の発表に援用する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系31

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読誦してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の杜牧「酔後題僧院」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 インTRODクシヨN 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 杜牧「酔後題僧院」											
第3回 趙力「経汾陽旧宅」											
第4回 鄭谷「十日菊」											
第5回 薛能「老圃堂」											
第6回 羅隠「偶興」											
第7回 朱褒「悼亡妓」											
第8回 王維「送元二使安西」											
第9回 賈島「三月晦日贈劉評事」											
第10回 方沢「武昌阻風」											
第11回 曹松「己亥歳」											
第12回 陳羽「伏翼西洞送人」											
第13回 秦系「題明慧上人房」											
第14回 戎昱「寄許鍊詩」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（授業内での担当、発言）による。

**【教科書】**

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

**【参考書等】**

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

**【授業外学修（予習・復習）等】**

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系32

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の張籍「秋思」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 張籍「秋思」											
第3回 杜牧「懷吳中馮秀才」											
第4回 杜牧「念昔遊」											
第5回 李群玉「寄友」											
第6回 鄭谷「經賈島墓」											
第7回 司空圖「修史亭」											
第8回 僧靈徹「答韋丹」											
第9回 王維「九日懷山東兄弟」											
第10回 顧況「葉道士山房」											
第11回 顧況「宿昭応」											
第12回 司空曙「江村即事」											
第13回 雍裕之「宮人斜」											
第14回 劉言史「過春秋峽」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）による。

### [教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

### [参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

### [授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系33

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鈴木 隆司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		伊勢物語を読む									
【授業の概要・目的】											
伊勢物語は、平安時代を代表する文学作品として、古くから読まれ研究されてきた作品であり、近現代も含めた後世の文学作品や文化に与えた影響も大きい。本授業では、伊勢物語の代表的な章段を取り上げ、注釈史・享受史全体を視野に入れながら読み進めていく。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢物語の注釈史・享受史について、具体的な事例に基づいて理解する。</li> <li>・客観的な論拠に基づいた確かな語釈を考えることができるようになる。</li> <li>・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。</li> <li>・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。</li> <li>・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。</li> <li>・「放縦不拘、略無才学」でも人生を生き抜ける力を身につける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス（授業の概要を説明し、発表担当を決める） 第2回 伊勢物語の基礎知識（講義） 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ  なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100点） 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。											
【教科書】											
石田穰二『新版 伊勢物語』（角川学芸出版、1979）ISBN:97840444005016											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

片桐洋一、山本登朗 『伊勢物語古注釈大成』(笠間書院、2005～)  
その他の参考書については、授業時に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。  
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系34

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 鈴木 隆司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		伊勢物語を読む									
【授業の概要・目的】											
伊勢物語は、平安時代を代表する文学作品として、古くから読まれ研究されてきた作品であり、近現代も含めた後世の文学作品や文化に与えた影響も大きい。本授業では、伊勢物語の代表的な章段を取り上げ、注釈史・享受史全体を視野に入れながら読み進めていく。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢物語の注釈史・享受史について、具体的な事例に基づいて理解する。</li> <li>・客観的な論拠に基づく的確な語釈を考えることができるようになる。</li> <li>・研究史を踏まえた作品研究ができるようになる。</li> <li>・自身の研究成果についてのプレゼンテーション能力を養う。</li> <li>・他者の研究成果について適切に批評し議論する能力を養う。</li> <li>・「放縦不拘、略無才学」でも人生を生き抜ける力を身につける。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス（授業の概要を説明し、発表担当を決める） 第2回 続・伊勢物語の基礎知識（講義） 第3回～第14回 発表と討議 第15回 まとめ  なお、受講生の人数などにより、進め方を変更することがある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100点） 発表を重視し、授業への積極的な参加度を加味する。 状況によっては別にレポートを課すことがある。											
【教科書】											
石田穰二『新版 伊勢物語』（角川学芸出版、1979）ISBN:97840444005016											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)

片桐洋一、山本登朗 『伊勢物語古注釈大成』(笠間書院、2005～)  
その他の参考書については、授業時に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

各回の発表者は、発表準備に十分な時間を確保して取り組むこと。  
自身の発表回以外も、本文をしっかり読んで予習しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡方法等については初回の授業で説明する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		樋口一葉作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>樋口一葉が文壇にデビューした明治二十年後半、近代文学の黎明期に、女性作家たちは批評家たちの期待や揶揄といった様々な視線を集めながら、どのようにして小説を執筆していったのか、彼女たちにとって 小説執筆 とは何だったのか、当時の、特に女性作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での一葉文学の特質について多角的に考察する。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>明治期の女性作家樋口一葉の作品を読むことを通じて、一葉の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・草稿・同時代資料・同時代小説等の調査と、それらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 樋口一葉についての概説。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、授業担当者からの講評を行う。</p> <p>3. 一葉の和歌と小説の関わり方について。</p> <p>4. 初期作品「闇桜」について、新大系明治編注釈の検討。</p> <p>5. 出世作、「うもれ木」と、掲載誌『都の花』について。</p> <p>6. 露伴をはじめとする明治20年代の芸道ものと一葉作品、その共通項と差異。</p> <p>7. 「暁月夜」・「ゆく雲」と一葉作品に於ける手紙の役割について。</p> <p>8. 転機となった作品「やみ夜」と、主要登場人物の造型について。</p> <p>9. 「ゆく雲」と語り手について。</p> <p>10. 「にごりえ」とその同時代評について。</p> <p>11. 「うつせみ」の草稿と発表稿について。生成批評版の作り方と活用法。</p> <p>12. 「十三夜」の同時代に於ける特異性について。</p> <p>13. 「たけくらべ」の主に終局部をめぐる諸問題について。</p> <p>14. 「われから」と先行作品について。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、文学史の中での一葉の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- 国語学国文学(演習) (2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習) (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

### 【教科書】

授業中に指示する

樋口一葉の作品を初出誌等からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

### 【参考書等】

（参考書）

樋口一葉 『樋口一葉全集第一巻～第四巻（下）』（筑摩書房、1974～1994年）ISBN:9784480730015（第一巻）（9784480730022（第二巻）9784480730039（第三巻上）9784480730046（第三巻下）

9784480730053（第四巻上）9784480730060（第四巻下）

樋口一葉 『新日本古典文学大系明治編 樋口一葉集』（岩波書店、2001年）ISBN:9784002402246

樋口一葉 『全集樋口一葉全集 全四巻』（小学館、1996年）ISBN:9784093521017（第一巻）（9784093521024（第二巻）9784093521031（第三巻）9784093521048（別巻））

田澤稲舟他 『新日本古典文学大系明治編 女性作家集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402239

半井桃水他 『樋口一葉来簡集』（筑摩書房、1998年）ISBN:9784480823342

### 【授業外学修（予習・復習）等】

一葉の作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

### （その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET10 31341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都女子大学文学部 教授 峯村 至津子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花作品研究									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花の初期作品を読みながら、明治二十年代、近代文学の黎明期に、作家たちがどのようにして小説を執筆していったのか、彼らにとって 小説執筆 とは何だったのか、当時の作家たちが直面していた諸問題に眼を向けながら、その中での鏡花文学の特質について多角的に考察する。主に「琵琶伝」を取り上げる予定である。</p> <p>受講生の方々に調査・考察したことをレジュメにまとめて発表してもらい、それを受けての全員での意見交換、授業担当者からの講評、といった過程を通して、近代文学研究の方法を考究する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花の作品を読むことを通じて、鏡花の文学と明治二十年代の文学をめぐる状況についての理解を深める。</p> <p>作品の精読方法、先行研究の扱い方、作家の他作品（日記・随筆等も含む）・未定稿・同時代資料・同時代小説等の調査とそれらを作品読解に反映させる方法について、理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. ガイダンス（授業の目標・概要・受講上の注意事項・成績評価の方法等についての解説）。レジュメの作成方法、書式・論述の注意事項などについての概説。</p> <p>2. 泉鏡花についての概説。発表の順番を決める。</p> <p>3回以降は、以下のテーマについて、受講生の発表、それを受けての意見交換、授業担当者からの講評を行う。</p> <p>3. 鏡花の随筆・談話等を読み、鏡花が触れていた先行文芸について理解する。</p> <p>4. 鏡花の論説「愛と婚姻」を読み、その恋愛・結婚観を理解する。</p> <p>5. 「琵琶伝」の同時代批評を精読し、発表当時に於いて問題視されていたことなどについて理解する。</p> <p>6. 「琵琶伝」のヒロインお通の人物造型について、当時の女訓書などと比較しつつ考察する。</p> <p>7. 「琵琶伝」のヒロインお通の人物造型について、鏡花の他作品のヒロインと比較しつつ考察する。</p> <p>8. 「琵琶伝」の男性側の登場人物の造型について考察する。</p> <p>9. 「琵琶伝」に登場する鸚鵡について、その作品内での役割を考察する。</p> <p>10. 古典文学の中での鸚鵡の描かれ方と、「琵琶伝」に於ける描かれ方とを比較・考察する。</p> <p>11. 近代の先行作品の中での鸚鵡の描かれ方と「琵琶伝」に於ける描かれ方とを比較・考察する。</p> <p>12. 「琵琶伝」発表当時の現実に於ける鸚鵡について考察する。</p> <p>13. 「琵琶伝」の典拠について考察する。</p> <p>14. 「琵琶伝」というタイトルの意味について考察する。</p> <p>15. 授業の総括（授業内容を踏まえて、当時の文壇や文学史の中での鏡花の位置づけと、近代文学研究の諸問題や今後の展望について考える）。</p> <p>期末レポート試験</p>											
----- 国語学国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(演習)(2)

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

授業での発表50点、授業参加状況（発表後の質疑応答への積極的参加）20点、発表内容を練り直した期末レポート30点により評価する。

### [教科書]

授業中に指示する  
作品を初出誌からコピーして利用する。詳しくは初回授業で説明する。

### [参考書等]

（参考書）

泉鏡花 『鏡花全集』（岩波書店、1973～1976年）（全28巻＋別巻があります。）

泉鏡花 『新編泉鏡花集』（岩波書店、2003～2006年）（全10巻＋別冊が2冊あります。）

泉鏡花 『新日本古典文学大系明治編第20巻 泉鏡花集』（岩波書店、2002年）ISBN:9784002402208

泉鏡花 『日本近代文学大系第7巻 泉鏡花集』（角川書店、1970年）ISBN:9784045720079

### [授業外学修（予習・復習）等]

鏡花や尾崎紅葉、樋口一葉などの作品を、できるだけ多く読むこと。

授業で配布されるレジюмеや資料、扱う作品などについては、一言一句に拘って隅々まで丁寧に読むなど、予習して臨むこと。

発表用レジюмеやレポート等は、時間に余裕を持って準備し、締切を守って提出すること。

### （その他（オフィスアワー等））

授業後、質問等に対応します。初回授業で連絡方法（メールアドレスなど）もお伝えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系37

科目ナンバリング		U-LET10 21350 LJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(講読) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 宮武 衛			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		『百人秀歌』講読									
【授業の概要・目的】											
国語学国文学研究における基礎的な方法や考え方を身に付けることを目的とし、『百人秀歌』を読む。授業は受講者による担当箇所の発表と質疑応答によって進める。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究における基礎的な方法・考え方を習得する。</li> <li>・ 変体仮名が読めるようになる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
【各授業の内容】											
第1回 導入 ガイダンス											
第2回 導入 模擬発表と解説											
第3回 導入 『百人秀歌』と『百人一首』、藤原定家											
第4回 発表 1番歌											
第5回 発表 2番歌											
第6回 発表 3番歌											
第7回 発表 4番歌											
第8回 発表 5番歌											
第9回 発表 6番歌											
第10回 発表 7番歌											
第11回 発表 8番歌											
第12回 発表 9番歌											
第13回 発表 10番歌											
第14回 発表 11番歌											
(試験)変体仮名読解試験											
第15回 前期フィードバック											
第16回 前期の振り返り											
第17回 発表 12番歌											
第18回 発表 13番歌											
第19回 発表 14番歌											
第20回 発表 15番歌											
第21回 発表 16番歌											
第22回 発表 17番歌											
第23回 発表 18番歌											
第24回 発表 19番歌											
第25回 発表 20番歌											
第26回 発表 21番歌											
第27回 発表 22番歌											
----- 国語学国文学(講読)(2)へ続く -----											

## 国語学国文学(講読)(2)

第28回 発表 23番歌

第29回 発表 24番歌

(試験)変体仮名読解試験

第30回 後期フィードバック

受講者の人数により、各回の内容を調整する可能性がある。

なお、授業内に発表が回らなかった受講者は、年度末にレポートとして提出する。

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

発表・レポートの内容(60点)、質疑応答への積極的な参加(20点)、各学期末の変体仮名読解試験(20点)により評価する。

### 【教科書】

『字典かな 出典明記・改訂版』(笠間書院)(初回の授業に持参する必要はない。)

『百人秀歌』本文については、プリントを授業中に配布する。

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

担当箇所を十分調査するのはもちろん、担当以外の箇所も入念に予習して不明な点、問題となる点を見だし、授業での質疑応答に備えること。

### (その他(オフィスアワー等))

ガイダンスや担当箇所決めを行うので、受講希望者は第1回目の授業に出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系38

科目ナンバリング		U-LET10 41345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		国語学国文学(卒論演習) Japanese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大槻 信	文学研究科 教授 金光 桂子	文学研究科 准教授 河村 瑛子	文学研究科 准教授 田中 草大
配当 学年	4回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月1	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文演習									
[授業の概要・目的]											
卒業論文の執筆にむけての指導を行う。論文の題目を何にするか、どのような方法で資料を集め、分析し、そこからどのような結論を導くか、各自工夫し、考えたことを発表し、相互批判し、また教員の指導を受ける機会とする。卒業論文を提出する予定の四回生は、かならず受講し、中間発表会で発表しなければならない。											
[到達目標]											
卒業論文作成のための、それぞれの分野における基礎資料を調査する方法を身に付け、また中間発表で論文の概要を口頭発表し、他の出席者、教員の助言をうけることにより、論証の方法を反省し、修正することが可能になる。											
[授業計画と内容]											
最初の授業時に、全員、どのような卒業論文を書こうとしているか、概略を発表する。その後は個別の指導を行い、後期の授業がはじまる前に、数日間の日程をとって集中的に中間発表会を行う。											
[履修要件]											
今年度末に学部卒業見込みの者。											
[成績評価の方法・観点]											
中間発表による。											
[教科書]											
使用しない											
----- 国語学国文学(卒論演習)(2)へ続く -----											

国語学国文学(卒論演習)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する  
特になし。

[授業外学修(予習・復習)等]

最初の時間に、各自が卒業論文に何を書くかその概要を発表するが、十分な準備をした上で臨むこと。また、中間発表では、論証のための調査と考察に力を尽くすことはもちろんのこと、限られた時間内において分かりやすい発表をするために原稿を準備し、発表の練習をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古典文学における学びの諸相(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品の作成を含む言語表現は、相応な知識の習得が前提となる。古典文学はとりわけそうだが、前近代中国でその傾向は特に著しい。当時の文学について考える際に重要と思われる、かかる「学び」をめぐる研究はなお多くはない。この授業では資料が少ないこともあって、研究の対象とされることが特に少ない、唐・五代以前の知識人がいかにして作詩・作文の能力を身に付けたかという問題をテーマとする。後期の(2)で知識の体系化や伝播、詩文の指南書など具体的な手段を扱うのに対して、前期の(1)では各種の資料を丹念に読み解きながら、文学における「学び」に対する認識の在り方、学習の様相を見ていく。こういった試みは、魏晋南北朝以来、古典文学が形作られていく過程を再考する上でも避けて通れないと考えられる。</p>											
【到達目標】											
<p>漢代は言語表現が概ね政治や学術などの手段であり、文学作品も特定の人物を対象として著されることが多かった。その後を受けて魏晋以降、文学にそれ独自の価値を見出し、ひいては知識人が詩文を著す能力の習得に努めることとなる。こういった流れを見ていくことで、唐・五代に至る時代の文学が持つ特徴、詩文にまつわる規範や約束事を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>唐・五代までの文学における学びの様相について解説する。 進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 識字と作文(1) 第3回 識字と作文(2) 第4回 自身を語る作品に描かれる詩文の学習(1) 第5回 自身を語る作品に描かれる詩文の学習(2) 第6回 詩文の習得をめぐる様相(1) 第7回 詩文の習得をめぐる様相(2) 第8回 詩文を学ぶ動機と文学をめぐる状況(1) 第9回 詩文を学ぶ動機と文学をめぐる状況(2) 第10回 詩文を学ぶ動機と文学をめぐる状況(3) 第11回 詩文を学ぶ場所と教える者(1) 第12回 詩文を学ぶ場所と教える者(2) 第13回 マイノリティによる文学の学習(1) 第14回 マイノリティによる文学の学習(2) 第15回 まとめ</p> <p>フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。

評価の6割はレポート、4割は平常点による。

レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。

担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。

メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系40

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 永田 知之			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国古典文学における学びの諸相(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品の作成を含む言語表現は、相応な知識の習得が前提となる。古典文学はとりわけそうだが、前近代中国でその傾向は特に著しい。当時の文学について考える際に重要と思われる、かかる「学び」をめぐる研究はなお多くはない。この授業では資料が少ないこともあって、研究の対象とされることが特に少ない、唐・五代以前の知識人がいかにして作詩・作文の能力を身に付けたかという問題をテーマとする。前期の(1)で文学における「学び」に対する認識の在り方、学習の様相を扱うのに対して、後期の(2)では各種の資料を丹念に読み解きながら、知識の体系化や伝播、詩文の指南書など具体的な手段を見ていく。こういった試みは、魏晋南北朝以来、古典文学が形作られていく過程を再考する上でも避けて通れないと考えられる。</p>											
【到達目標】											
<p>宋代以降に比べれば、なお狭い範囲に限られるが、唐・五代は文学に携わる人々が数を増していく時代だった。それだけに従来は一部の階層が専有していた作詩・作文に関わる知識をより多くの者が求めるようになる。こういった流れを見ていくことで、唐・五代に至る時代の文学が持つ特徴、詩文を作る際に踏まえる過程、その助けとなる文献などについて理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>唐・五代までの文学における学びの手段について解説する。          進行の度合いによって内容や順序に変更を生じることもあり得る。</p> <p>第1回 ガイダンス          第2回 詩文を著す方法の体系化          第3回 文学をめぐる知識の伝播          第4回 実作と詩文の習得：選集など          第5回 作詩・作文の指南書：詩格(1)          第6回 作詩・作文の指南書：詩格(2)          第7回 作詩・作文の指南書：書儀(1)          第8回 作詩・作文の指南書：書儀(2)          第9回 知識の習得：蒙書(1)          第10回 知識の習得：蒙書(2)          第11回 知識の習得：類書(1)          第12回 知識の習得：類書(2)          第13回 文学と批評          第14回 文学とそれをめぐる知識の関わり          第15回 まとめ</p> <p>フィードバックの方法については、授業時に指示する。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

レポートを主として、平常点（授業への関与など）を加味する。  
評価の6割はレポート、4割は平常点による。  
レポートの作成に当たっては、原典を参照するなど、積極的な姿勢が明らかなものに高い評価を与える。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に紹介された各種の文献を自主的に読むこと。

### （その他（オフィスアワー等））

授業中、分からない点については積極的な質問を期待する。  
担当教員の研究室へ来る際には事前にメールで連絡した上で訪問されたい。  
メールアドレスは初回の講義で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系41

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初唐文学研究									
【授業の概要・目的】											
<p>唐代の文学は一般に初唐、盛唐、中唐、晩唐と4つの時期に分けられる。この講義の目的は、4時期のうち初唐文学の特色を明らかにすることにある。初唐は南北朝時代の形式を重視した文学を克服し、盛唐文学を準備した時期とされる。日本に伝わるこの時期の古写本を取り上げ、その読解を通して、この時期の文学の様相を具体的に明らかにする。昨年度に引き続き、『翰林学士集』を読解する。</p>											
【到達目標】											
<p>『翰林学士集』の読解を通して、初唐時代の宮廷文学がどのように南北朝文学を受容し改革していったかを理解する。読解作業を通して、この時期の文学の特色と文学史における意義を明らかにする。過渡期とされる初唐文学に注目することにより、その前後の時期の文学の特色も明確に理解することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1 初唐という時期について          第2 日本に伝わる文学作品について          第3 『翰林学士集』について          第4 『翰林学士集』読解1          第5 『翰林学士集』読解2          第6 『翰林学士集』読解3          第7 『翰林学士集』読解4          第8 『翰林学士集』読解5          第9 『翰林学士集』読解6          第10 『翰林学士集』読解7          第11 『翰林学士集』読解8          第12 『翰林学士集』読解9          第13 『翰林学士集』読解10          第14 東アジア古典文学世界と初唐文学          第15 まとめ・文学史における初唐文学の位置付け</p>											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:978-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

大東文化大学東洋研究所編 『『翰林学士集』注釈』 (大東文化大学東洋研究所)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

平仄についての基本的な知識を得ておくこと。

**(その他(オフィスアワー等))**

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系42

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 道坂 昭廣			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初唐時期散文選読									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、初唐時期以降流行した書儀に注目し、その文体としての特色について考察を加える。特に日本に伝わる『杜家立成』を取り上げ、そのテーマ内容、同時代の文学にも注意しつつ読解してゆく。											
【到達目標】											
書儀は、中国文学のにおいて取り上げられることが少ないが、初唐時期に流行したジャンルである。その代表的な作品である『杜家立成』の読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めることが可能である。また同時代の中国・日本の作品に対する影響についても考察することにより、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解することができる。											
【授業計画と内容】											
第1 初唐文学について 第2 書儀というジャンルについて 第3 『杜家立成』の特色及びその伝来について 第4 『杜家立成』読解1 第5 『杜家立成』読解2 第6 『杜家立成』読解3 第7 『杜家立成』読解4 第8 『杜家立成』読解5 第9 『杜家立成』読解6 第10 『杜家立成』読解7 第11 『杜家立成』読解8 第12 『杜家立成』読解9 第13 『杜家立成』読解10 第14 その他の書儀作品とその用途。 第15 まとめ書儀と文学											
【履修要件】											
中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。											
【成績評価の方法・観点】											
授業における発言と、報告に基づいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

鈴木虎雄 『駢文史序説』 (研文出版) ISBN:987-4-87636-270-7

興膳宏 『中国詩文の美学』 (創文社) ISBN:978-4-423-19420-1

日中文化交流史研究会著 『杜家立成雜書要略:注釈と研究』 (翰林書房) ISBN:4906424341

[授業外学修(予習・復習)等]

中国の散文文体について基本的な知識を得ておくこと

(その他(オフィスアワー等))

最初の授業で指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系43

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		奈良女子大学研究院人文科学系 野村 鮎子 教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		明清における亡妻哀悼文学の展開									
【授業の概要・目的】											
<p>明清の文人たちは、自らの亡妻や亡妾のために筆を執り、哀悼をテーマとする作品を次々と生み出した。その形式も伝統的な悼亡詩にとどまらず、亡妻墓誌銘、祭亡妻文、亡妻行状、亡妻伝、憶語体など多岐にわたる。これは「内言は出でず」（『礼記』内則）という礼の規範からの逸脱ともいえる現象である。その背景にあるのは何なのか。本講義の目的は、明清における亡妻哀悼文学の展開を悼亡詩と散文の両面から考察することにある。</p>											
【到達目標】											
<p>亡妻哀悼文学の代表的な作品・作家について包括的な知識を身につけ、関連する文献を読み込み、課題（レポート）に対して自主的にとりくむ能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目は、履修者の理解の程度を確認しながら講述する予定であり、理解度に応じて順序を変更することもある。全15回の講義については履修者が前もって予習ができるようにする。</p> <p>第1回 中国の亡妻哀悼文学の形式          第2回 明以前の悼亡詩（1）：西晋潘岳「悼亡詩」          第3回 明以前の悼亡詩（2）：唐韋応物・元微之など          第4回 明以前の悼亡詩（3）：宋梅堯臣・蘇軾など          第5回 明清における悼亡詩の拡大          第6回 明清の悼亡詩の特徴（1）：詩作の長期化          第7回 明清の悼亡詩の特徴（2）：唱和の流行          第8回 明清士大夫と伉儷の情          第9回 明以前の亡妻墓誌銘（1）：唐柳宗元など          第10回 明以前の亡妻墓誌銘（2）：宋蘇軾・欧陽脩など          第11回 明清の亡妻墓誌銘の特徴          第12回 亡妻行状の誕生          第13回 明清の亡妻行状          第14回 明清の亡妾哀悼文学          第15回 明清における憶語体の文学</p>											
【履修要件】											
<p>中国古典文学について、基礎的な読解力が必要となる。</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義) (2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業の理解確認のための小レポート（50％）と期末レポート（50％）による。

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習用の資料については毎回、事前に指示または配布する予定である。  
ただし、中国古典文学史に関するおおまかな流れは把握しておく必要があり、これについては各自で中国文学史に関する図書を通読しておくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

ayuko@cc.nara-wu.ac.jpに連絡してください。随時対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系44

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 松江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語史における文法変化の主要類型									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、中国語史における文法変化について、主要な類型にはどのようなものがあるのか、それぞれの変化を促した要因は何かを理解することにある。</p> <p>古代中国語（上古中国語）と現代中国語との文法上の相違について概説した後、中国語の史的変遷における文法変化について、中国語で書かれた論文を読解しつつ、教員が内容上の補足を行うことにより、その主要な類型と変化を促した種々の要因について理解する。さらに種々の文法変化が、古代中国語に如何なる類型論的性質の変化をもたらしたのかについて理解する。</p>											
【到達目標】											
<p>古代中国語と現代中国語の文法体系の相違点を理解した上で、中国語史における文法変化を巡る諸問題について把握する。さらに中国語の文法体系の史的变化および古今の中国語の類型論的性質の変化について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>この授業はフィードバック（方法は別途連絡）を含む全15回で行う。</p> <p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古今の中国語の文法体系の違いについて概説する。第3回から第11回までは、梅祖麟「漢語語法史中幾個反復出現的演变方式」（『古漢語語法論集』語文出版社、1998年）を読解しつつ（下に記した節の名称は日本語に翻訳してある）、中国語史における文法変化を巡る諸問題を検討する。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出し、教員が内容について解説と補足を行う形式で授業を進める。具体的な授業計画は以下のようである。</p>											
<p>第1回 授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介</p> <p>第2回 古代中国語と現代中国語の文法的相違</p> <p>第3回 梅祖麟1998「正反両式の平衡」（1）</p> <p>第4回 梅祖麟1998「正反両式の平衡」（2）</p> <p>第5回 梅祖麟1998「動詞後部の「得」「不得」」</p> <p>第6回 梅祖麟1998「「有没有吃飯」と「有吃飯」」</p> <p>第7回 梅祖麟1998「「被」「為」と被動式」（1）</p> <p>第8回 梅祖麟1998「被」「為」と被動式」（2）</p> <p>第9回 梅祖麟1998「「解」と「会」の虚化」（1）</p> <p>第10回 梅祖麟1998「「解」と「会」の虚化」（2）</p> <p>第11回 梅祖麟1998「漢語の特徴と「被」「為」「会」「没」等の变化」</p> <p>第12回 梅祖麟1998「虚化過程における「一」と「多」」（1）</p> <p>第13回 梅祖麟1998「虚化過程における「一」と「多」」（2）</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

### 【履修要件】

中国語学習の経験者であること。  
漢文についての基礎的な知識を備えていること。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を发表することにより代替することが可能とする。

### 【教科書】

ハンドアウトを配布する

### 【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系45

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 松江 崇			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代中国の言語学と揚雄『方言』									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、古代中国における言語学の発展について、語彙の意味を基準に編纂された「義書」と称される字書の歴史を辿りながら理解することにある。それと同時に、それらを言語資料とした古代中国語研究についての基礎的な知識を得ることも目的としている。さらに、「義書」の一つである揚雄『方言』を言語資料とした古代中国語方言研究とその成果については、中国語史との関連も含めた専門的な内容までを理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>古代中国における言語学の発展について、「義書」の発展を中心に理解する。その上で、「義書」を言語資料とした中国語史の研究手法と関連する諸問題について理解する。さらに、「義書」のうち揚雄『方言』を資料とした古代中国語方言研究の現状について、専門的な知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>古代中国語研究のための基本書を紹介した上で、古代中国における言語学の発展について、「義書」の歴史を辿りつつ解説する。第3回から第11回は中国語で書かれた王力1981『中国語言学史』（山西人民出版社）の第一章を講読する（下に記した節の名称は日本語に翻訳してある）。中国語論文の読解の際は、担当の履修者が日本語訳を提出した上で授業を行い、教員は内容についての解説と補足とを行う。</p>											
<p>第1回 授業の目的の説明、古代中国語研究のための基本書の紹介          第2回 古代中国の字書についての概説          第3回 王力1981「古代中国における言語研究の萌芽」（1）          第4回 王力1981「古代中国における言語研究の萌芽」（2）          第5回 王力1981「児童識字教科書と詁訓彙編」          第6回 王力1981「方言学の興起」（1）          第7回 王力1981「方言学の興起」（2）          第8回 王力1981「字書の興起」（1）          第9回 王力1981「字書の興起」（2）          第10回 王力1981「声訓」（1）          第11回 王力1981「声訓」（2）          第12回 揚雄『方言』による古代中国語方言研究（1）          第13回 揚雄『方言』による古代中国語方言研究（2）          第14回 まとめ          第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>現代中国語を学習した経験があること。          漢文について基礎的な知識を持っていること。</p>											
-----中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

-----  
[成績評価の方法・観点]

平常点50点とレポート50点により評価する。ただし、レポートの提出については、授業において中国語論文の日本語訳(訳と注釈を含む)を发表することにより代替することが可能とする。

[教科書]

ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

中国語論文の日本語訳を担当する履修者は、必ず事前に日本語訳を作成しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員との連絡方法はメールによること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系46

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の方言について									
【授業の概要・目的】											
本講義は中国の諸方言について大まかな枠組み、各方言の特徴を概観することを目的とする。また歴史的な観点から、中古音および上古音との関係についても紹介する予定である。 ( * 22年度に扱えなかった方言をとりあげる )											
【到達目標】											
中国語の諸方言の枠組みを理解している 各方言の特徴を説明できる 中国語特有の方言調査の手法を身につける											
【授業計画と内容】											
以下の計画に沿って講義を進めるが、参加者の理解状況、興味関心とトピックによって、テーマごとの講義回数あるいは順序に変更が生じる可能性がある。 第1回－第3回：ガイダンス 調音音声学、音韻論と中国語音韻学の述語の確認、中国語諸方言の概要、官話（一部） 第4回－第6回：呉語 第7回－第9回：びん語 第10回－12回：その他南方方言 第13回－14回：その他南方方言 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み（50点）とレポート（50点）											
【教科書】											
使用しない 配布資料を準備する											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

適宜紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参照すべき文献は多岐にわたるので、テーマに応じて授業時に指示する。指示に従って読んでおくこと。資料はその都度配布する予定。

(その他(オフィスアワー等))

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系47

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 野原 将揮			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国語音韻学：中古音について									
【授業の概要・目的】											
<p>中古音は上古音、近世音を研究するための一つの定点であり、中国語諸方言、漢字音等を研究する上で不可欠の分野である。そこで本講義では中古音の基礎的な知識・概念を提供するとともに、関連する事項（特に中国語学の専門用語、字書、義書等）についても紹介する予定である。また中古音と上古音の関係についてもあわせて紹介したい。</p>											
【到達目標】											
<p>中古音の基本的な概念を理解する          中古音の声母・韻母の用語を覚える          中国語音韻学の専門用語を音声学の用語で説明ができる          字書・義書・韻書の成立と大まかな流れを理解する</p>											
【授業計画と内容】											
<p>特に前半では中古音の基本的な概念を理解することを目的とする。第10回までに中古音の基本的な専門用語を暗記すること。授業内でも工夫して暗記する時間を設ける予定である。</p> <p>第1回－第3回 ガイダンス 音声学、音韻論、中国語音韻学の用語について          第4回－第6回 切韻系韻書、反切について          第7回－第9回 韻図、方言、漢字音について          第10回 中古音の用語チェック          後半は中古音に関連する事項について紹介する。          第11回－第14回 字書、義書について          第15回 まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への積極的な参加（20%）          小テスト（50%）          レポート（30%）</p>											
----- 中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

プリントを配布します。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業内で適宜紹介しますが、専門用語を覚えてもらいます。

**(その他(オフィスアワー等))**

授業内で案内します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系48

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国文献学講義									
【授業の概要・目的】											
中国古典に関する文献にまつわるさまざまな知識について、目録学と版本学を中心に、その概要を講述する。											
【到達目標】											
目録学に関する基礎的な知識を修得する。 版本学に関する基礎的な知識を修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス・目録学とは 第二回 四部分類について 第三回 漢籍目録の歴史(1) 漢書藝文志まで 第四回 漢籍目録の歴史(2) 六朝以降 第五回 経部・子部について 第六回 史部について 第七回 集部にについて 第八回 版刻の歴史について(1) 宋元版 第九回 版刻の歴史について(2) 明版 第十回 版刻の歴史について(3) 清版(道光まで) 第十一回 版刻の歴史について(4) 清版(咸豊以降) 第十二回 和刻本について 第十三回 印記について 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート(100%)											
----- 中国語学中国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

古勝隆一 『目録学の誕生 劉向が生んだ書物文化』 (臨川書店) ISBN:978-4-653-04376-8

**[授業外学修(予習・復習)等]**

文学研究科の図書館に入って実際に漢籍を手にとって、講義の内容を確かめる作業を可能な限りお願いしたいと思います。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系49

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		詩と絵画									
【授業の概要・目的】											
前近代の中国において、世界（風景）がどのように把握され、どのように表現されてきたかを、「詩」と「絵画」の両側面から考える。											
【到達目標】											
前近代中国人が世界をどのようにとらえ、どのように表現したかを理解することによって、自身が中国古典詩や中国山水画を扱うときの思想的な糸口のひとつを修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 山水画と気 第三回 風景詩の諸問題（1）六朝期 第四回 風景詩の諸問題（2）唐宋 第五回 杜甫と蘇東坡の題画詩について 第六回 杜甫の表現（1）視覚句の問題 第七回 杜甫の表現（2）風景表現の意味 第八回 杜甫の表現（3）杜甫と蘇東坡 第九回 白居易の表現 第十回 蘇東坡の表現（1）風景表現 第十一回 蘇東坡の表現（2）「体物」の問題 第十二回 題画詩の展開（1）杜甫まで 第十三回 題画詩の展開（2）蘇東坡以降 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック（授業時に指示します）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（100％）											
----- 中国語学中国文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国語学中国文学(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

川合康三 『杜甫』 (岩波書店) ISBN:978-4-00-431392-2

**[授業外学修(予習・復習)等]**

中国古典詩にふだんから触れること、できるだけ中国山水画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 21431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(特殊講義) Chinese Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学文学学術院 教授 岡崎 由美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国小説史への視座									
【授業の概要・目的】											
<p>古代から清末民初に至る中国小説史を、文芸作品生成の歴史としてではなく、中国において、「小説」なるものを認識し位置づけてきた文化構造および文学の価値観の体系として捉える。それを前提として、小説生成の背後にある中国文化の特質を理解し、中国小説史構築への多様なアプローチを考えたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の小説史を横断的に捉え、小説史構築の概要を理解する。</li> <li>・中国小説史に反映される中国文化の特色を考察する。</li> <li>・中国小説を周辺の隣接する文芸ジャンルとの関りから捉える。</li> <li>・日本における文芸観との共通性や相違性を考察する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>2023年8月7日-8月10日の集中講義として実施する。本講義では、小説史を不可逆的な単線の時間軸に沿った小説生成の歴史としてではなく、小説を認識し価値づける文化観の幾つかのトピックごとに切り分けて、考えていくこととする。授業の進捗状況や履修者の関心の状況によって、多少の内容変更がありうる。</p>											
○第1日目											
第一回 本講義の視座と問題意識											
第二回 中国小説史の編纂史を振り返る(1)～魯迅『中国小説史略』以降											
第三回 中国小説史の編纂史を振り返る(2)											
第四回 「小説」の名称について											
○第2日目											
第五回 歴史と小説の境界(1)～漢魏小説・六朝志怪・唐代伝奇											
第六回 歴史と小説の境界(2)～講史小説と英雄伝奇をめぐって											
第七回 小説の言語(1)～文言と白話											
第八回 小説の言語(2)～韻文と散文											
○第3日目											
第九回 小説ジャンルの問題(1)～宋代の講談が示したもの											
第十回 小説ジャンルの問題(2)～ジャンルの生成力											
第十一回 中国小説の担い手～「雅」と「俗」											
第十二回 中国小説の担い手～文化のアマチュア化											
○第4日目											
第十三回 中国小説の周辺～演じる物語											
										中国語学中国文学(特殊講義)(2)へ続く	

## 中国語学中国文学(特殊講義)(2)

第十四回 日本人と中国小説

第十五回 まとめに代えて～中国小説史の前近代と近代

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

講義中のレビューや発言(20%)と最終レポート(80%)による。レビューや発言については積極性、レポートについては、講義内容の理解度および視点・着想の独自性や新しさを基準として評価する。

### [教科書]

使用しない

授業に必要な資料については、プリントを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

授業前に目を通しておくべき参考書は、2023年度4月中にKULASISを通じて受講生に広報する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

集中講義のため、講義期間開始までに中国小説史の著作を一点でよいので、読んでおく。1日分の講義終了後、翌日までにレビューを提出する。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系51

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		王安石文									
【授業の概要・目的】											
北宋の王安石（1021-1086）は、唐宋八大家の一人に数えられる詩文の名手である。本演習では、王安石『臨川先生文集』巻八十四の序を講読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語文言文をスムーズに音読することができる。</li> <li>・文化的背景を踏まえて古文テキストの表現内容を理解することができる。</li> <li>・古文の表現上の特性を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
概ね以下のスケジュールによって読み進めるが、出席者の理解度に応じて進度を適宜調整する。											
第1回 王安石とその古文についての概観、使用テキストの確認											
第2回 「周禮義序」											
第3回 「詩義序」											
第4回 「書義序」											
第5回 「熙寧字説」											
第6回 「新秦集序」											
第7回 「老杜詩後集序」											
第8回 「靈谷詩序」											
第9回 「送陳興之序」											
第10回 「送李著作之官高郵序」											
第11回 「石仲卿字序」											
第12回 「伴送北朝人使詩序」「唐百家詩選序」											
第13回 「善救方後序」											
第14回 「送陳升之序」											
第15回 総括											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学修の欄に記すとおり、予習に十分に時間をかけることを前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への積極的な参加、中国語による音読の習熟度、テキストの理解度）による。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中にプリント資料を配布する。

**[参考書等]**

(参考書)

- 『新華字典』(商務印書館)
- 『古漢語常用字字典』(商務印書館)
- 『古代漢語詞典』(商務印書館)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

全文を中国語で明瞭に朗読できるよう字音を調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系52

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		王安石文									
【授業の概要・目的】											
北宋の王安石（1021-1086）は、唐宋八大家の一人に数えられる詩文の名手である。本演習では、王安石『臨川先生文集』巻八十二～八十三の記を講読する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国語文言文をスムーズに音読することができる。</li> <li>・ 文化的背景を踏まえて古文テキストの表現内容を理解することができる。</li> <li>・ 古文の表現上の特性を理解する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
概ね以下のスケジュールによって読み進めるが、出席者の理解度に応じて進度を適宜調整する。											
第1回 王安石とその古文についての概観、使用テキストの確認											
第2回 「繁昌縣學記」											
第3回 「芝閣記」											
第4～5回 「信州興造記」											
第6～7回 「餘姚縣海塘記」											
第8回 「通州海門興利記」											
第9回 「Yin縣經遊記」											
第10～11回 「遊褒禪山記」											
第12回 「城陂院興造記」											
第13～14回 「慈溪縣學記」											
第15回 総括											
【履修要件】											
全学共通科目で中国語中級を学んでいる程度の学力があり、正確な発音を心がけていること。授業外学修の欄に記すとおり、予習に十分に時間をかけることを前提とする。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（授業への積極的な参加、中国語による音読の習熟度、テキストの理解度）による。											
【教科書】											
授業中にプリント資料を配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 『新華字典』（商務印書館） 『古漢語常用字字典』（商務印書館）											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

『古代漢語詞典』（商務印書館）

**[授業外学修（予習・復習）等]**

全文を中国語で明瞭に朗読できるよう字音を調べるとともに、正確な翻訳ができるように準備をして出席すること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系53

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 津守 陽(ツモリアキ)			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近現代中国語圏文学研究論著選読									
【授業の概要・目的】											
<p>近現代中国語圏文学の研究において重要なインパクトを与えた論文や研究書について、毎年テーマを定めて精読する。本年のテーマは「他者表象」である。扱う文献は中国語・日本語・英語のものになるが、受講者の構成に応じて割合や難易度を調整する。担当者としての発表資料作成（要約あるいは翻訳・注釈・考察）や、受講生間における質疑応答を通して、近現代の中国語圏文学に関する総合的な理解を深めるだけでなく、研究文献を読み解く力を鍛え、近現代中国語圏文学に関する自分なりの問題意識を磨くことを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>時に晦渋な文学的表現も含む研究論文について、論拠となっている引用資料についても丁寧に原著に当たりながら精読していくことにより、外国語文献の高度な読解力を養う。中でも、正確な読解力と問題の要点を掴む力が重視される。同時に、近現代中国語圏の文学状況および最新の成果について理解を深め、自身の発見した問題点について効果的に発表する能力を高めることが期待される。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>受講生は、必ず予習をして授業に臨むこと。          授業では受講生全員が担当を決めて発表（要約あるいは翻訳・注釈・考察）し、必要に応じて関連する文献を読み込んで参加することを求める。          テキストとしては、1980年代以降の重要論文を集めた『二十世紀中国文学史論（修訂版）』（東方出版中心、2003）を中心に、半期で4、5本の論文や評論文を精読する。</p> <p>第1回 ガイダンス          第2-14回 『二十世紀中国文学史論（修訂版）』についての読解と考察          第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
<p>全学共通科目にて、中国語中級を履修済みであること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（毎回の授業への取り組み70%、発表担当時の達成度30%）によって判断する。また、欠席5回で単位取得資格を失うので注意すること。</p>											
【教科書】											
<p>資料をコピーまたはPandAにて配布する。</p>											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

毎回の授業には必ず予習(内容理解、引用資料の確認)をして臨むことが求められる。受講生は必ず毎回予習し、必要に応じて各自で日本語訳を作成して参加すること。予習していない場合には欠席とみなすので注意されたい。授業中には指名して意見を求めるので、積極的な問題意識を持って参加されたい。

**(その他(オフィスアワー等))**

最初の授業で、予習方法などを説明します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系54

科目ナンバリング		U-LET11 31447 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		創造社作品選読									
[授業の概要・目的]											
日本留学の経験を有する文学集団「創造社」の作品を精読する。作品を通して、1920年－30年代の中国の社会情勢や思潮、また創造社構成員の日本への意識などについても考察を深める。											
[到達目標]											
中国現代文学を読むために必要な知識、資料の使い方を学び、20世紀初頭、特に20-30年代の時代背景を踏まえて文学作品を読む力を養う。とりわけ、正確な読解力と文学的鑑賞力を重視する。また、時代背景や作品の位置づけなどについては、受講者が自力で調査し発表することを求め、それによって研究発表の能力を育成する。											
[授業計画と内容]											
<p>受講者は、必ず予習をして授業に臨むこと。</p> <p>毎回担当者を定め、担当者は所定範囲のレジュメを作成する。</p> <p>授業では受講者全員が翻訳を担当し、それ以外に、各自の課題を見つけるよう、関連する文献に基づき注釈を加えることを求める。</p> <p>第1回：資料紹介とガイダンス</p> <p>第2－14回：『創造月刊』『創造週刊』などから戯曲、小説、評論を選読する。</p> <p>第15回：総括討論</p>											
[履修要件]											
全学共通科目で中級中国語を履修していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。翻訳読解のみならず、討論時の発言、調査報告についても評価の対象とする。											
[教科書]											
資料をコピーまたはPandAにて配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は、原文の翻訳を用意して授業に臨むこと。また授業中の議論に積極的に参加し、文献調査を分担すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を読解してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の杜牧「酔後題僧院」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 インTRODクシヨN 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 杜牧「酔後題僧院」											
第3回 趙力「経汾陽旧宅」											
第4回 鄭谷「十日菊」											
第5回 薛能「老圃堂」											
第6回 羅隠「偶興」											
第7回 朱褒「悼亡妓」											
第8回 王維「送元二使安西」											
第9回 賈島「三月晦日贈劉評事」											
第10回 方沢「武昌阻風」											
第11回 曹松「己亥歳」											
第12回 陳羽「伏翼西洞送人」											
第13回 秦系「題明慧上人房」											
第14回 戎昱「寄許鍊詩」											
第15回 まとめ											
精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

中国語学中国文学(演習)(2)

**【履修要件】**

特になし

**【成績評価の方法・観点】**

平常点（授業内での担当、発言）による。

**【教科書】**

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

**【参考書等】**

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

**【授業外学修（予習・復習）等】**

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系56

科目ナンバリング		U-LET11 31449 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『三体詩』選読									
【授業の概要・目的】											
『三体詩』は南宋の周弼(1194~?)が編纂し、中晩唐を主とする唐詩のアンソロジーであり、室町時代から江戸時代にかけて日本でも非常に愛読された。この授業では、その巻一「七言絶句」の部分を精読してゆく。詳細な訳注を作成することを通して古典詩文の読解力、文献調査の技法を身につけるとともに、唐代文学に対する理解を深めることをめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近体詩の形式・語法に関する基本知識を習得する。</li> <li>・典故や用例を精査したうえで、詳細かつ正確な注釈を作成する方法を学ぶ。</li> <li>・唐代の代表的詩人の伝記と文学について理解を深める。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
『三体詩』巻一「七言絶句」の張籍「秋思」から読み進める。授業は、原則として一首ごとに担当者一名をあらかじめ指名し、詳細な訳注を作成してもらう。それをたたき台として、受講者全員で討論、検討してゆく。											
第1回 イン트로ダクション 『三体詩』についての概説。参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。											
第2回 張籍「秋思」											
第3回 杜牧「懷吳中馮秀才」											
第4回 杜牧「念昔遊」											
第5回 李群玉「寄友」											
第6回 鄭谷「經賈島墓」											
第7回 司空図「修史亭」											
第8回 僧靈徹「答韋丹」											
第9回 王維「九日懷山東兄弟」											
第10回 顧況「葉道士山房」											
第11回 顧況「宿昭応」											
第12回 司空曙「江村即事」											
第13回 雍裕之「宮人斜」											
第14回 劉言史「過春秋峽」											
第15回 まとめ 精読の成果を踏まえ、『三体詩』選詩の基準と特徴についてまとめる。											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国語学中国文学(演習)(2)へ続く -----											

## 中国語学中国文学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での担当、発言）による。

### [教科書]

ハンドアウトを配布する。また、京大貴重資料デジタルアーカイブの谷村文庫（日光寺旧蔵）本の画像を参照のこと。

### [参考書等]

（参考書）

村上哲見 『三体詩（一） 中国古典選』（朝日文庫、1978年）ISBN:0198-260129-0042

### [授業外学修（予習・復習）等]

発表担当者以外の受講者の方も毎回きちんと予習をしてください。最低限、当該作品の本文および注釈は読んでおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系57

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代短篇小説選読									
[授業の概要・目的]											
中国語で「現代」という場合、概ね1910年代の五四新文化運動から1949年の中華人民共和国成立までを指す。本講読では、この時代の代表的な作家による短篇小説を選読する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・口語から書面語にわたる幅広い中国語表現を正確に理解することができる。</li> <li>・現代文学に表現された当時の社会・文化に対する視点を批判的に理解する。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
第1回 中国現代文学概観、使用テキストの確認 第2～4回 魯迅 第5～8回 郁達夫 第9～12回 施蛰存 第13～14回 巴金 第15回 総括											
[履修要件]											
全学共通科目で中国語初級の基礎力を確実に身につけており、正確な発音を心がけていること。「授業外学修等」の欄に記すとおり、予習に応分の時間をかけることを前提とする。中国語を母語とする学生は対象としない。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(中国語の発音評価を含む)70%、試験30%。											
[教科書]											
授業中にプリント資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
中国語の原典をそのまま用いるので、予習に時間をかけなくてはならない。特に、ピンインを調べて覚えるために一定の時間と労力を割くこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
中国語学中国文学専修の学生は、後期に開講する「講読」とあわせて4単位を取得する必要がある。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系58

科目ナンバリング		U-LET11 21451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(講読) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 緑川 英樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		唐詩入門									
[授業の概要・目的]											
中国でスタンダードな唐詩のアンソロジーとして親しまれている『唐詩三百首』の本文により、古典詩の主要な形式が出そろい、重要な作者・作品に富んだ唐の時代の詩を読む。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代中国語による音読をとおして中国古典詩固有の韻律を体得する。</li> <li>・中国古典詩の形式を理解する。</li> <li>・現代中国語の注解を手がかりとして中国古典詩文を読解する基礎力を獲得する。</li> <li>・唐詩の表現するところをその文化的背景を含めて理解することができる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
以下のスケジュールにそって読み進める。現代中国語による注釈・解説の読解を含む。											
第1回 唐詩の概観、使用テキストの確認											
第2～4回 絶句											
第5～8回 律詩											
第9～11回 古詩											
第12～14回 楽府											
第15回 総括											
[履修要件]											
全学共通科目で中国語初級・中級をあわせてすでに1年半程度学習してきた学部学生を主な対象として授業をすすめる。正確な発音を心がけること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点(中国語の発音評価を含む)70%、試験30%											
[教科書]											
授業中にプリント資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書)											
小川環樹『唐詩概説』(岩波書店) ISBN:9784003810910											
村上哲見『唐詩』(講談社) ISBN:9784061593527											
[授業外学修(予習・復習)等]											
詩の本文を正確な発音で読めるように十分練習し、また注解の部分も通読して授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
中国語学中国文学専修の学生は、前期に開講する「講読」とあわせて4単位を取得しなければならない。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 楊 維公			
配当 学年	4回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作課。除閱讀用於翻譯的日文文章時以外，教員將全程使用漢語授課，並要求學生亦使用漢語發言。</p> <p>第一學期主要講解介紹性文章的寫作方法。授課過程中，大約每三次課為一個單元，集中講解某一類型文章的寫作方法。第一次課挑選或節選一兩篇範文當堂閱讀，並由教員對範文的寫作方法進行講解同時挑選或節選一兩篇日文文章作為作業，要求學生將其翻譯成中文；第二次課請學生逐句翻譯，同時講解翻譯中存在的問題，如文章已有中文翻譯或原文為中文，還將進行對比，課後布置作文作業，要求學生在第三次課前以電子文档的形式提交；第三次課當堂展示學生提交的作文作業，由教員帶領學生分析、討論篇章結構和遣詞造句中存在的問題及改進的方法，課後要求學生針對課上提出的問題進行修改並再次提交，由教員詳細批改後發還。</p> <p>本課程目的在於提高學生的中文學術文章寫作能力。具體而言，希望學生可做到用大致通順的漢語撰寫文章對自己的研究對象進行介紹。</p> <p>由於KULASIS無法正確顯示簡體字，故本課程提綱暫用繁體字及日文漢字，但課上仍使用簡體字。</p>											
【到達目標】											
<p>1.可使用大致通順的漢語撰寫介紹性較強的學術性文章。</p> <p>2.理解現代漢語口語及書面語的區別，在寫作過程中能較為準確地選擇更接近書面語的表達方式。</p>											
【授業計画と内容】											
課程計畫大致如下。教員可能根據實際情況對內容、順序及授課次數進行適當調整。											
<p>第1週 自我介紹及課程概要：教員與學生互相進行自我介紹，教員通過自我介紹了解學生的學術興趣以確定提供範文和例文的題材及篇幅，同時向學生說明授課方式。之後進行簡單的日譯漢小測驗，以便教員掌握學生的漢語寫作水平。</p> <p>第2週 自我介紹：閱讀範文，翻譯例文，並請學生當堂撰寫書面形式的自我介紹。</p> <p>第3週 介紹一位學者、作家或歷史人物（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第4週 介紹一位學者、作家或歷史人物（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第5週 介紹一位學者、作家或歷史人物（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第6週 介紹一部文學作品或文獻資料（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第7週 介紹一部文學作品或文獻資料（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第8週 介紹一部文學作品或文獻資料（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第9週 介紹一篇學術論文（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第10週 介紹一篇學術論文（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第11週 介紹一篇學術論文（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第12週 介紹一部學術專著（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第13週 介紹一部學術專著（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第14週 介紹一部學術專著（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第15週 總結：任課教員對一學期的學習情況進行總結。</p>											
中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く											

## 中国語学中国文学(外国語実習)(2)

### [履修要件]

已修完“中文口語1・2”或具備與之程度相當的漢語能力。

「中文口語1・2」を履修済みであるか、それと同等の中国語能力を有すること。

### [成績評価の方法・観点]

作文及課後修改的完成情況：60%；  
課上閱讀範文、翻譯例文及參與討論的情況：40%。

### [教科書]

任課教員準備資料。

### [参考書等]

(参考書)

中國社會科學院語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典(第7版)』(商務印書館,2016年)ISBN:9787100124508

### [授業外学修(予習・復習)等]

每次布置翻譯例文作業及作文作業後,需要相當程度的時間在課下進行翻譯、寫作及修改。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・選課人數原則上不超過8人。人數超過上限時,優先接受中國語學中國文學專修的學生選修。
- ・以漢語為母語者不可選修。
- ・課上如有未能理解的内容,歡迎隨時打斷教員的講解進行提問。課下亦可通過郵件或直接到訪任課教員研究室提出各種與漢語學習相關的問題。

- ・履修者数は原則として8名を上限とします。人数が上限を超えた場合、中国語学中国文学専修の学生を優先します。

- ・中国語を母語とする学生は受講できません。

- ・授業中、理解できなかったことがあれば、教員が話している途中であっても構いませんので、随時質問してください。授業外でもメールもしくは担当教員の研究室を直接訪問することで中国語学習について質問することを歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 楊 維公			
配当 学年	4回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	実習	使用 言語	中国語
題目		中文學術文章寫作 2									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語寫作課，在“中文學術文章寫作1”的學習基礎上進行。除閱讀用於翻譯的日文文章時以外，教員將全程使用漢語授課，並要求學生亦使用漢語發言。</p> <p>第二學期主要講解論說性文章的寫作方法。授課過程中，大約每三次課為一個單元，集中講解文章某一部分的寫作方法。第一次課挑選或節選一兩篇範文當堂閱讀，並由教員對範文的寫作方法進行講解同時挑選或節選一兩篇日文文章作為作業，要求學生將其翻譯成中文；第二次課請學生逐句翻譯，同時講解翻譯中存在的問題，如文章已有中文翻譯或原文為中文，還將進行對比，課後布置作文作業，要求學生在第三次課前以電子文档的形式提交；第三次課當堂展示學生提交的作文作業，由教員帶領學生分析、討論篇章結構和遣詞造句中存在的問題及改進的方法，課後要求學生針對課上提出的問題進行修改並再次提交，由教員詳細批改後發還。學期後半還將請學生在課下撰寫介紹各自研究內容的文章，最後兩次課當堂講解。</p> <p>本課程目的在於提高學生的中文學術文章寫作能力。具體而言，希望學生可做到用大致通順的漢語撰寫文章提出自己的觀點並進行論證。</p> <p>由於KULASIS無法正確顯示簡體字，故本課程提綱暫用繁體字及日文漢字，但課上仍使用簡體字。</p>											
【到達目標】											
<p>1.可使用大致通順的漢語撰寫論說性較強的學術性文章。</p> <p>2.理解現代漢語口語及書面語的區別，在寫作過程中能準確選擇更接近書面語的表達方式。</p>											
【授業計画と内容】											
課程計畫大致如下。教員可能根據實際情況對內容、順序及授課次數進行適當調整。											
<p>第1週 復習及課程概要：復習第一學期所學內容，並說明第二學期的授課方式。</p> <p>第2週 提出問題（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第3週 提出問題（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第4週 提出問題（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第5週 撰寫研究綜述（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第6週 撰寫研究綜述（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第7週 撰寫研究綜述（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第8週 立論（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第9週 立論（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第10週 立論（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第11週 駁論（一）：閱讀範文並布置翻譯例文的作業。</p> <p>第12週 駁論（二）：當堂翻譯例文並布置作文作業。</p> <p>第13週 駁論（三）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第14週 介紹各自研究內容（一）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p> <p>第15週 介紹各自研究內容（二）：分析、討論作文作業中存在的問題。</p>											
中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く											

## 中国語学中国文学(外国語実習)(2)

### [履修要件]

已修完“中文學術文章寫作1”或具備與之程度相當的漢語能力。

「中文學術文章寫作1」を履修済みであるか、それと同等の中国語能力を有すること。

### [成績評価の方法・観点]

作文及課後修改的完成情況：60%；  
課上閱讀範文、翻譯例文及參與討論的情況：40%。

### [教科書]

任課教員準備資料。

### [参考書等]

(参考書)

中國社會科學院語言研究所詞典編輯室『現代漢語詞典(第7版)』(商務印書館,2016年)ISBN:9787100124508

### [授業外学修(予習・復習)等]

每次布置翻譯例文作業及作文作業後,需要相當程度的時間在課下進行翻譯、寫作及修改。

### (その他(オフィスアワー等))

- ・選課人數原則上不超過8人。人數超過上限時,優先接受中國語學中國文學專修的學生選修。
- ・以漢語為母語者不可選修。
- ・課上如有未能理解的內容,歡迎隨時打斷教員的講解進行提問。課下亦可通過郵件或直接到訪任課教員研究室提出各種與漢語學習相關的問題。

- ・履修者数は原則として8名を上限とします。人数が上限を超えた場合、中国語学中国文学専修の学生を優先します。
- ・中国語を母語とする学生は受講できません。
- ・授業中、理解できなかったことがあれば、教員が話している途中であっても構いませんので、随時質問してください。授業外でもメールもしくは担当教員の研究室を直接訪問することで中国語学習について質問することを歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 楊 維公			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び中国語
題目		中文口語 1									
[授業の概要・目的]											
<p>本課程為高級漢語口語課。教員將全程使用漢語授課，並要求學生亦使用漢語發言。課堂以學生為主體，除教員提供話題外，選課學生亦應在每次課前就相應主題進行充分思考並準備一兩個簡單的話題以供討論。</p> <p>大約從第四或第五次課起，每次課還將邀請一到兩名學生就自己感興趣的話題使用PPT等形式做不少於10分鐘的口頭報告，同時請其他學生就報告內容發表自己的意見或提出問題，並要求報告人現場做出回應。報告結束後，報告人需要將報告內容以電子文档的形式提交，由教員修改後發還。必要時，教員還可能利用PandA對修改後的文稿進行逐句錄音，並請報告人進行模倣錄音，從而提高報告人的漢語發音水平。預計每人報告兩次左右，具體安排視選課人數決定。</p> <p>本課程目的在於提高學生的漢語口頭表達及交流能力。具體而言，希望學生日後可以使用漢語在公開場合介紹自己的研究或其他感興趣的話題，同時可在理解他人發言的基礎上就其內容發表自己的看法並進行討論。</p> <p>由於KULASIS無法正確顯示簡體字，故本課程提綱暫用繁體字及日文漢字，但課上仍使用簡體字。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.可使用較為得體的漢語介紹自己感興趣的話題，同時可在基本理解他人發言的基礎上就其內容發表自己的看法並進行討論。</li> <li>2.理解現代漢語口語及書面語的區別，在口頭報告中能較為準確地選擇更接近口語的表達方式。</li> <li>3.發音可達到使聽話人準確理解發言內容、不致引發誤會的程度。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
課程計畫大致如下。教員可能根據實際情況對內容、順序及授課次數進行適當調整。											
<p>第1週 自我介紹及課程概要：教員與學生互相進行簡單的自我介紹，教員通過自我介紹了解學生的漢語水平及興趣所在，並向學生說明授課方式。</p> <p>第2週 家鄉風情：介紹各自家鄉的風土人情。</p> <p>第3週 時事話題及社會見聞（一）：就近期的時事話題或社會見聞進行討論。</p> <p>第4週 時事話題及社會見聞（二）：就近期的時事話題或社會見聞進行討論。</p> <p>第5週 大學生活（一）：就大學生活的話題進行討論。</p> <p>第6週 大學生活（二）：就大學生活的話題進行討論。</p> <p>第7週 語言文化（一）：就漢語或中國文化的話題進行討論。</p> <p>第8週 語言文化（二）：就漢語或中國文化的話題進行討論。</p> <p>第9週 古代文學（一）：就古代文學的話題進行討論。</p> <p>第10週 古代文學（二）：就古代文學的話題進行討論。</p> <p>第11週 當代文學（一）：就當代文學的話題進行討論。</p> <p>第12週 當代文學（二）：就當代文學的話題進行討論。</p> <p>第13週 留學準備：想像前往中國留學的場景，討論留學需要進行的準備工作。</p> <p>第14週 留學生活：想像到達中國之後的場景，討論留學過程中可能遇到的問題及解決方法。</p>											
中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く											

## 中国語学中国文学(外国語実習)(2)

第15週 暑假計畫及總結：介紹各自的暑假計畫，並由教員對一學期的學習情況進行總結。

### 【履修要件】

已修完全學共通科目“中國語 A・B”或具備與之程度相當的漢語能力。

全学共通科目「中国語 A・B」を履修済みであるか、それと同等の中国語能力を有すること。

### 【成績評価の方法・観点】

當堂報告和課後提交的電子版內容（以及有必要者錄音練習的完成情況）：60%（每人兩次左右，視選課人數決定。除語法及發音是否正確外，還將關注兩次報告前後及錄音練習前後的進步程度）；課上參與討論的情況：40%。

### 【教科書】

必要時由教員準備PPT或印發紙版資料。

### 【参考書等】

（参考書）

三省堂編修所『デイリー日中英3か国語会話辞典 カジュアル版』（三省堂、2008年）ISBN: 9784385122595

三宅登之『中級中国語 読みとく文法』（白水社、2012年）ISBN:9784560085875

池田巧『中国語のしくみ《新版》』（白水社、2014年）ISBN:9784560086636

選課學生還應準備一部中型詞典，每次課帶到教室，以便隨時查閱。有條件者建議準備《現代漢語詞典》（第7版）（商務印書館、2016年）。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

每次課前應就課上將要討論的主題進行充分思考並準備一兩個簡單的話題以供討論。同時，報告人在每次當堂報告前後需要相當程度的準備時間及修改時間，有必要者還需要在報告後進行錄音練習。

### （その他（オフィスアワー等））

- ・選課人數原則上不超過8人。人數超過上限時，優先接受中國語學中國文學專修的學生選修。
- ・以漢語為母語者不可選修。
- ・課上如有未能理解的內容，歡迎隨時打斷教員的講解進行提問。課下亦可通過郵件或直接到訪任課教員研究室提出各種與漢語學習相關的問題。

- ・履修者数は原則として8名を上限とします。人数が上限を超えた場合、中国語学中国文学専修の学生を優先します。

- ・中国語を母語とする学生は受講できません。

- ・授業中、理解できなかったことがあれば、教員が話している途中であっても構いませんので、随時質問してください。授業外でもメールもしくは担当教員の研究室を直接訪問することで中国語学習について質問することを歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系62

科目ナンバリング		U-LET11 31464 PJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(外国語実習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 楊 維公			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語及び中国語
題目		中文口語 2									
【授業の概要・目的】											
<p>本課程為高級漢語口語課，在“中文口語 1”的學習基礎上進行。教員將全程使用漢語授課，並要求學生亦使用漢語發言。</p> <p>課堂以學生為主體，除教員提供話題外，選課學生亦應在每次課前就相應主題進行充分思考並準備一兩個簡單的話題以供討論。</p> <p>大約從第四或第五次課起，每次課還將邀請一到兩名學生就自己感興趣的話題使用PPT等形式做不少於20分鐘的口頭報告，同時請其他學生就報告內容發表自己的意見或提出問題，並要求報告人現場做出回應。報告結束後，報告人需要將報告內容以電子文档的形式提交，由教員修改後發還。必要時，教員還可能利用PandA對修改後的文稿進行逐句錄音，並請報告人進行模倣錄音，從而提高報告人的漢語發音水平。預計每人報告兩次左右，具體安排視選課人數決定。</p> <p>本課程目的在於提高學生的漢語口頭表達及交流能力。具體而言，希望學生日後可以使用漢語在公開場合介紹自己的研究或其他感興趣的話題，同時可在理解他人發言的基礎上就其內容發表自己的看法並進行討論。</p> <p>由於KULASIS無法正確顯示簡體字，故本課程提綱暫用繁體字及日文漢字，但課上仍使用簡體字。</p>											
【到達目標】											
<p>1.可使用得體的漢語介紹自己感興趣的話題，同時可在充分理解他人發言的基礎上就其內容發表自己的看法並進行討論。</p> <p>2.理解現代漢語口語及書面語的區別，在口頭報告中能準確選擇更接近口語的表達方式。</p> <p>3.在發音達到使聽話人準確理解發言內容、不致引發誤會的基礎上，能做到依照句子及文章的結構有節奏地進行敘述。</p>											
【授業計画と内容】											
課程計畫大致如下。教員可能根據實際情況對內容、順序及授課次數進行適當調整。											
<p>第1週 自我介紹及課程概要：教員與學生互相進行較為複雜的自我介紹，教員通過自我介紹了解學生的漢語水平及興趣所在，並向學生說明授課方式。</p> <p>第2週 暑假見聞：介紹各自在暑假期間的生活及見聞。</p> <p>第3週 時事話題及社會見聞（一）：就近期的時事話題或社會見聞進行討論。</p> <p>第4週 時事話題及社會見聞（二）：就近期的時事話題或社會見聞進行討論。</p> <p>第5週 語言文化（一）：就漢語或中國文化的話題進行討論。</p> <p>第6週 語言文化（二）：就漢語或中國文化的話題進行討論。</p> <p>第7週 大學生活（一）：就大學生活的話題進行討論。</p> <p>第8週 大學生活（二）：就大學生活的話題進行討論。</p> <p>第9週 古代文學（一）：就古代文學的話題進行討論。</p> <p>第10週 古代文學（二）：就古代文學的話題進行討論。</p> <p>第11週 當代文學（一）：就當代文學的話題進行討論。</p> <p>第12週 當代文學（二）：就當代文學的話題進行討論。</p>											
中国語学中国文学(外国語実習)(2)へ続く											

## 中国語学中国文学(外国語実習)(2)

- 第13週 未來展望（一）：介紹各自對畢業論文的簡單構想或大學畢業後未來生活的展望。  
第14週 未來展望（二）：介紹各自對畢業論文的簡單構想或大學畢業後未來生活的展望。  
第15週 春假計畫及總結：介紹各自的春假計畫，並由教員對一學期的學習情況進行總結。

### [履修要件]

已修完“中文口語1”或具備與之程度相當的漢語能力。

「中文口語1」を履修済みであるか、それと同等の中国語能力を有すること。

### [成績評価の方法・観点]

當堂報告和課後提交的電子版內容（以及有必要者錄音練習的完成情況）：60%（每人兩次左右，視選課人數決定。除語法及發音是否正確外，還將關注兩次報告前後及錄音練習前後的進步程度）；課上參與討論的情況：40%。

### [教科書]

必要時由教員準備PPT或印發紙版資料。

### [参考書等]

（参考書）

三省堂編修所『デイリー日中英3か国語会話辞典 カジュアル版』（三省堂、2008年）ISBN: 9784385122595

三宅登之『中級中国語 読みとく文法』（白水社、2012年）ISBN:9784560085875

池田巧『中国語のしくみ《新版》』（白水社、2014年）ISBN:9784560086636

選課學生還應準備一部中型詞典，每次課帶到教室，以便隨時查閱。有條件者建議準備《現代漢語詞典》（第7版）（商務印書館、2016年）。

### [授業外学修（予習・復習）等]

每次課前應就課上將要討論的主題進行充分思考並準備一兩個簡單的話題以供討論。同時，報告人在每次當堂報告前後需要相當程度的準備時間及修改時間，有必要者還需要在報告後進行錄音練習。

### （その他（オフィスアワー等））

- ・選課人數原則上不超過8人。人數超過上限時，優先接受中國語學中國文學專修的學生選修。
- ・以漢語為母語者不可選修。
- ・課上如有未能理解的內容，歡迎隨時打斷教員的講解進行提問。課下亦可通過郵件或直接到訪任課教員研究室提出各種與漢語學習相關的問題。

- ・履修者数は原則として8名を上限とします。人数が上限を超えた場合、中国語学中国文学専修の学生を優先します。

- ・中国語を母語とする学生は受講できません。

- ・授業中、理解できなかったことがあれば、教員が話している途中であっても構いませんので、随時質問してください。授業外でもメールもしくは担当教員の研究室を直接訪問することで中国語学習について質問することを歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系63

科目ナンバリング		U-LET11 41445 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国語学中国文学(卒論演習) Chinese Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 木津 祐子 文学研究科 教授 緑川 英樹 文学研究科 准教授 成田 健太郎			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水2	授業 形態	卒論演習	使用 言語	日本語
題目		中国語学中国文学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
卒業論文提出予定者を対象とし、(1)研究題目選択および先行研究の調査方法、(2)論文の組み立てに関する指導をおこなう。あわせて、中国語による論文要旨の書きかたについて指導する。											
【到達目標】											
卒業論文を執筆するにあたって守るべき規範意識を理解したうえで、自主的に課題を設定し、調査研究を経て言語化するための手続きを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>隔週で開講する。前期には、研究したい題目を各自で決めて、おおまかな着想を述べ、指導・助言を受ける。後期には、自らの卒業論文の内容について発表資料を準備して口頭発表をおこなったのち、指導・助言を受ける。</p> <p>後期の担当時には、(1)研究の主要論点・結論および引用原典を挙げた説明資料を配布し、出席者に分かりやすく説明する。</p> <p>以上とあわせて、中国語による論文要旨の書きかたについての指導をおこなう。</p>											
【履修要件】											
中国語学中国文学専修学部学生に限る（3回生も出席するのが望ましい）。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（卒業年度の口頭発表による）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
卒業論文の題目選択は学生の自主性を重んじるので、取り組むべき課題を発見するにあたっての準備的調査をまず各自でおこなうこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
後期に口頭発表を担当する際には、必ず(1)発表用資料を必要部数準備するとともに、(2)中国語論文要旨の下書きも作っておくこと。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系64

科目ナンバリング		U-LET12 31530 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		北朝正史の儒林伝を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>南北朝時代、中国は南北に分かれ、その学問の在り方も様相を異にした部分が多い。中国の思想と言えは儒学をすぐに想起しようが、その根幹たる経書には歴代様々な注釈が施され、南朝と北朝とで、どの注釈書に依拠して各経書を読んだかが異なったことは、よく知られる。</p> <p>そこで本講義では、北朝における儒学、経学の実態を探る第一歩として、北朝正史の儒林伝を読んでいく。具体的には『魏書』『北齊書』『周書』である。</p> <p>北朝における学問の共有や伝承の様子を、時には南朝の動向をも視野に入れつつたどることで、北朝ではどのような学問を備えることが目指されたのかを、探っていく。また儒者に対して、社会がどのような役割を期待していたのかについても、考えていきたい。こうした営みは、南北朝時代に限らず、中国社会全般を考える上でのヒントになる。</p> <p>なおすでに令和2年度・3年度で『魏書』儒林伝を読み終え、今年度は『周書』儒林伝の途中からになる。ただし過去の内容は当然フォローするので、今年度からの受講も問題ない。分野を問わず、様々な学生の履修に期待したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北朝正史の儒林伝を精読することで、北朝における学問の特質を理解できる。</li> <li>・北朝における学問継承の在り方を明らかにし、それを系統立てて説明できる。</li> <li>・儒林伝に描出される儒者の活動を読み解くことで、学問と社会の関係性について、自らの問題意識に関連付けて考察する。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>原則として講義形式（北朝正史の儒林伝に対する教員作成の訳注を基に、それに関連する事項などを解説、補足する）で進めるが、時に出席者にも講義の内容にコメントしてもらう場面を設けることがある。</p> <p>1 ガイダンス                  2・3 北朝儒学に関する先行研究紹介                  4 『周書』儒林伝精読：盧誕                  5 盧光                  6～8 沈重                  9 樊深                  10～13 熊安生                  14・15 楽遜</p> <p>16・17 『北齊書』儒林伝精読：李鉉                  18 チョウ柔                  19 馮偉                  20・21 張買奴・劉軌思・鮑季詳                  22・23 ケイ峙・劉昼</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

- 24 馬敬徳
- 25 張景仁
- 26 権会・張思伯
- 27・28 張彫
- 29 孫靈暉
- 30 まとめ

フィードバックの方法は授業時に指示する。

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点（教員による発問に対する積極的な回答、講義に際しての討議への参加など）を40%、最終レポートを60%で評価。

### [教科書]

授業中に指示する  
教員作成のプリントを使用する。

### [参考書等]

（参考書）  
氣賀澤保規ほか『中国史書入門 現代語訳 北齊書』（勉誠出版,2021年）ISBN:978-4-585-29612-6  
（『北齊書』の邦訳で、儒林伝序の邦訳を含む。北齊を含む北朝の歴史を概観できる。）  
上記の書籍の他、参考書籍は数多いので、授業中に紹介していく。

### [授業外学修（予習・復習）等]

予習としては、講義で取り上げる漢文を、自分でも現代語訳してみる。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系65

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学東洋文化研究所 教授 塚本 磨充			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国美術の鑑識と歴史									
【授業の概要・目的】											
宋代を中心に中国美術の鑑識論の発展を概説します。PPT画像を使って同時代の美術史の基礎的な知識を習得した後で、同時代の代表的な画史・画論をとりあげ、そのうちとくに鑑識（鑑定論）と制作、技法・材料論について考察していきます。近代の美術史において写真図版を比較する様式論のみならず、作品のもつコンテキストや物質性に注目し、図像と文献の両方から理解を深め、新しい角度から「美術」作品に触れることを目的とします。											
【到達目標】											
中国美術史の展開を、ナショナルヒストリーの視点を乗り越え、東アジア的な視点から理解できるようになることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 中国美術の博物館事業と展示											
第2回 唐代美術の普遍と継承ー保存と改造と「国風」問題ー											
第3回 『歴代名画記』を読む											
第4回 五代北宋初期の文化事業と山水画											
第5回 郭熙と「早春図」											
第6回 『林泉高致集』（絵画論）を読む											
第7回 徽宗と文化政治ー詩情と写実ー											
第8回 南宋絵画と禅宗ー日本と中国美術ー											
第9回 『図画見聞誌』『画継』（画史）を読む											
第10回 東アジア絵画の技法・材質と表現											
第11回 中国美術と偽物づくりの文化											
第12回 『洞天清祿集』『小山画譜』（鑑識・技法）を読む フィードバック											
第13回 江戸時代の唐物研究ー阿弥衆、狩野派、文人たちー											
第14回 近代における中国「美術史」研究の歩みーコレクションとアーカイヴー											
第15回 東アジア美術史の再構築ー「あいだ」と「はしっこ」の美術史ー フィードバック											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義) (2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点、レポート

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

関西中国書画コレクション研究会 『中国書画探訪 関西の収集家とその名品』 (二玄社、2011年)  
『世界美術全集 東洋編』 (小学館)  
『上海博物館 中国絵画の至宝』 (東京国立博物館、2013年)

### 【授業外学修(予習・復習)等】

関西には日本美術のみならず、素晴らしい中国美術のコレクションがあります。常に展示替えされながら公開が続けられていますので、できるだけ足を運び、自分の眼でよく観察する体験を大事にしてください。

### (その他(オフィスアワー等))

連絡先等は以下を参照

<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/faculty/prof/m-tsukamoto.html>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系66

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国文献学講義									
【授業の概要・目的】											
中国古典に関する文献にまつわるさまざまな知識について、目録学と版本学を中心に、その概要を講述する。											
【到達目標】											
目録学に関する基礎的な知識を修得する。 版本学に関する基礎的な知識を修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス・目録学とは 第二回 四部分類について 第三回 漢籍目録の歴史(1) 漢書藝文志まで 第四回 漢籍目録の歴史(2) 六朝以降 第五回 経部・子部について 第六回 史部について 第七回 集部にについて 第八回 版刻の歴史について(1) 宋元版 第九回 版刻の歴史について(2) 明版 第十回 版刻の歴史について(3) 清版(道光まで) 第十一回 版刻の歴史について(4) 清版(咸豊以降) 第十二回 和刻本について 第十三回 印記について 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック(授業時に指示します)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート(100%)											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義)(2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

古勝隆一 『目録学の誕生 劉向が生んだ書物文化』 (臨川書店) ISBN:978-4-653-04376-8

**[授業外学修(予習・復習)等]**

文学研究科の図書館に入って実際に漢籍を手にとって、講義の内容を確かめる作業を可能な限りお願いしたいと思います。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系67

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		詩と絵画									
【授業の概要・目的】											
前近代の中国において、世界（風景）がどのように把握され、どのように表現されてきたかを、「詩」と「絵画」の両側面から考える。											
【到達目標】											
前近代中国人が世界をどのようにとらえ、どのように表現したかを理解することによって、自身が中国古典詩や中国山水画を扱うときの思想的な糸口のひとつを修得する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 山水画と気 第三回 風景詩の諸問題（1）六朝期 第四回 風景詩の諸問題（2）唐宋 第五回 杜甫と蘇東坡の題画詩について 第六回 杜甫の表現（1）視覚句の問題 第七回 杜甫の表現（2）風景表現の意味 第八回 杜甫の表現（3）杜甫と蘇東坡 第九回 白居易の表現 第十回 蘇東坡の表現（1）風景表現 第十一回 蘇東坡の表現（2）「体物」の問題 第十二回 題画詩の展開（1）杜甫まで 第十三回 題画詩の展開（2）蘇東坡以降 第十四回 まとめ 第十五回 フィードバック（授業時に指示します）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（100％）											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

川合康三 『杜甫』 (岩波書店) ISBN:978-4-00-431392-2

**[授業外学修(予習・復習)等]**

中国古典詩にふだんから触れること、できるだけ中国山水画の展覧会あるいは図録などに気を配っておくことを勧めます。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読むー『続高僧伝』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年、彦琮について、その翻訳論や国家論文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>											
【到達目標】											
内容面											
<p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p>											
技能面											
<p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書											
第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明											
第3回： 『続高僧伝』講義 『続高僧伝』の素材としての『歴代三宝紀』											
第4回： 『続高僧伝』講読 達摩笈多伝											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

第5回：	『続高僧伝』講読	塔懺法と『占察経』
第6回：	『続高僧伝』講読	侯白・徐同卿・劉憑
第7回：	『続高僧伝』講読	衆経法式と費長房
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8

### 【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随

中国哲学史(特殊講義)(3)へ続く

中国哲学史(特殊講義)(3)

時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		政治権力と寺院の関係から見た中国中古仏教史									
[授業の概要・目的]											
<p>寺院は僧が集団で生活を送り修行に励む場である。また、在家者との接点の場でもある。インドの寺院においてはそれぞれ一部派の戒律に基づき寺院生活が行われていた。中国へ仏教が伝来してしばらくは、戒律が本格的に訳されずに寺院で僧の生活が行われていた。インドの各部派の戒律は五世紀の前半に中国にもたらされ漢訳された。本講義では、インドと文化の異なる中国中古（魏晉南北朝隋唐）時代の僧たちがどのように戒律を受容して運用し儀礼を行ったかを考えて行きたい。また、日本古代における寺院のあり方についても検討する。</p> <p>インドと中国仏教の大きな相違の一つは、政治権力が寺院や僧の数を制限し、僧団の戒律や儀礼大寺院の入住僧の選定にも介入した点である。政治権力による教団の統制に対する僧の反対運動も行われた。この点に特に注意して講義を行う。毎回事前に関連論文を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で討論を行う形で進める。</p>											
[到達目標]											
内容面											
<p>一、インド・中国・日本仏教の相違を学ぶ。  二、南北朝隋唐時代の主要な寺院を把握し、皇帝と寺院の関係について理解する。  三、中国における戒律と儀礼を軸とした仏教史の展開について学ぶ。</p>											
技能面											
<p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。  二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。  三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回： ガイダンス・寺院史の概観											
第2回： インドにおける寺院生活											
第3回： 後漢明帝の霊夢と白馬寺伝説											
第4回： 道安の戒律への関心と慧遠「沙門不敬王者論」											
第5回： インド流の食事作法導入をめぐって 劉宋時代の踞食論争											
第6回： 女性の出家をめぐる問題 尼僧の受戒・皇室と尼寺											
第7回： 皇宮と仏教寺院 同泰寺・内道場											
第8回： 隋の仏教復興と王朝の正統化 一 大興善寺・大興国寺・禅定寺・仁寿舍利塔											
第9回： 唐初の教団統制と律学の勃興											
第10回 玄奘の帰国と初唐の皇家寺院 弘福寺・大慈恩寺・西明寺											
第11回： 道宣による戒律・儀礼の整備と戒壇の建設											
第12回： 武則天と大雲寺											
第13回： 禅宗の中央進出と少林寺 都市近郊の山岳寺院と皇帝											
第14回： 皇帝と石窟寺院、寺院壁画と浄土教											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

第15回： 日本古代の寺院

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

倉本尚徳 『儀礼と仏像』（臨川書店、2022）ISBN: 4653045739（インドからの展開をふまえて中国における仏教儀礼の展開について論じたもの。政治との関係にも言及する。）

礪波護 『文物に現れた北朝隋唐の仏教』（法藏館、2023）ISBN:4831826448

義浄 『現代語訳南海寄帰内法伝（法藏館文庫）』（法藏館、2022）ISBN:483182643X（インド・東南アジアの戒律・儀礼を主とする立場から中国の戒律や儀礼のあり方を批判した書物。比較文化論としても秀逸）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』(出家集団の生活規則)をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事(経)』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律(ヴィナヤ)』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大正大蔵経の使用する時の注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：戒律文献漢訳史の概要</p> <p>第4回：『五百問事(経)』の書誌(原典・前近代の諸訳・注釈・主要研究)</p> <p>第5回：『五百問事(経)』が作られた歴史状況を学ぶ</p> <p>第6回：『五百問事(経)』精読(1)</p> <p>第7回：『五百問事(経)』精読(2)</p> <p>第8回：『五百問事(経)』精読(3)</p> <p>第9回：『五百問事(経)』精読(4)</p> <p>第10回：『五百問事(経)』精読(5)</p> <p>第11回：『五百問事(経)』精読(6)</p> <p>第12回：『五百問事(経)』精読(7)</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

第13回：『五百問事（経）』の敦煌写本(a)

第14回：『五百問事（経）』の敦煌写本(b)

第15回：前期の総括

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### 【教科書】

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### 【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として）

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』（『東方學報』京都70, 1998）（無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>）

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』（Ajia Major, Third Series, 19-1/2, 2006）（無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>）

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を必ず準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』(出家集団の生活規則)をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事(経)』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律(ヴィナヤ)』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。  二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。  三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期のまとめ。  第2回：松尾社一切経2754『五百問事経』について  第3回：新宮寺一切経1807『五百問事経』について  第4回：『五百問事』精読(1)  第5回：『五百問事』精読(2)  第6回：『五百問事』精読(3)  第7回：『五百問事』精読(4)  第8回：『五百問事』精読(5)  第9回：『五百問事』精読(6)  第10回：『五百問事』精読(7)  第11回：『五百問事』精読(8)  第12回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態(a)  第13回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態(b)</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(特殊講義)(2)

第14回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態(c)

第15回：後期の総括および通年のまとめ

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』（『東方學報』京都70, 1998）（無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>）

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』（Aija Major, Third Series, 19-1/2, 2006）（無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。  
個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：  
配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系72

科目ナンバリング		U-LET12 31531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 福谷 彬			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		朱子学の文献を精読する									
【授業の概要・目的】											
<p>中国宋代の朱子学に関わる文献を精読することを通じて、史料を読解し、思想を深く理解するための能力を身に着ける。</p> <p>朱子学は中国だけでなく、前近代の朝鮮や日本の社会にも大きな影響を与えた。しかし、朱子学を正しく理解するためには、中国の伝統的な経学の知識はもとより、哲学的思考も必要なため、独学は難しい。本授業では、基本的な参照文献・工具書を紹介しつつ、朱子学を深く理解するための素地を養って頂きたい。中国古典初心者の受講を歓迎するが、漢文を読む講義を受講した経験があることを前提としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>講義では講師は自分の見解を示すが、最も大切なのは参加者自身が自分で考える姿勢を身に着けることであると考えている。疑問や着想、読みたい文献、受講者の側から出してくれることを歓迎したい。</p> <p>自ら文献を集め、問題を見つけ、考察を深める方法を身に着けることを到達目標とする。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、進度によっては変更もあり得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回 ガイダンス                  第二回～第八回 『朱文公文集』から                  第九回～第十四回 『四書章句集注』から                  第十五回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回、担当者がレジュメを発表し、他の参加者とともに内容を検討する。成績は出席状況・発表内容・積極性などを勘案して、総合的に評価する。試験は行わない。</p>											
----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

中国哲学史(特殊講義) (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業内に適宜説明する。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系73

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宇佐美 文理			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『困学紀聞注』精読									
【授業の概要・目的】											
王應麟『困学紀聞』ならびに翁元圻の注釈を精密に読むことによって、漢文読解力を高めるとともに、引用されている数々の文献にあたることによって、古典中国学に関する知識を深める。											
【到達目標】											
古典漢文を自分の言葉に直して読むことができるようになる。 古典中国学の基本的な事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
第一回 ガイダンス 第二回 文子曰～ 第三回 列子以～ 第四回 大宗師～ 第五回 荊公曰～ 第六回 郭象注～ 第七回 斉物論～ 第八回 挿桃枝～ 第九回 孔子病～ 第十回 仲尼読～ 第十一回 鵠上高～ 第十二回 以十鈞～ 第十三回 人而不～ 第十四回 漢七略～ 第十五回 漢七略(つづき) 第十六回 太平御～ 第十七回 鄒陽曰～ 第十八回 韓子曰～ 第十九回 韓子和～ 第二十回 必恃自～ 第二十一回 人主以～ 第二十二回 人主以(つづき) 第二十三回 韓子十～ 第二十四回 説文鹽～ 第二十五回 カツ冠子～ 第二十六回 戦国秦～ 第二十七回 漢景帝～ 第二十八回 鬼谷子～ 第二十九回 鬻熊為～ 第三十回 フィードバック(授業時に説明する)											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

中国哲学史(演習) (2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

平常点による。

**[教科書]**

コピーして配布します。

**[参考書等]**

(参考書)

西田太一郎 『漢文の語法』 (角川書店,2023) ISBN:978-4-04-400634-1

**[授業外学修(予習・復習)等]**

引用されている書物についてはかならず元の書物にあたることを心がける。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系74

科目ナンバリング		U-LET12 31540 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		阮元の文章を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>阮元(1764-1849)は言うまでもなく清朝考証学を代表する学者である。この授業では、彼の著作『ケン経室集』(ケン:研+手)の中から、経学を中心として思想に関わる内容の文章を選読する。文章のジャンルは序・論・跋・書など多岐にわたる。</p> <p>多彩なテーマやジャンルの文章を読むことは、特定の分野に偏らない中国古典全般にわたる読解能力を高めるとともに、その考証の手法や表現の方法を学ぶことをも可能にするであろう。そして同時代の学者が、同じテーマに対して考察を展開していた場合、時に阮元を離れてでも、それについて検証していくので、清朝という時代の学的風潮も体感できる。</p> <p>話題は経学を中心としつつ、中国の多様な時代、分野に及ぶことになる。また文章のジャンルも特定のものにこだわらない。そのため様々な専攻の学生の出席を期待する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国古典文献を、典拠や用例を調べ、その原典にあたりながら正確に読解できる。</li> <li>・読解の成果を自然な日本語に訳し、また適切な注釈を附すことで、訳注の形で提示する能力を身につける。</li> <li>・文献に披瀝されている考証の手法を体得することを目指す。</li> <li>・読解内容に対する阮元以外の考証をも検討することで、同一テーマに対する多角的な視野を持つ力を養う。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>毎回の担当を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。読む文章は教員が適宜選択するが、履修者の興味関心を見て決定する予定である。</p> <p>1 ガイダンス 2 ~30 阮元の文章を読む</p> <p>例：論語一貫説、大学格物説、明堂論、詩十月之交四篇属幽王説、進退維谷解、王伯申経義述聞序、焦氏雕菰楼易学序 論語論仁論、孟子論仁論、恵半農先生礼説序、張皋文儀礼凶序、春秋公羊通義序、与臧拜経庸書</p> <p>フィードバックの方法は授業時に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 中国哲学史(演習) (2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習) (2)

### [成績評価の方法・観点]

平常点による（訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加などを総合的に判断する）。

### [教科書]

授業中に指示する  
テキストはコピーして配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

演習は何より学生が主役であるため、自身の意見を言うためには、相応の予習が必要である。また作成した訳注稿は、後日修正稿を提出してもらう。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 東洋文化学系75

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系76

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 吉本 道雅			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『春秋左伝正義』									
[授業の概要・目的]											
十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。											
[到達目標]											
漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。</p> <p>第1回～第15回 『春秋左伝正義』の輪読 *フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
教材は担当教員が準備する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表の有無に関わらず、2葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献(出典)の調査が不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
[授業の概要・目的]											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、子罕篇の詳細な校勘記を作成する。</p>											
[到達目標]											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。</li> <li>・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。</li> <li>・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>『論語義疏』子罕篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 ガイダンス</li> <li>・第2・3回 「子疾病子路使門人為臣」章</li> <li>・第4・5回 「子貢曰有美玉於斯」章</li> <li>・第6回 「子欲居九夷」章</li> <li>・第7回 「子曰吾自衛反魯」章</li> <li>・第8回 「子曰出則事公卿」章</li> <li>・第9回 「子在川上」章</li> <li>・第10回 「子曰吾未見好德」章</li> <li>・第11・12回 「子曰譬如為山」章</li> <li>・第13回 「子曰語之而不惰者」章</li> <li>・第14回 「子謂顔淵曰惜乎」章</li> <li>・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する）</li> </ul>											
[履修要件]											
中級程度の中国語を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

中国哲学史(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する  
必要なテキストは教室にて配布する。

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する  
毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。  
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

必ず予習した上で、授業に出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 31541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(演習) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 古勝 隆一			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		『論語義疏』講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、儒教文献『論語義疏』を講読する。その経文・何晏等集解・皇侃義疏、そして『經典釈文』（論語音義）を講読の対象とする。</p> <p>テキストに正面から向かい合い、正確な理解を目指すのはもちろんだが、それをサポートする、書誌学的・校勘学的な知識もあわせて習得することを目標としている。</p> <p>複数の写本の影印に基づき、子罕篇の詳細な校勘記を作成する。</p>											
【到達目標】											
<p>以下の三点が具体的な到達目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『論語義疏』の諸本を比較し、書誌学的ならびに校勘学的な手法を習得する。</li> <li>・訓詁に着目し、『論語義疏』を正確に理解する。</li> <li>・上記二点に基づき、校勘記を完成させる。</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>『『論語義疏』子罕篇の校勘記を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 ガイダンス</li> <li>・第2回 「子曰苗而不秀者」章</li> <li>・第3回 「子曰後生可畏」章</li> <li>・第4・5回 「子曰法語之言」章</li> <li>・第6回 「子曰主忠信」章</li> <li>・第7回 「子曰三軍可奪帥也」章</li> <li>・第8・9回 「子曰衣敝yun袍」章</li> <li>・第10回 「子曰歳寒」章</li> <li>・第11回 「子曰知者不惑」章</li> <li>・第12回 「子曰可與共學」章</li> <li>・第13・14回 「唐棣之華」章</li> <li>・第15回 フィードバック（詳細は授業時に指示する）</li> </ul>											
【履修要件】											
中級程度の中国語を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。平常点は、授業への参加状況、授業の予習、および授業内での発言を重視する。											
----- 中国哲学史(演習)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(演習)(2)

### [教科書]

授業中に指示する  
必要なテキストはPDFにて配布する。

### [参考書等]

(参考書)

毎回の授業に、以下に指定する工具書のうち、いずれかを携帯することを求める。  
『新華字典』『古代漢語詞典』『王力古漢語字典』(中華書局)。

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に工具書類を用いて文意を読み取っておくこと。

### (その他(オフィスアワー等))

月曜4限をオフィス・アワーにあてる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET12 21550 LJ36									
授業科目名 <英訳>		中国哲学史(講読) History of Chinese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 池田 恭哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		「孟子」の思想を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業の最大の目的は、漢文を読むための基礎的な知識を習得し、それらを活用して実際の漢文を読み、その読解力を身につけることである。そのため前期の中盤までは、漢文とその読み方について概説をする。</p> <p>概説の後には、実際の漢文読解の段階に進む。今年度はテキストに「孟子」の代表的な注釈書である清・焦循『孟子正義』を用いる。孟子については性善説など高校の授業でその思想に触れたことのある人も多いだろう。本授業では、原典を自分で読むことを通じて、孟子の思想と向き合ってみよう。その際、清朝の焦循が著した孟子の代表的な注釈書である『孟子正義』に導かれつつ読む。中国古典の読解に欠かせない「注釈」の意義を実感し、またその形式に慣れてもらうためである。</p> <p>この授業では、原典の読解を通して、色々な読解の可能性を出席者同士で討議することを特に重視する。漢文読解の基礎は前期を中心に概説し、また原典の読解も、履修者のペースに合わせて進めるので、漢文読解の経験、専攻分野を問わず、様々な興味関心から多くの学生の参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>目標は下記の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、漢文を読むための基礎的な知識を習得する。</li> <li>2、漢文読解における注釈の意義を理解できる。</li> <li>3、注釈を活用しつつ、自ら出典を調べ、漢文を正確に読める。</li> <li>4、出典を調べる際に活用する工具書、あたるべきテキストなどを整理できる。</li> <li>5、自らの読解内容を、根拠を持って他者に提示しつつ議論することで、自らの読解を深める。</li> </ol>											
[授業計画と内容]											
<p>最初のうちは講義形式で進める。時にその内容の定着を見る問いを發し、それに出席者に答えてもらう場合もある。</p> <p>焦循『孟子正義』を読む段階に入ってから、毎回の担当者を決め、訳注稿を作成してきてもらい、それについて出席者全員で討議する形式をとる。その際には、担当者以外の出席者の積極的な参画、発言を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 漢籍に触れる：漢籍の歴史、形態について</li> <li>3・4 漢文の読み方：直読、訓読、現代語訳について</li> <li>5・6 漢文の読み方：典故について</li> <li>7・8 漢文の読み方：注釈について</li> <li>9 『孟子』とその注釈：その成立と趙岐、朱熹、焦循らによる注釈について</li> <li>10~30 『孟子正義』の読解と討議（梁恵王章句上から）</li> </ol> <p>フィードバックの方法は授業時に指示する。</p>											
----- 中国哲学史(講読)(2)へ続く -----											

## 中国哲学史(講読)(2)

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点による（教員の発問に対する積極的な回答、訳注稿に基づく発表、その修正稿の提出、自身の予習に基づく討議への参加、前期末・後期末に課すレポート課題などを総合的に判断する）。

### 【教科書】

授業中に指示する  
テキストはコピーして配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

何より学生が主役であるため、他者が作成した訳注稿に対して自身の意見を言うためには、相応の予習が必要となる。また自身が作成した訳注稿は、復習として後日修正稿を提出してもらう。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系80

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		パーシュパタ研究									
【授業の概要・目的】											
シヴァ教の最古の宗教集団であるパーシュパタ派については、近年関連する新しい文献の発見・出版により、研究が大きく進展している。この授業では、パーシュパタ派の現存最古の教義書であるパーシュパタースートラとそのカウンディニャによる注釈を取り上げ、最新の研究成果に基づき、この聖典の成立過程、スートラと注釈の関係、ヴェーダの宗教文化からパーシュパタ派への連続性、シヴァ教全般におけるこの宗派の位置付けなどを再考することを目的とする。											
【到達目標】											
宗教的な教義書とその注釈の文体に慣れると同時に、シヴァ信仰の視点から初期ヒンドゥー教について理解を深めることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 パーシュパタ派の概論・近年の研究動向 第2～7回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第3章の精読と解説 第8～12回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第4章の精読と解説 第13～14回 パーシュパタ・スートラおよび注釈第5章の精読と解説 第15回 総括											
【履修要件】											
基礎的なサンスクリット読解能力											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により評価する。											
【教科書】											
授業で扱う資料はアップロードし、学期の初めにその情報を告知する。主たる校訂版および英訳は以下のとおりであるが、授業ではできる限り準備中の新しい校訂テキストを使用する。 Pasupata Sutras with Pancharthabhashya of Kaundinya. Edited by R. Ananthakrishna Sastri. Trivandrum Sanskrit Series, CXLIII. The Oriental #8232Manuscripts Library of the University of Travancore, Trivandrum, 1940. Hara Minoru, Materials for the study of Pasupata Saivism. Unpublished PhD thesis, Harvard University, 1966.											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## インド古典学(特殊講義)(2)

### [参考書等]

#### (参考書)

Hara Minoru, Pasupata Studies. Edited by Jun Takashima. Publications of the de Nobile Research Library, Vienna, 2002. Rep.: Motilal Banarsidass, Delhi.

他の研究書・論文は授業中に紹介する。

### [授業外学修(予習・復習)等]

テキストを精読する回には予習(訳の準備)が必要となる。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系81

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian Aesthetics									
【授業の概要・目的】											
This course is designed as a general introduction to the theory and practice of Indian aesthetics. It provides two things: 1) a historiographic survey of the most influential authors, works, and theories; and 2) a narrative account of the major debates and disputes that led to specific evolutions of doctrine and practice.											
【到達目標】											
Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is our goal? Introduction to the sources and languages.</p> <p>Week 2 The challenge of South Asian polyglossia, heteroglossia and hyperglossia. What is the point of historiography? How can we periodize and localize South Asia?</p> <p>Week 3 Bharata 's Natyasastra, The Foundational Text, Theatre, Dance, Music, Poetry and Other Arts</p> <p>Week 4 Early Development of the Rasa Theory</p> <p>Week 5 The Early Rhetoricians: Bhamaha and Dandin</p> <p>Week 6 Competing Categories I: Vamana and his Virtues; Defects; Textures; Styles</p> <p>Week 7 Competing Categories II: Rudrata and the Systematisation of Ornaments of Sound, Sense, and Both</p> <p>Week 8 Competing Categories III: Anandavardhana and the New Paradigm: Denotation, Implication, Suggestion, Sentiment</p> <p>Week 9 The Synthesizers: Bhoja and Mammata</p> <p>Week 10 Ruyyaka and the Epistemology of Aesthetics</p> <p>Week 11 Sobhakara's Modal Aesthetics</p> <p>Week 12 Aesthetics as Theology: Visvanatha, Simhabhupala and the Bhakti Movements</p> <p>Week 13 Aesthetics and the New Style of Philosophy: Appayadiksita and Jagannatha</p> <p>Week 14 The Unexpected Return of Figurative Poetry</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular reading of assigned work and participation in the group discussions.											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## インド古典学(特殊講義)(2)

### 【成績評価の方法・観点】

In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%). One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).

### 【教科書】

Sheldon Pollock 『A Rasa Reader』 ( Columbia University Press. 2016 ) ISBN:978-0-231-54069-8

### 【参考書等】

( 参考書 )

Introduced during class

### 【授業外学修（予習・復習）等】

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

### （その他（オフィスアワー等））

pollock@uchicago.edu

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系82

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Esoteric Yoga									
【授業の概要・目的】											
<p>This class has a twofold aim. [1.] It introduces the main authors, scriptures, commentaries, and exegetical works describing the practices and theories of systems of Tantric yoga.</p> <p>[2.] We will study, in English translation, selected passages defining key practices and theoretical paradigms that went on to influence other systems of meditation and yoga.</p>											
【到達目標】											
<p>Students will be introduced to different styles of scholarship and different methods of analysis current primarily in South Asian studies. The aim is to familiarise students with topics of ongoing debate and to provide them with tools to meaningfully engage with newly emerging literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Week 1 What is Tantrism? The Sources of Liberation; Ritual, Knowledge, Yoga and Observance</p> <p>Week 2 The Major Initiation Lineages and their Attitude to Yoga</p> <p>Week 3 The Saivasiddhanta; Dualism and the Supremacy of Ritual</p> <p>Week 4 The Nondualists and the Supremacy of Knowledge</p> <p>Week 5 The Antiritualist Tradition</p> <p>Week 6 Tarka: The Yoga of Six Ancillaries</p> <p>Week 7 The Varieties of the Subtle Body</p> <p>Week 8 Kaula Yoga: Pinda, Pada, Rupa and Rupertita, The Early Development of Kundalini</p> <p>Week 9 The Western Transmission of Kujjika and the Later Evolution of Kundalini Yoga</p> <p>Week 10 The Dharanas of the Vijnanabhairava I</p> <p>Week 11 The Dharanas of the Vijnanabhairava II</p> <p>Week 12 The Rejection of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 13 The Accomodation of Patanjali's Yoga</p> <p>Week 14 The Matsyendrasamhita, The Amrtasiddhi and Early Hatha Yoga</p> <p>Week 15 Concluding Summary</p>											
【履修要件】											
Regular preparation of assigned readings and participation in the group discussions.											
【成績評価の方法・観点】											
In class, discussion and contextualization of the assigned readings (40%).One response paper to the discussions of the readings (30%). Homework (30%).											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(特殊講義)(2)へ続く -----											

インド古典学(特殊講義)(2)

---

[参考書等]

(参考書)

A.G.J.S. Sanderson 『The Saiva Literature』 (Journal of Indological Studies, Nos. 24 & 25 (2012--2013))

[授業外学修(予習・復習)等]

The participants are expected to attend every class. The weekly readings of the short sections should take about one hour of preparation for each class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系83

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェーダ語を読む力を身につける。</li> <li>・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。</li> <li>・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。</li> <li>・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hymn 1（7週間）</li> <li>2. Hymn 2（7週間）</li> <li>3. フィードバックなど（1週間）</li> </ol>											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系84

科目ナンバリング		U-LET13 31633 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(特殊講義) Indological Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 CATT, Adam Alvah			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リグ・ヴェーダを読む (Reading the Rigveda)									
[授業の概要・目的]											
<p>紀元前1400年頃にさかのぼるヴェーダ語（古期サンスクリット語）はインド・ヨーロッパ語の一つである。その文献の信頼度の高さと豊富さから、ヴェーダ語は古代インド・ヨーロッパ語研究において中心的な存在である。今回の授業では、最古のテキストであるリグ・ヴェーダとその注釈書を読み、言語学およびパーニニ文法の観点から考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴェーダ語を読む力を身につける。</li> <li>・古代インド・ヨーロッパ語としてのヴェーダ語に関する知識を深める。</li> <li>・言語学者としてヴェーダ語を考える能力を養う。</li> <li>・問題意識を高め、研究テーマを自分で探せるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>この授業では、1週間に1 stanza ~ 2 stanzaのペースで読み進める予定（学生のレベルや議論の深さに応じて内容を調整できるよう、以下の授業計画は週毎に分けられていない）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Hymn 1（7週間）</li> <li>2. Hymn 2（7週間）</li> <li>3. フィードバックなど（1週間）</li> </ol>											
[履修要件]											
サンスクリット語の基礎知識を持つことが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
予習の出来具合により評価する。4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
前回の復習と、課された宿題を十分に準備すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Tocharian and Indo-European Linguistics									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to Tocharian languages and historical grammar of Indo-European languages. Based on the knowledge of Indo-European linguistics presented at the beginning of the course, synchronic and diachronic (historical) grammar of Tocharian including nominal and verbal systems will be explained. Reading materials include Sanskrit-Tocharian bilingual texts and Tocharian B Vinaya and Jataka with well-preserved parallel texts in Sanskrit and Chinese.											
【到達目標】											
The participants will be able to read Tocharian manuscripts in Brahmi script, learn the basic grammar of Tocharian A and B as well as rudiments of Indo-European linguistics.											
【授業計画と内容】											
Week #01 Introduction: Discovery and History Week #02 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 1 Week #03 Introduction: Indo-European linguistics and PIE part 2 Week #04 Script and Manuscripts Week #05 Tocharian B: nominal system (case), verbal system (ending, present) Week #06 Tocharian B: nominal system (declension class), verbal system (subjunctive) Week #07 Tocharian B: nominal system (adjective, pronoun), verbal system (preterite) Week #08 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #09 Tocharian B: reading Sanskrit-Tocharian B bilinguals of Udanavarga Week #10 Tocharian B: reading Tocharian B Vinaya Week #11 Tocharian B: reading Tocharian B Jataka Week #12 Tocharian A: grammar Week #13 Tocharian A: reading Vinaya Week #14 Tocharian A: reading Vinaya Week #15 Feedback											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. #160Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

---

### [参考書等]

(参考書)

Melanie Malzahn 『Instrumenta Tocharica』 (Heidelberg, 2007) (for the Brahmi script)

Wolfgang Krause, Werner Thomas 『Tocharisches Elementarbuch, Band I Grammatik』 (Heidelberg, 1960)

Georges-Jean Pinault 『Chrestomathie tokharienne』 (Paris, 2008)

(関連URL)

<https://www.univie.ac.at/tocharian>(Manuscript, text, grammar, dictionary, bibliography)

### [授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Introduction to Indian (Paninian) Grammar									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to traditional Indian grammar represented by the grammarian Panini. The course content will cover history of Indian grammatical traditions, system of Paninian grammar and its influence. Reading materials include Panini 's grammar Astadhyayi, commentaries on Astadhyayi as well as Pali, Prakrit and Buddhist grammar developed from Astadhyayi.											
【到達目標】											
The participants will learn the logic and terminology of Paninian grammar, grammatical operations as well as other grammatical traditions based on Astadhyayi.											
【授業計画と内容】											
Week #01 Introduction: Why should we study Indian grammar? Week #02 Introduction: History of scholarship and bibliography Week #03 Introduction: History, influence and terminology of Paninian grammar Week #04 Introduction: Grammatical operations (pratyahara, pratyaya, agama, declension, conjugation) Week #05 Reading: Sarasiddhantakaumudi of Varadaraja (17th cent., Devasthali); Siddhantakaumudi of Bhattoji Diksita (16th-17th cent., Chandra Vasu) Week #06 Reading: Sarasiddhantakaumudi; Siddhantakaumudi Week #07 Astadhyayi (5th-4th cent. BCE, Katre) Week #08 Astadhyayi (Katre) Week #09 Astadhyayi in RV commentary (Sayana 14th cent.) and Kavya commentary (Meghaduta, Mallinatha 14th-15th cent.) Week #10 Kasika of Jayaditya & Vamana (7th cent., Ojihara & Renou) Week #11 Mahabhasya of Patanjali (2nd cent. BCE), Pradipa of Kaiyata (10th-11th cent.) and Uddyota of Nagesa (18th cent., Joshi & Roodbergen) Week #12 Pali grammar: Saddaniti of Aggavamsa (12th cent., Smith) Week #13 Prakrit grammar: Prakrtaprakasa of Vararuci (3rd-4th cent., Cowell) Week #14 Buddhist grammar: Candravyakarana of Candragomin (7th cent., Liebich) Week #15 Feedback											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系87

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		マハーカーヴィヤ研究									
[授業の概要・目的]											
<p>9世紀にカシュミールでシヴァスヴァーミン焔vasvaminによって著された『Kapphinabhyudaya (カッピナ王の興隆)』は、成熟期のマハーカーヴィヤの代表作の一つであるが、まだ十分に研究されていない。本授業では、20章からなるこの作品の中から、宴会を扱う第13章を講読する。また同じ主題を扱うマーガ作『焔焔palavadha (シシュパーラの殺害)』第6章、バーラヴィ作『Kiratarjuniya (獵師とアルジュナ)』第9章、ラトナーカラ作『Haravijaya (シヴァの勝利)』第26章と比較し、シヴァスヴァーミンがこれら先行作品のモチーフや技法をどのように利用し、また変更しているかを検討する。</p>											
[到達目標]											
成熟期の、技巧をこらしたサンスクリット詩を読解する力が身につく。またインドにおける文学の伝統が実際にどのように機能していたのかを学ぶことができる。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 Kapphinabhyudayaの概説          第2～14回 Kapphinabhyudaya第13章を講読し、先行作品の類似詩節と比較する。          第15回 総括</p>											
[履修要件]											
中級以上のサンスクリット読解能力											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により評価する。											
[教科書]											
授業中に扱うテキストの章については、最初の授業の際に資料をアップロードしたリンクを指示する。主たるテキストは、Michael Hahn (compiled by Yusho Wakahara), Kapphinabhyudaya or King Kapphina's Triumph: A ninth century Kashmiri Buddhist Poem. Institute of Buddhist Cultural Studies, Ryukoku University, Kyoto, 2007. (978-4-8318-7281-4 C3015)。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
Kapphinabhyudayaには現代語訳が存在しななので、予習に十分な時間が必要となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系88

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36										
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授				VASUDEVA, Somdev
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語	
題目		Nyaya and Vaisesika Realist Philosophy in India										
【授業の概要・目的】												
This course is a Sanskrit reading course focussing on the Tarkasamgraha of Annambhatta composed in the 17th century. We will perform a close reading of the selected text and analyze the content paying attention to philosophical themes and controversies with rival schools of thought.												
【到達目標】												
The objective is to familiarize students to read specialized Sanskrit philosophical texts. Students will learn: 1) how to interpret the sutras and commentaries according to the criteria that guided the original authors, and 2) how to interpret the text according to contemporary philological, hermeneutic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.												
【授業計画と内容】												
week 1: padartha, dravya, guna week 2: karma, samanya, visesa week 3: samavaya, non-existence, the elements week 4: time and space week 5: the self week 6: the mind, the sensory media week 7: maturation week 8: number, size week 9: separateness, union week 10: division week 11: otherness and belonging week 12: language week 13: intellect and experience week 14: cause and effect week 15: reflection												
【履修要件】												
特になし												
【成績評価の方法・観点】												
participation in class. preparation and translation in class.												
【教科書】												
授業中に指示する												
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----												

インド古典学(演習)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of material before each week's reading.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーリ語について(言語的特徴などについて概説)</li> <li>・精読に必要な辞書や文法書などの紹介</li> <li>・講読テキストのプリント配布</li> <li>・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど)</li> </ul> <p>第2回-5回：テキスト講読：猿王本生譚(Vanarindajataka)</p> <p>第6回-9回：テキスト講読：兔本生譚(Sasajataka)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：四門本生譚(Catudvarajataka)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。</li> <li>・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。</li> </ul>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [履修要件]

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

### [成績評価の方法・観点]

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

### [教科書]

プリント配布

### [参考書等]

（ 参考書 ）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』 ( The Pali Text Society ) ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』 ( 山喜房佛書林 ) ISBN:4-7963-0010-4

Dines Andersen 『A Pali Reader (Part 1) ; Text and Notes』 ( Luzag & Co., 1901 )

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

### (その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

## 東洋文化学系90

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用できるようになる。乞食に関わる規定の撰文を読むことで、命あるものとはどういう状態をいうか、受け取ってよい飲食物はどのようなものか等、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介  2回目:母音と子音の音韻変化  3回目:名詞変化  4回目:代名詞の変化  5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形)  6回目:過去時制、分詞etc.  7回目~10回目:出家者の1日の過ごし方を述べる『ウッタラジャヤナ』第26章からの抜粋、日課を述べる『アーヴァッサヤ』第1章からの抜粋の読解  11回目~15回目:違反行為をした場合の滅罪に関わるテキストの紹介と撰文(主に『ウッタラジャヤナ』からの抜粋と、滅罪に言及するテキストからの抜粋)の読解とまとめ  テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [教科書]

コピーを配布する

渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』 第14-16号, 2008--2010.  
F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系91

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 天野 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ヴェーダ祭式文献研究									
【授業の概要・目的】											
<p>古代インド最古層の散文テキストを含む、マイトラーヤニー・サンヒター（BC900年頃成立）から重要な箇所を選んで内容を検討し、当時の思想および社会について考察する。今学期は、ヴェーダ祭式のうち起源が古く、最も重要な祭式の一つと考えられるソーマ祭（興奮状態を作る作用のあるソーマという植物の搾り汁を使った祭式）の章を講読する。難解な内容を理解するために、言語的に精密な読解が必要であり、そのためのヴェーダ言語学、印欧語比較言語学の知識を学ぶ。同文献は、インド思想の発展、社会の変遷についても貴重な資料を多く含むため、後の時代のインドの宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）や社会に関心のある者にとっても、重要である。</p>											
【到達目標】											
<p>最古のヴェーダ祭式文献の精読によって、インド文献（サンスクリット文献）を言語学的に正しく読解する能力を得る。ヴェーダ文献の言語、思想を深く理解するために必要な研究書を多く紹介し、ヴェーダ研究の専門的な知識、印欧語比較言語学の基礎知識を身に付ける。後にインドで発展した様々な宗教（ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教）に連なる、原初的な信仰について学ぶため、インド思想史、インド社会史全体についての理解が深まることが期待される。文献の内容のみならず、文献の成立状況についても多くの問題が残っているため、このような未解決の問題に対する学問的な態度を学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回授業時に「ヴェーダ祭式文献についての概観、ヴェーダ文献研究の方法論」を講義する。予習のやり方（必要な研究書について、その使い方について）を詳しく講義する。 第2回から第15回は、マイトラーヤニー・サンヒター（ソーマ祭に関する記述）の原典講読を行う。原文テキストはこちらで用意するので、それをもとに参加者が事前に訳を準備し授業内で発表し、解釈について議論を行う。言語学的あるいは祭式・文化的側面について、参加者から疑問を提示してくれることを歓迎する。</p>											
【履修要件】											
<p>サンスクリット基礎文法の既習者。ただし、サンスクリット文法の未修者であっても授業に興味のある人は、個別に相談に応じた上、履修を許可する場合があります。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（予習および授業内容の復習の状況）による。</p>											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [教科書]

教材を授業時に配布する。

### [参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 ( Motilal Banarsidass, 1993 ) ISBN:81-208-1053-8 ( インド古典学研究室にて購入できる。 )

### [授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介したヴェーダ原典研究の方法を用いて、予習をすること。原典を精読するため、量的に多くは進まないが、一語一語の音韻、文法、語義についてよく吟味し、文全体の構造を考える必要がある。授業で紹介した論文等は、その都度触れておくことが望ましい。学習したことをいつでも見直しできるように、ノートや何らかのシステムを自分で構築することが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系92

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Khotanese and Iranian Linguistics									
【授業の概要・目的】											
This course offers an introduction to Old and Middle Iranian languages including Avestan, Old Persian and Khotanese. Along with language and literature, students will learn the scripts for writing Avestan, Old Persian and Khotanese as well. The reading materials include Avestan Yasna, Old Persian inscriptions of King Darius I and Khotanese Vajracchedika. Therefore, this course provides glimpses into development of Iranian languages, early history of Iran as well as early Buddhism.											
【到達目標】											
The participants will learn Avestan, Old Persian and Khotanese scripts, Old and Middle Iranian languages and historical grammar of Iranian linguistics.											
【授業計画と内容】											
Week #01 Introduction: From PIE to Indo-Iranian Week #02 Introduction: Avestan languages and Avesta Week #03 Introduction: Old Persian and Cuneiform Week #04 Khotanese and Buddhist texts Week #05 to #07 Reading: Old Avestan Yasna Week #08 to #10 Reading: Behistun Inscription (Old Persian) Week #11 to #14 Reading: Khotanese Vajracchedika Week #15 Feedback											
【履修要件】											
Sanskrit knowledge is desired, but not necessary.											
【成績評価の方法・観点】											
Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam. Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

## インド古典学(演習)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<https://gandhari.org>(Text, dictionary, bibliography)

### [授業外学修(予習・復習)等]

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系93

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらおう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系94

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子 文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev 文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		インド学・サンスクリット学の諸問題（論文指導）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、受講者はインド学・サンスクリット学の分野において、みずから選んだテーマに関する研究成果を発表し、討論の場で議論して批判を受ける。こうした訓練を重ねることで、批判的な研究方法、本格的な論文を作成するための技術を身につけることを目的とする。											
【到達目標】											
インド学・サンスクリット学の分野における研究方法を学び、論文作成技術を身につけることができる。											
【授業計画と内容】											
学生各自が選んだテーマについて、毎回研究発表をおこなってもらい、議論・批判を通して論文の作成方法について指導する（15週）。当該年度の卒論・修論・博論提出予定者にはそれぞれの論文に関わるテーマやテキストに関する発表を行ってもらう。それ以外の学部生、院生はそれぞれの研究課題について特定のテーマを選んで発表を行ってもいいし、また近年の重要論文についての研究発表を行ってもよい。各学生には1～2回程度の発表の機会が与えられる。また、当該分野の短期滞在中の研究者や教員が模範として発表を行うこともある。討論を通じて研究方法、論文作成方法を学ぶことが主眼なので、討論の時間を十分にとるために各自の1回の発表は半時間程度におさめることが望ましい。											
【履修要件】											
原則的にインド古典学専修の学生であるが、インド学に関連する分野の研究を行っている他専修の学生も履修可。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（発表と討論への参加度により総合的に判断する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし。											
【授業外学修（予習・復習）等】											
発表内容について早めに計画をたてて、十分な準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
インド古典学の学部4年生以上の学生には必修。自分の発表をするだけでなく、他の発表を聞いて積極的に討論に参加することを期待する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系95

科目ナンバリング		U-LET13 21644 SJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(演習) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 VASUDEVA, Somdev			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		The Digvijaya chapter of the Raghuvamsa of Kalidasa									
【授業の概要・目的】											
This course is a Sanskrit reading course focussing on the fourth chapter of the Raghuvamsa of Kalidasa an ornate "Composition in Cantos" completed in the Gupta empire between 415 and 445 CE. The chapter deals with an idealized account of a campaign of conquest taking in the whole of South Asia known to the author.											
【到達目標】											
The objective is to familiarize students to read the specialized Sanskrit of courtly "Compositions in Cantos" (sargabandha) that were the most prestigious literary form of produced by classical poets. Students will learn: 1) how to interpret the grammar, syntax, narrative, and aesthetic content of the work according to the standards that guided the original author and his commentators. 2) We will examine how to interpret the text according to contemporary philological, linguistic, aesthetic and philosophical theories. Students will be introduced to standard form of English translation commonly used to translate such material.											
【授業計画と内容】											
week 1: chapter 4.1.6, the background, Raghu becomes king week 2: chapter 4.7--13, the setting, Raghu and the natural world. week 3: chapter 4.14--20, the opportune season is at hand week 4: chapter 4.21--27, Raghu sets out week 5: chapter 4.28--35, conquest of the directions week 6: chapter 4.36--42, conquest of the directions 2 week 7: chapter 4.36--42, conquest of the directions 3 week 8: chapter 4.43--48, conquest of the directions 4 week 9: chapter 4.49--55, conquest of the directions 5 week 10: chapter 4.56--62, conquest of the directions 6 week 11: chapter 4.63--68, conquest of the directions 7 week 12: chapter 4.69--74, conquest of the directions 8 week 13: chapter 4.75--82, conquest of the directions 9 week 14: chapter 4.82--91, conquest of the directions 10 week 15: revision and recapitulation											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
participation in class. preparation and translation in class.											
----- インド古典学(演習)(2)へ続く -----											

インド古典学(演習)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Preparation of material before each week's reading.

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系96

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 横地 優子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(古典サンスクリット)									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット文法を既習した学生を対象とする初級演習。語彙集を備えたリーダーを使って、易しい韻文・散文を読むことで文法知識を確実に身につけること、最終的に辞書を使って自力で原典が読めるようになることを目的とする。											
【到達目標】											
サンスクリット文法をきちんと身につけた上で、テキストを正確に読むことができるようになる。また、サンスクリットの辞書を有効に使えるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 これからテキストを読んでいくための基礎的知識と工具書(文法書・辞書など)の説明を行う。文の基本構造の分析や複合語などのいくつかの文法項目の復習を行う。 第2～6回 教科書のうち、「ナラ王物語」から数章を読む。 第7～11回 「ヒトパデーシャ」からいくつかの物語を選んで読む。 第12～14回 「カターサリットサーガラ」からいくつかの物語を選んで読む。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック 毎回の進度は受講者の習熟度によるが、最初の数回は文法を確認しながらゆっくり読み、その後は毎回2頁程度の進度で読み進める予定である。フィードバックの方法は授業中に指示する。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験によって評価する。											
【教科書】											
Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 (Motilal Banardidass) ISBN:978-81-208-1362-2 (インド学研究室にて購入できる。)											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習・復習が必須である。特に復習が大事であり、予習が十分できなかった場合も授業には出席して復習をきちんと行うことが肝心である。またデーヴァナーガリ文字を学んでいない者は、受講前に自習しておくこと(サンスクリットやヒンディーの文法書で自習することができる)。

### (その他(オフィスアワー等))

この授業を履修する学生は、後期に開講される「サンスクリット初級演習(ヴェーダ語)」も履修することが望ましいが、どちらを先に履修してもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 天野 恭子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級演習(初期サンスクリット[ヴェーダ語])									
【授業の概要・目的】											
サンスクリット基礎文法の既習者を対象とする初級演習。ヴェーダ聖典の原文を講読しながら、初期サンスクリット(ヴェーダ語)の文法や原典講読の方法論の基礎を習得する。											
【到達目標】											
サンスクリット語の文章を正確に分析する技法を学ぶ。音韻、文法、語形成法についての知識を、実際の原典講読に生かす、原典研究の基礎的な力を身に付ける。サンスクリット原典研究に必要な、基本的な研究書の使い方を学ぶ。本授業では、古典サンスクリットとは異なる古い特徴を残す、初期サンスクリット語(ヴェーダ語)を扱うため、その語形・文法理解に欠かせない、印欧語比較言語学の基礎知識も学ぶ。ヴェーダ聖典という、非常に古い文献を扱うため、古代インド社会の歴史的・文化的背景についての知見も得る機会となる。											
【授業計画と内容】											
Lanman, C. R., A Sanskrit Readerを教科書とし、その中のヴェーダ聖典を引用している部分を学習する。 引用されているヴェーダ聖典は、韻文で作られた讃歌や、散文で記された神学的祭式解釈など、幅広いジャンルを含むが、そのような様々な文体、内容に触れる。参加者は、A Sanskrit Readerに収録されている語彙集を用いて事前に原文を訳し、授業で発表する。それに加え、原典を実際に研究する際に必要な専門書を授業の中で紹介し、使用の手ほどきをする。  第1回 ヴェーダ聖典についての概論。 第2回～第15回 テキスト精読(リグヴェーダ、アイタレーヤ・ブラーフマナ、シャタパタ・ブラーフマナ)。											
【履修要件】											
サンスクリット文法既習者。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(講読の予習および授業内容の復習の状況)によって評価する。											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

### [教科書]

Lanman, C.R. 『A Sanskrit Reader』 ISBN:978-81-208-1363-2 (インド古典学研究室にて購入できる。)

### [参考書等]

(参考書)

Macdonell, A. A. 『A Vedic Grammar for Students』 (Motilal Banarsidass, 1993) ISBN:81-208-1053-8 (インド古典学研究室にて購入できる。)

### [授業外学修(予習・復習)等]

毎回の予習が必須であるが、予習をしていなくても欠席しないこと。原典を丁寧に精読するため、量的には多く進まないが、一語一語の音韻の問題、文法形、語彙の意味を吟味し、文全体の構造もよく考えて予習を行う必要がある。授業で習ったことを、必要があればいつでも見直しできるように、知識を蓄積するノートや何らかのシステムを、それぞれが工夫して作ることが望ましい。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;  Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.ahtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;  Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;  Week #04 Indology in German 4.1. Important Scholars											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### **【履修要件】**

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### **【成績評価の方法・観点】**

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### **【教科書】**

授業中に指示する

### **【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

### **【授業外学修(予習・復習)等】**

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET13 21653 LJ36									
授業科目名 <英訳>		インド古典学(講読) Indological Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools &amp; Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert &amp; von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p> <p>4.1. Important Scholars</p>											
----- インド古典学(講読)(2)へ続く -----											

## インド古典学(講読)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### **【履修要件】**

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### **【成績評価の方法・観点】**

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### **【教科書】**

授業中に指示する

### **【参考書等】**

(参考書)

授業中に紹介する

### **【授業外学修(予習・復習)等】**

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

インド古典学(講読)(3)へ続く

インド古典学(講読)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系100

科目ナンバリング		U-LET49 19616 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(2時間コース)(語学) Sanskrit(2H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		サンスクリット初級文法(2時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>サンスクリット語は南アジア(インド)において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教(仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等)や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。</p>											
【到達目標】											
<p>このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。</p> <p>前期 サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回) 名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回) 代名詞、数詞、複合語(第14-15回)</p> <p>後期 動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回) 未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回) 年度末テスト(テスト期間) フィードバック期間:フィードバック(第30回)</p> <p>授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。</p>											
----- サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット(2時間コース)(語学)(2)

**[履修要件]**

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

**[成績評価の方法・観点]**

- ・平常点(練習問題への理解度(授業期間中に「確認テスト」を実施)、40点)
- ・年度末筆記試験(60点)

**[教科書]**

吹田隆道(編著)『実習サンスクリット文法:萩原雲来『実習梵語学』新訂版』(春秋社,2015)  
ISBN:978-4393101728

**[参考書等]**

(参考書)

辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店,1974) ISBN:978-4000202220

**[授業外学修(予習・復習)等]**

予習:各回の進捗状況に合わせて、原則として次の2つのいずれかを授業中に指示します。

- ・宿題として出された練習問題の解答(訳)を準備してくること。
- ・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと(特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す)。

授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系101

科目ナンバリング		U-LET49 19617 LJ48									
授業科目名 <英訳>		サンスクリット(4時間コース)(語学) Sanskrit(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	1回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	月5,木5	授業 形態	語学	使用 言語	英語
題目		Sanskrit Grammar									
【授業の概要・目的】											
<p>This course targets at students with no prior knowledge of Sanskrit and offers a systematic introduction to the Sanskrit language and its linguistic background. The course content basically include: (1) Learn the Sanskrit grammar and check the linguistic remarks in the textbook (see below); (2) Historical grammar of Sanskrit (for example cognate words in other language families including Iranian, Greek and Germanic languages); (3) Translate Sanskrit sentences into English (exercises in the textbook + Buddhist Sanskrit texts); (4) Occasional exercise of English to Sanskrit translation.</p>											
【到達目標】											
<p>(1) to read and write in Devanagari-script (also used for Hindi)  (2) to gain a systematic overview of basic and intermediate grammar of Classical Sanskrit  (3) to develop skills of reading and interpreting simple prose and verse in Classical Sanskrit  (4) to understand the history and linguistic background of Sanskrit  (5) to develop basic skills in composing prose sentences in Classical Sanskrit</p>											
【授業計画と内容】											
<p>The overall duration of the course is 30 weeks (15 + 15). Based on the plan laid out in the Japanese version of Perry 's Sanskrit Primer, the first semester covers lessons 1 to 22 and the second semester covers lessons 23 to 45.</p> <p>First semester  Week #01 Introduction to Sanskrit language  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 1 to 22.  Week #15: Feedback</p> <p>Second semester  Week #01 Review course content of lessons 1 to 22  Week #02 to #14: Grammar and exercises in lessons 23 to 45.  Week #15: Feedback</p>											
【履修要件】											
Classes will be held in English with translational help provided by a Japanese TA.											
----- サンスクリット(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

サンスクリット ( 4 時間コース ) ( 語学 ) ( 2 )

**[成績評価の方法・観点]**

Active participation in the classroom, review of studied materials, homework and final exam.  
Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

**[教科書]**

Edward Perry 『A Sanskrit Primer』 ( Orient Book Distributors, 1986 ) ISBN:978-8120802070 ( both English and Japanese version will be used )  
Antonia Ruppel 『Cambridge Introduction to Sanskrit』 ( Cambridge University Press, 2017 ) ISBN:978-1107459069 ( <https://www.cambridge-sanskrit.org> )  
Manfred Mayrhofer 『Sanskrit-Grammatik mit sprachvergleichenden Erläuterungen』 ( de Gruyter, 1978 ) ISBN:978-3110071771  
The books by Perry and Ruppel can be purchased at the department room of Indological Study.

**[参考書等]**

( 参考書 )  
授業中に紹介する

( 関連 URL )

<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/MWScan/2014/web/webtc2/index.php>(Sanskrit-English Dictionary)  
<https://www.sanskrit-lexicon.uni-koeln.de/scans/AEScan/2014/web/webtc/indexcaller.php> (English-Sanskrit Dictionary)  
<https://vedaweb.uni-koeln.de/rigveda/view/id/2.1.1>(Rigveda explained)  
<http://dsal.uchicago.edu/dictionaries/>(Dictionaries of Indian languages)  
<http://www.indoskript.org/letters>(Scripts)

**[授業外学修 ( 予習・復習 ) 等]**

Homework involves preparing translations from Sanskrit into English. Weekly review of grammatical categories and memorization of vocabulary. The expected preparation time is approximately two to three hours per week.

**( その他 ( オフィスアワー等 ) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 19633 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（初級）（語学） Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		白眉センター 特定助教 虫賀 幹華			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2023・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語（初級）									
【授業の概要・目的】											
<p>インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。</p> <p>講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒンディー語の初等文法を習得する。</li> <li>2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。</li> <li>3. 簡単なヒンディー語会話ができるようになる。</li> <li>4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。</p> <p>教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー語会話に挑戦してもらおう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ハリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。</p>											
<p>注意</p> <p>前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜4・5限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。</p>											
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、文字</li> </ol>											
----- ヒンディー語（初級）（語学）(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（初級）(語学)(2)

### 2~3. 文字と発音

4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

< 前期・期末試験 >

15. フィードバック

### 後期

1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める

11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習

< 後期・期末試験 >

15. フィードバック

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）と2回の筆記試験（30％ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

### 【教科書】

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

### 【参考書等】

（参考書）

古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語 = 日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0  
（履修前に辞書を購入する必要はない。）

町田和彦 『ニューエクスプレス ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8

Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

### 【授業外学修（予習・復習）等】

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29659 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）I Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 I									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：アクバルとビールバル、パンチャタントラ、小話ほか  第6～10週目：インド神話関連の物語  第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（マハーバーラタ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。  また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。</li> <li>・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）  期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）I(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）I(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCsyoNsQE37tZIkuvqVPTa7g>(Hindi Fairy Tales)  
<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCR22sCPCRx3J9nfCUV4htGw>(Akbar Birbal Stories)  
[https://www.youtube.com/channel/UCVP73\\_P70GlqG618HNX8qg](https://www.youtube.com/channel/UCVP73_P70GlqG618HNX8qg)(Panchatantra Stories in Hindi)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta（インドのヒンディー語新聞）)  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times（インドのヒンディー語新聞）)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS（インドのニュース・報道専門番組）)  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV（インドのニュース・報道専門番組）)  
<https://www.youtube.com/user/aajaktv>(Aaj Tak（インドのニュース・報道専門番組）)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹（2017）『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID（教育用Video SNSサービス）)  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets（復習用オンライン・アプリケーション）)

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系104

科目ナンバリング		U-LET49 29660 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヒンディー語（中級）II Hindi				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学言語文化研究科 講師 西岡 美樹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヒンディー語中級 II									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、新聞、専門書、詩歌などのヒンディー語や、実際のニュース、映画、ドラマなどに出てくる生きたヒンディー語に触れながら、高度な読解力と聴解力を養う。また、これらの多種多様なヒンディー語に触れることにより、高度なコミュニケーション能力を身に付けることも目指す。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複雑な文章を精読できるようになる。</li> <li>2. 日常会話から学術的な説明文を聞いて理解できるようになる。</li> <li>3. 自分の考えをはっきり具体的に表現できるようになる。</li> <li>4. 単文および複文を使用した作文が自由にできるようになる。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>本授業における基本的な導入順序は以下の通りである。</p> <p>第1～5週目：現代の短篇小説、ヒンディー語映画の詩歌          第6～10週目：新聞記事、TVニュース          第11～15週目：ヒンディー語映画、TVドラマ（ラーマーヤナ、ヴィシュヌ・プラーナ、カター・サーガルなど）</p> <p>なお、進度および内容は、受講者の理解度によって変更される場合がある。          また、授業の区切りごとにフィードバックを行う。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語学訓練には継続性が欠かせないので、授業には継続的に参加すること。</li> <li>・ ヒンディー語初級文法を一通り（目安は下記URLの『初級ヒンディー語文型練習帳』の第1課 - 第15課の文法項目）習得していること。</li> <li>・ 毎年、初級ヒンディー語の進度が全20課中11課あたりで終了しているが、本授業で未習の初級の文法項目については改めて説明しないので、受講する場合はその旨留意すること。</li> </ul>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への積極的な参加（40%）          期末試験あるいはレポート（60%）</p>											
----- ヒンディー語（中級）II(2)へ続く -----											

## ヒンディー語（中級）II(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### （関連URL）

<https://www.youtube.com/channel/UCfJ9NTGXeVnzHtrDFT3-dfQ>(Hindi Acharya)  
[https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR\\_Vw](https://www.youtube.com/channel/UCKsiYfgmEounhNQL5NUR_Vw)(Indian Stories For Kids)  
<https://www.youtube.com/channel/UCnyALzPGNSzIO0B-ltIZoCg>(Gyan Manthan)  
<https://www.youtube.com/channel/UCSjPe5kinQtweyHcFJyyMfw>(Doordarshan National)  
<https://www.youtube.com/user/abpnewstv>(ABP NEWS (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://khabar.ndtv.com/>(NDTV (インドのニュース・報道専門番組))  
<https://www.youtube.com/user/aahtaktv>(Aaj Tak (インドのニュース・報道専門番組))  
<http://www.jansatta.com/>(Jansatta (インドのヒンディー語新聞))  
[http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav\\_Bharat\\_Times/](http://www.indiapress.org/gen/news.php/Nav_Bharat_Times/)(Nav Bharat Times (インドのヒンディー語新聞))  
<https://publication.aa-ken.jp>(西岡美樹 (2017) 『現代ヒンディー語文法概説 初級～初中級編』、 『初級ヒンディー語文型練習帳』)  
<https://flipgrid.com/>(FLIPGRID (教育用Video SNSサービス))  
<https://www.bookwidgets.com/>(BookWidgets (復習用オンライン・アプリケーション))

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキストに出てくる新しい単語については、授業前に辞書を引いて意味を調べ、内容把握をきちんとしておくこと。
- ・聴覚の訓練については、インターネットの動画や音声放送、DVD化された映画やドラマ等を利用し、各自で常に自習をすること。
- ・フィードバックも兼ねて復習用のオンライン・アプリケーションを積極的に使用すること。

### （その他（オフィスアワー等））

今年度の本授業は中上級レベルの予定である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系105

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。授業は、初回に『菩提道次第大論』について概説し、二回目から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。第十五回の授業にフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の同特殊講義もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系106

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ツォンカパの説く仏教の実践とその典拠解説									
[授業の概要・目的]											
チベット仏教を代表する大学者のひとりである、ゲルク派の祖ツォンカパが大乗仏教の実践について著した論書のひとつに『菩提道次第大論』がある。本特殊講義は、インド大乗仏教の実践と比較しながら『菩提道次第大論』を精読し、ツォンカパとインド仏教双方の実践についての理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
ツォンカパの説く実践の検討を通じて、ツォンカパとインド仏教双方の実践に対する理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、授業は『菩提道次第大論』を通読しながら進める。ツォンカパに関する研究はチベット仏教の中では比較的進んでおり、本講義で扱う『菩提道次第大論』にも既に和訳が存在するが、既存の研究を批判的に扱いながら授業に参加することが望まれる。授業の発表担当者は、引用されるインド原典ならびにその論師の立場も十分に把握しておくことが求められる。初回から十四回目の授業では、『菩提道次第大論』を読み進めながら、必要に応じインド原典を引用箇所の前後も含めて平行して取り上げ、問題点の解説ならびに議論を行う。必要があれば、初回に『菩提道次第大論』について概説する。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の同特殊講義を受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』(出家集団の生活規則)をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事(経)』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律(ヴィナヤ)』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：中国仏教を学ぶために必要な基本的な一次資料と工具書</p> <p>第2回：大蔵経の基礎知識・歴史・使用に当たって特に注意すべきこと・大正大蔵経の使用するときの注意点・電子テキスト利用上の注意点</p> <p>第3回：戒律文献漢訳史の概要</p> <p>第4回：『五百問事(経)』の書誌(原典・前近代の諸訳・注釈・主要研究)</p> <p>第5回：『五百問事(経)』が作られた歴史状況を学ぶ</p> <p>第6回：『五百問事(経)』精読(1)</p> <p>第7回：『五百問事(経)』精読(2)</p> <p>第8回：『五百問事(経)』精読(3)</p> <p>第9回：『五百問事(経)』精読(4)</p> <p>第10回：『五百問事(経)』精読(5)</p> <p>第11回：『五百問事(経)』精読(6)</p> <p>第12回：『五百問事(経)』精読(7)</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

第13回：『五百問事（経）』の敦煌写本(a)

第14回：『五百問事（経）』の敦煌写本(b)

第15回：前期の総括

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する）。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』（『東方學報』京都70, 1998）（無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>）

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』（Ajia Major, Third Series, 19-1/2, 2006）（無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>）

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 船山 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		五世紀中国仏教僧の戒律問答『五百問事経』(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>5世紀前半中国仏教の出家者が『律』(出家集団の生活規則)をどのように理解していたか、どこに彼らの興味があったかを知るための資料として『五百問事(経)』がある。この文献は、中国人僧の質問とインド人僧の応答から成る問答集である。問答はどれも短く簡潔だが、その総数は多く、約300余りある。更に、『五百問事』には日本古写本と敦煌写本のみが現存し、名と体裁を変えた『目連問戒律中五百軽重事』という偽経として木版大蔵経に収められているものがよく知られている。</p> <p>インド起源の『律(ヴィナヤ)』には、東アジアの生活実態と合わない規則も含まれるため、中国の仏教徒にとって、漢訳された『律』にはそのまま使って生活できない内容が含まれ、また、中国人が是非知りたいことであっても、文化の異なりがあるため、インドの『律』には明確な規定がない事項も多い。</p> <p>この授業では5世紀中国の仏教の実態を知らせる資料として『五百問事』を精読し、内容を学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>一、仏典漢訳史(仏典漢訳の歴史的変異)の概略を理解する。</p> <p>二、仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三、仏教漢語を上記二面から扱い、適切な現代語訳を作り、漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて次の3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大蔵経に関する知識と使用上の留意点。</li> <li>2. 仏教漢文の訓読法(佛教に特有の訓読の問題点を含む)。</li> <li>3. 電子化された一次資料の使い方と留意事項。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：前期のまとめ。</p> <p>第2回：松尾社一切経2754『五百問事経』について</p> <p>第3回：新宮寺一切経1807『五百問事経』について</p> <p>第4回：『五百問事』精読(1)</p> <p>第5回：『五百問事』精読(2)</p> <p>第6回：『五百問事』精読(3)</p> <p>第7回：『五百問事』精読(4)</p> <p>第8回：『五百問事』精読(5)</p> <p>第9回：『五百問事』精読(6)</p> <p>第10回：『五百問事』精読(7)</p> <p>第11回：『五百問事』精読(8)</p> <p>第12回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態(a)</p> <p>第13回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態(b)</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

第14回：『五百問事』から知られる5世紀中国仏教の戒律の実態(c)

第15回：後期の総括および通年のまとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点]

平常点(原文精読を必ず一度は担当する。積極的に意見と質問を提起する)。  
自らの疑問や調べた内容について発言し、出席者たち全員に意見交換を促す。

### [教科書]

使用しない

教科書は使用しません。

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

### [参考書等]

(参考書)

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』(岩波書店, 2013) ISBN:978-4-00-024691-0 (仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい)

船山徹 『『目連問戒律中五百軽重事』の原形と変遷』(『東方學報』京都70, 1998) (無料ダウンロード <http://hdl.handle.net/2433/66796>)

Funayama Toru 『Masquerading as Translation』(Ajia Major, Third Series, 19-1/2, 2006) (無料ダウンロード <https://www2.ihp.sinica.edu.tw/file/1437ErffHdN.pdf>)

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

特に必読の論文はPDFを作成し、読むことを義務付けます。

### [授業外学修(予習・復習)等]

予習:

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備しなさい。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』 「菩薩地」の文献学的考察と玄奘訳からの英訳の試み									
[授業の概要・目的]											
<p>ゴータマ・ブッダは、紀元前500年～300年頃の或る時期、ガンジス川の中流域を活動の中心地として、80年の生涯を送った人物である。東アジアに広まる仏教の創始者となる。20代の終わり頃、ブッダは悟りを開く覚醒体験を得る。その数ヶ月後に、その自覚内容を言葉化したとき、有情/衆生の存在の中核には苦しみがあると宣言する。この真理内容は、「四諦」「五蘊」「縁起」の所説として今に伝わる。これらの所説の中で、ブッダは悟りに至った瞑想を「四禅」という用語で自ら開発した瞑想技術として今に伝える。ブッダの直弟子たる「声聞」たちにとって仏道を歩むときの手立てとなり、続く世代にとっては、悟りを目指す「菩薩」たちの菩薩道を歩む道筋となる。この菩薩道を歩むための教説が、大乘仏教の二潮流の一つ、瑜伽行派の根本論書である『瑜伽師地論』 「菩薩地」(サンスクリット原典)の中で、どのような言葉として伝わり(パ リに伝承される文言との比較吟味も行いつつ)、また、どのような新たな解説が行われるのか、9世紀のチベット訳も参照しながら文献学的に考察する。併せて、7世紀の玄奘訳からの英訳を試みる。以上は、授業の主たる目的である。</p> <p>授業の展開としては、学位論文(卒業論文、修士論文、並びに、博士課程論文)の作成を目指している受講者と相談のうえで、それぞれの研究対象テキスト(の一部)を精読する時間を設定する予定である。その授業計画として、暫定的なテキスト精読計画を、シラバスに記すこととする。</p>											
[到達目標]											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に下記の項目内容に沿った形で、まず、『瑜伽師地論』 「菩薩地」の概説から始め、受講生が研究対象とするサンスクリット・テキストの文献学的分析を行う。</p> <p>第1回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」の概説  第2～5回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み  第6～8回 『根本説一切有部律』に伝わるデーヴァダッタ伝説と有部論書の伝承についての比較考察  第9回～11回 『入菩薩行細疏』における菩提心と菩薩行実践内容についての考察  第12～14回 『プラサンナパダー』所引の諸経典、『如来秘密経』『三昧王経』などについての考察  第15回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み(振返り)</p>											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

### [履修要件]

サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。

### [成績評価の方法・観点]

平常点。  
各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。  
テキスト解読に対するサンスクリット読解力の正確度をもって評価します。

### [教科書]

授業中に指示する  
テキスト(サンスクリット原典、チベット訳、漢訳、並びに、校訂テキスト)は、適宜、コピー配布します。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。

### (その他(オフィスアワー等))

室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系110

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		滋賀医科大学 医学部 教授 室寺 義仁			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『瑜伽師地論』 「菩薩地」の文献学的考察と玄奘訳からの英訳の試み（続き）									
[授業の概要・目的]											
前期授業のテーマ（各テキストの精読）を継続し、思索を深めて行く。											
[到達目標]											
サンスクリット原典テキスト、並びに、チベット訳・漢訳の翻訳テキストに対する文献学的分析手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
基本的に下記の項目内容に沿った形で、前期に取り扱った各テキスト分析を継続し、思索を深めて行く。											
第1回～5回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み											
第6回～8回 『根本説一切有部律』に伝わるデーヴァダッタ伝説と有部論書の伝承についての比較考察											
第9～11回 『入菩薩行細疏』における菩提心と菩薩行実践内容についての考察											
第12～14回 『プラサンナパダー』所引の諸経典、『如来秘密経』『三昧王経』などについての考察											
第15回 『瑜伽師地論』 「菩薩地」サンスクリット原典の精読と玄奘訳の英訳の試み（振返り）											
[履修要件]											
サンスクリット語、パーリ語、古典チベット語を履修済み、または、履修中であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。 各授業での講読担当者を予め定めて発表してもらいます。 テキスト解読に対するサンスクリット読解力の正確度をもって評価します。											
[教科書]											
授業中に指示する テキスト（サンスクリット原典、チベット訳、漢訳、並びに、校訂テキスト）は、適宜、コピー配布します											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業では講読担当者を予め定めて発表してもらいますが、担当者以外も自らサンスクリット・原典テキスト、並びに、比較吟味すべきチベット訳や漢訳も併せて読み比べ、予習した上で、授業に臨むこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
室寺への連絡は、murojiji@belle.shiga-med.ac.jp 宛にメール連絡をして下さい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

東洋文化学系111

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		チベット仏教瞑想論 / Theories of Meditation in Tibetan Buddhism (II)									
【授業の概要・目的】											
<p>We will investigate the relation between oral/textual tradition (Tibetan: thos pa), philosophical inquiry (bsam pa) and meditative practices (sgom pa) in Tibet, by focusing on the literature of theories of meditation and of spiritual advice.</p> <p>We will provide first a general overview of such various literary genres and of the history of meditation and yoga in Tibet. Then we will focus especially on the tradition of the School of the Ancients (rNying ma pa), following its classification of Buddhist teachings which culminates in the Great Perfection (rDzogs chen), considered as the pinnacle of both sUtra-s and tantra-s.</p> <p>We will read a selection of texts by Klong chen Rab 'byams pa (1308-1363), 'Jigs med gling pa (1730-1798), etc.</p> <p>We will intend to elucidate such materials by situating them in the broader history of Buddhist philosophy, psychology and epistemology. Especially, we will consider two main cognitive faculties, "mindfulness" and "clear comprehension" (dran pa dang shes bzhin), and their training in connection to the soteriological question of the recognition of the "nature of mind" (sems nyid).</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>- Acquiring the fundamental knowledge of theories of meditation in Tibetan Buddhism</li> <li>- Developing Tibetan reading skills and critical research methodology in this field</li> </ul>											
【授業計画と内容】											
<p>Class 1. Introduction</p> <p>Classes 2-14. Reading selected Tibetan texts</p> <p>Class 15. Wrap-up session and feedback</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Evaluation is made according to active participation and presentation.											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

仏教学(特殊講義)(2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

Tibetan texts and secondary literature will be provided or indicated at each class for the preparation of the next class.

**(その他(オフィスアワー等))**

DEROCHE Marc-Henri: [deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp](mailto:deroche.marchenri.6u@kyoto-u.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国の僧伝を読むー 『続高僧伝』講読									
[授業の概要・目的]											
<p>中国初唐の道宣が撰した『続高僧伝』は、南北朝期から初唐にかけての中国仏教史を考える際に最も基本となる史料であり、日本仏教にも大きな影響を与えている。この書は、道宣自身が僧伝にかかわる関連史料の網羅的な収集と各地の実地踏査をもとに幾度も増補改訂を行ったものであり、同種の書に例をみない豊富な内容と版本ごとの大きな異なりを有している。特に日本の寺院が所蔵する古写本は、版本よりも以前の形態を保存しており、近年研究が進み、その増補過程が次第に明らかとなってきている。</p> <p>本授業では、『続高僧伝』の各種版本・撰者道宣の伝記について概観した後、主要な僧の伝について、研究史を紹介し、複数の版本を比較検討し、同一人物についての他の史料と比較検討しながら読み進める。それによって、中国仏教史の理解を深め、僧伝の内容にいかに関者の主観が大きく影響しているかを考えてみたい。関連する石刻資料があれば現物の写真・拓本なども紹介する。</p> <p>今年度は昨年度に引き続き訳経篇巻に収録された人物を検討する。具体的には北朝後期から隋代にかけて生きた彦琮をとりあげる。彦琮は北齊の名門趙郡李氏の出身であり、早くから梵語仏典にも通じていた。翻訳事業への参与を通じて西域事情にも通じ、玄奘が弟子に『大唐西域記』を編纂させるにあたり彼の『西域伝』を参照させたとされる。近年、彦琮について、その翻訳論や国家論文学など、多角的に検討した齊藤隆信『釈彦琮の研究』が上梓された。この書を参照しその内容を検討することも同時に行う。</p>											
[到達目標]											
内容面											
<p>一、インド仏教と中国仏教との差異を学ぶ。</p> <p>二、隋代の主要な僧の経歴を把握し、隋の仏教復興政策について理解する。</p> <p>三、僧伝執筆の時代的背景や執筆者の思想的立場を理解する。</p> <p>四、伝記の記事内容を事実として鵜呑みにせず、相対化する視点を身につける。</p>											
技能面											
<p>一、僧伝に使用される常套句やロジックに親しみ、仏教漢語読解能力を高める。</p> <p>二、C B E T A ・ S A T などの電子仏典資料や様々な工具書について理解し適切に使用できるようになる。</p> <p>三、複数の版本を用いた文字の校勘の仕方を習得する。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回： 『続高僧伝』を読むために必要な基本的資料と工具書											
第2回： 『続高僧伝』講義 道宣の略伝・諸版本・訳注レジュメ作成方法の説明											
第3回： 『続高僧伝』講義 『続高僧伝』の素材としての『歴代三宝紀』											
第4回： 『続高僧伝』講読 達摩笈多伝											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

第5回：	『続高僧伝』講読	塔懺法と『占察経』
第6回：	『続高僧伝』講読	侯白・徐同卿・劉憑
第7回：	『続高僧伝』講読	衆経法式と費長房
第8回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝1
第9回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝2
第10回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝3
第11回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝4
第12回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝5
第13回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝6
第14回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝7
第15回：	『続高僧伝』講読	彦琮伝8

### 【履修要件】

古典漢文読解の基礎的な能力や現代中国語文読解能力があれば望ましいが、学ぶ意欲のある方であればどなたでも受講を歓迎する

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況またはレポート）100%。

### 【教科書】

使用しない

### 【参考書等】

（参考書）

『国訳一切経 和漢撰述部 史伝部8, 9, 10』（大東出版社）（書の解題と書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

『大乘仏典 中国・日本篇』（中央公論社）（『続高僧伝』の何人かの伝記について現代語訳と注を掲載）

『新国訳大蔵経・『続高僧伝』1』（大蔵出版）（巻六までの書き下し・簡単な注釈を掲載したもの）

齊藤隆信 『釈彦琮の研究』（臨川書店，2022）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：僧伝をあらかじめ下読みしておく。関連する僧伝の現代語訳や書き下し（国訳一切経）各種版本の文字の異同等を調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随

仏教学(特殊講義)(3)へ続く

仏教学(特殊講義)(3)

時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31831 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 倉本 尚徳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		政治権力と寺院の関係から見た中国中古仏教史									
[授業の概要・目的]											
<p>寺院は僧が集団で生活を送り修行に励む場である。また、在家者との接点の場でもある。インドの寺院においてはそれぞれ一部派の戒律に基づき寺院生活が行われていた。中国へ仏教が伝来してしばらくは、戒律が本格的に訳されずに寺院で僧の生活が行われていた。インドの各部派の戒律は五世紀の前半に中国にもたらされ漢訳された。本講義では、インドと文化の異なる中国中古（魏晉南北朝隋唐）時代の僧たちがどのように戒律を受容して運用し儀礼を行ったかを考えて行きたい。また、日本古代における寺院のあり方についても検討する。</p> <p>インドと中国仏教の大きな相違の一つは、政治権力が寺院や僧の数を制限し、僧団の戒律や儀礼大寺院の入住僧の選定にも介入した点である。政治権力による教団の統制に対する僧の反対運動も行われた。この点に特に注意して講義を行う。毎回事前に関連論文を用意するので、全員があらかじめそれを読んで出席し授業で討論を行う形で進める。</p>											
[到達目標]											
<p>内容面</p> <p>一、インド・中国・日本仏教の相違を学ぶ。  二、南北朝隋唐時代の主要な寺院を把握し、皇帝と寺院の関係について理解する。  三、中国における戒律と儀礼を軸とした仏教史の展開について学ぶ。</p> <p>技能面</p> <p>一、研究動向を把握し、先行研究を批判的に読み込むことができる。  二、異なる視点から見れば同じ史料に対し別の解釈がなされることを理解する。  三、主体的かつ論理的に自己の意見を述べ、議論することができる。</p>											
[授業計画と内容]											
第1回： ガイダンス・寺院史の概観 第2回： インドにおける寺院生活 第3回： 後漢明帝の霊夢と白馬寺伝説 第4回： 道安の戒律への関心と慧遠「沙門不敬王者論」 第5回： インド流の食事作法導入をめぐって 劉宋時代の踞食論争 第6回： 女性の出家をめぐる問題 尼僧の受戒・皇室と尼寺 第7回： 皇宮と仏教寺院 同泰寺・内道場 第8回： 隋の仏教復興と王朝の正統化 一 大興善寺・大興国寺・禅定寺・仁寿舍利塔 第9回： 唐初の教団統制と律学の勃興 第10回 玄奘の帰国と初唐の皇家寺院 弘福寺・大慈恩寺・西明寺 第11回： 道宣による戒律・儀礼の整備と戒壇の建設 第12回： 武則天と大雲寺 第13回： 禅宗の中央進出と少林寺 都市近郊の山岳寺院と皇帝 第14回： 皇帝と石窟寺院、寺院壁画と浄土教											
----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

## 仏教学(特殊講義)(2)

第15回： 日本古代の寺院

### 【履修要件】

特になし

### 【成績評価の方法・観点】

平常点（授業内での発言・発表状況）100%。

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

（参考書）

倉本尚徳 『儀礼と仏像』（臨川書店、2022）ISBN: 4653045739（インドからの展開をふまえて中国における仏教儀礼の展開について論じたもの。政治との関係にも言及する。）

礪波護 『文物に現れた北朝隋唐の仏教』（法藏館、2023）ISBN:4831826448

義浄 『現代語訳南海寄帰内法伝（法藏館文庫）』（法藏館、2022）ISBN:483182643X（インド・東南アジアの戒律・儀礼を主とする立場から中国の戒律や儀礼のあり方を批判した書物。比較文化論としても秀逸）

その他の参考文献については講義中に随時提示する。

### 【授業外学修（予習・復習）等】

予習：配付資料をもとにあらかじめ読み内容を把握しておく。関連する研究を探して読む。論文で引用された史料の現代語訳や書き下し（国訳一切経）などを調べておく。

復習：講義内容を復習し、疑問等があれば関連する資料を調査し、次回講義時に発表する。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設けないが、開講時にメールアドレスを伝えるので質問・意見等があれば随時歓迎する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系114

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行い、二回目から十四回の授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。第15回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。後期の演習もあわせて受講することが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 東洋文化学系115

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インド中期中観派と空思想をめぐる諸問題解説									
[授業の概要・目的]											
ナーガールジュナの主著『中論』には様々な立場から多数の注釈が著され、それに従って中観派も様々に展開していく。本演習では、サンスクリットも現存するチャンドラキールティのプラサンナパダーを中心に、関連する諸注釈も参照しながら、そこに見られる多様な議論を解説し、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深めることを目的とする。											
[到達目標]											
『プラサンナパダー』に見られる多様な議論を検討しながら、その当時の思想状況とインド中期中観派について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、十四回目までの授業では、『プラサンナパダー』を精読しながら、関連する諸問題について解説する。必要があれば、初回の授業の中で、著者、著作、背景等についてイントロダクションを行う。第十五回の授業にはフィードバックを行う。											
フィードバック方法は授業中に説明する。											
[履修要件]											
サンスクリット文献、チベット語文献の基本的な読解能力を必要とする。前期の演習も受講していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
テキストはコピーして配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業のテーマに対して充分問題意識を持ち、毎回の授業に出席するにあたって相当の予習をしておくことが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		駒澤大学 仏教学部 准教授 加納 和雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		梵文仏典写本研究のための基礎知識									
[授業の概要・目的]											
インド本土において衰退した大乘仏教を研究するために現在われわれの手元に残されているのは、インド周辺諸国において翻訳という形で伝承された仏典翻訳文献と、写本として伝来されている梵文原典とである。このうち写本資料は仏典原典の言語をダイレクトに今に伝える貴重な資料であり、近年その研究が飛躍的に進んでいる。授業では梵文仏典写本研究の現状と課題について理解し、写本を実際に読解しながら、文字解読をはじめとする基礎的な能力の養成を目的とする。											
[到達目標]											
梵文仏典写本の研究状況の大局を把握し、写本読解の基礎を習得する。											
[授業計画と内容]											
冒頭数回の授業では、インドに由来する梵文仏典写本研究の現状について、特に、ネパール・チベット伝来の写本を中心に概観する。さらに写本読解のための基礎知識を養うために、従来刊行されてきた写本の文字表や、梵文写本独特の綴り字法などについて説明する。また、写本の所有者にまつわる逸話を紹介し、来歴と伝承過程について補足する。これらの基礎知識を習得した後は、実際に写本の読解に入る。素材としては、未読の断片写本をサンプルとして用いる。特に、写本の読みに問題がある場合の対処法と有効な手続きについて詳しく論じる。授業は演習形式とするが初心者も歓迎する。											
第一～三回 歴史的背景の概説と研究状況の概観 第四、五回 資料読解のための実践知識の習得 第六～十五回 資料の読解											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業配布資料を予習・復習すること。出席者には課題をそのつど課す。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 東洋文化学系117

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教思想研究(インド宗教哲学文献精読)									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
[到達目標]											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
<p>初回はAbhidharmakosaのイントロダクションを行う。</p> <p>第2回～第15回は、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
[教科書]											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

## 東洋文化学系118

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		仏教思想研究(インド宗教哲学文献精読)									
[授業の概要・目的]											
<p>本授業ではAbhidharmakosaの第一章(界品)およびその自注を精読する。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読やディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。</p> <p>本授業はサンスクリット語文献の精読に基づいて行うため、受講者はすでにサンスクリット語を習得していることが望ましい。さらに、チベット語訳および漢訳も適宜参照することから、チベット語および漢文についても一定の読解技術が要求される。ただし各言語でのテキストを読めない場合でも、授業中に提示する日本語訳にもとづいて、各自の専門分野の知識をバックグラウンドとして議論に加わるという形式での参加も認める。</p>											
[到達目標]											
古典サンスクリット語文献を原典で精読しながら、思想を体系的に整理することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
初回～第15回で、Abhidharmakosaの精読・分析を行う。また、受講者の興味に応じて適宜、他の文献の精読、ディスカッションを行い、さらには応用仏教学的な学際的議論も行うなど、総合的に仏教思想の理解を深めることを目標とする。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
成績評価は、平常点に基づいて行う。											
[教科書]											
授業中に指示する テキストおよび資料については適宜授業中に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布資料を事前に参照し、文献を事前に精読してくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36											
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		宗教情報センター 京都支社 研究員				佐藤 直実	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		大乘仏教經典の読解											
【授業の概要・目的】													
<p>最初期の大乗經典『阿しゆく仏国經』第6章の講読を行う。</p> <p>阿しゆく仏は、東方・妙喜世界を主宰する他土仏である。西方・極楽世界の阿弥陀仏と並び、東西他土仏の双璧をなす。最古の他土仏の一人であり、後に四方四仏の東方仏として定着する。密教では金剛界曼荼羅の東方に据えられ、後期密教では、大日如来に代わり、曼荼羅の主尊になる場合もある。</p> <p>『阿しゆく仏国經』は、阿しゆく仏の修行から成道、涅槃にいたるまでの半生と、その仏国土の様子を描く經典で、大乘仏教興起のなぞを解くための重要な資料である。漢訳が2種類、チベット語訳が1種類ある。</p> <p>本演習では、全6章ある『阿しゆく仏国經』の中から、阿しゆく仏国土に生まれるための方法を記す第6章をとりあげる。本經を読誦・暗記し、他人に宣説すること、六波羅蜜の行や三種の善根を回向することなどが推奨され、それらを実践した菩薩は悪趣に落ちることがないなどの功德についても説かれる。</p> <p>本講座では漢訳2訳を参照しながら、チベット語訳を読み進め、大乘仏教の発展過程についても外観したい。</p>													
【到達目標】													
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 古典チベット語で書かれた仏教經典の読解力の養成</li> <li>2) 大乘仏教の基礎知識の習得</li> <li>3) 仏教文献学の研究手法の習得</li> </ol>													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 テキストの概説と資料配付</p> <p>第2-14回 『阿しゆく仏国經』第6章の講読</p> <p>第15回 フィードバック</p>													
【履修要件】													
わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。													
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----													

## 仏教学(演習)(2)

### [成績評価の方法・観点]

授業時の発表及び平常点をもとに総合的に評価。  
テストは行わない。

### [教科書]

授業中に資料を配付する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業時に読むテキスト箇所の和訳。必要に応じて、その背景についても調べる。

### (その他(オフィスアワー等))

わからないことに関しては、授業中に積極的に質問してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都産業大学 文化学部 教授 志賀 浄邦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シャーンタラクシタ作『真実集成』及びカマラシーラ作『真実集成細注』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>8世紀インドおよびチベットにおいて活躍した学僧シャーンタラクシタによる著作『真実集成 (Tattvasamgraha)』とその弟子カマラシーラによる『真実集成細注 (Tattvasamgrahapanjika)』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。本著作『真実集成』は独立作品でありながら、ダルマキールティの認識論・論理学の注釈書的な側面も合わせ持っている。本授業では、上記のテキストを精読することを通して、仏教徒の因果論・刹那滅論・業報論に対して、対論者からどのような批判が投げかけられたか、また仏教徒とインド哲学諸派の論争の争点はいかなるものであったかといった問題について考察することを目的とする。当該テキストには、対論者の見解が他の論書等から忠実に引用されている場合も少なくないため、テキストの読解と同時にサンスクリット断片の収集・精査も合わせて行いたい。</p> <p>また本著作には様々な学派の見解が引用・紹介されていることから、このテキストを読み解くことを通して7～8世紀インドの思想状況を概観することができる。『真実集成』の他の章(特に第8章「存続する存在の考察」)の記述とも比較しながら、本著作のインド思想史上における位置づけも試みたい。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンスクリットおよびチベット語で書かれたテキストを正確に読解することができるようになる。</li> <li>・テキスト上の問題点に気づき、それを発見・指摘し的確に修正できるようになる。</li> <li>・先行研究を批判的に検討した上で、独自の意見・見解を打ち出せるようになる。</li> <li>・電子データをはじめとする周辺資料を駆使することにより、チベット訳テキストをサンスクリット断片と同定できるようになる。</li> <li>・テキストを読解する過程で遭遇した問題に対して適切に問いを設定し、立論と論証によりそれを解決することができるようになる。</li> </ul>											
[授業計画と内容]											
<p>授業では『真実集成』及び『真実集成細注』第9章「業とその報いの関係の考察」を講読する。担当者が作成した校訂テキストを元に、先行研究等を参考にしながら、批判的に精読する。</p> <p>第1～2回 仏教認識論・論理学(特に刹那滅論と因果論)についての概説  第3～5回 『真実集成』及び『真実集成細注』に関する概説  第6～14回 『真実集成』及び『真実集成細注』第9章の講読と解説(受講生による輪読形式)  第15回 フィードバック</p> <p>受講生と議論を交わしながら原典テキストを読み進めるという授業の性格上、授業各回の進度は異なる。</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

## 仏教学(演習)(2)

### [履修要件]

サンスクリット，チベット語，英語の基本的な読解能力を必要とする。

### [成績評価の方法・観点]

平常点による。（毎時間の発表が100％）

### [教科書]

授業中に指示する  
その他，授業中に適宜プリントを配布する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・ 講読するテキストを事前に配布するので，その回に読む箇所を事前に精読しておくこと。
- ・ テキスト上の問題点等について，指摘・質問できるよう準備しておくこと。
- ・ その回に読んだ箇所について再度読み直し，授業で議論された問題点等を再度確認しておくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

質問等は授業の前後に受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 周子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		パーリ語講読									
【授業の概要・目的】											
<p>パーリ語は、上座部仏教系の聖典書写に使用された主要言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様、インド古典学および仏教学の学習・研究を進めるうえで極めて有益な言語のひとつである。</p> <p>また、その音韻的特徴などを把握することで、古典サンスクリット語やヴェーダ語といった古代インド語に対する知識を深めることも期待できる。</p> <p>テキスト講読を通してパーリ語の読解力を付けることを目指す。(上座部仏教に伝わる「ジャータカ(本生譚)」に収録の短編物語を講読テキストとする。)</p> <p>なお、文法的な事柄については、講読を進める中で、必要に応じて解説する。</p>											
【到達目標】											
今後の学習や研究に必要なパーリ語原典テキストを自力で読解できる程度の語彙力と読解力を身につける。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーリ語について(言語的特徴などについて概説)</li> <li>・精読に必要な辞書や文法書などの紹介</li> <li>・講読テキストのプリント配布</li> <li>・講読テキストに関する概説(物語の内容、関連テキストなど)</li> </ul> <p>第2回-5回：テキスト講読：猿王本生譚(Vanarindajataka)</p> <p>第6回-9回：テキスト講読：兔本生譚(Sasajataka)</p> <p>第10回-14回：テキスト講読：四門本生譚(Catudvarajataka)</p> <p>学期末テスト</p> <p>第15回：フィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読形式を基本とする。文法事項等、テキストの理解に必要な事柄は、必要に応じて解説を加える。</li> <li>・授業の進度は、受講生の理解度に応じて変更する場合がある。</li> </ul>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

## 仏教学(演習)(2)

### [履修要件]

初級程度のサンスクリット語読解力があること。

### [成績評価の方法・観点]

平常点（テキスト読解力、あるいは内容理解への積極性：50点）と学期末テスト（50点）による。

（ 学期末テストは初見テキストを問題とし、辞書・文法書などの持ち込みは可とする。 ）

### [教科書]

プリント配布

### [参考書等]

（参考書）

Wilhelm Geiger 『A Pali Grammar』 ( The Pali Text Society ) ISBN:0 86013 318 4

水野 弘元 『パーリ語文法』 ( 山喜房佛書林 ) ISBN:4-7963-0010-4

Dines Andersen 『A Pali Reader (Part 1) ; Text and Notes』 ( Luzag & Co., 1901 )

### [授業外学修（予習・復習）等]

- ・テキスト講読は輪読形式で行うため、原則として予習をして臨むこと。
- ・初学者はできる範囲で予習し、復習に重点をおくこと。

### (その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 21841 SJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(演習) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 芳原 綾子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アルダマーガディー入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現在もインド国内で教団が存続しているジャイナ教の起源は、仏教の成立と同時代であり、両教には類似点もある。ジャイナ教白衣派の聖典で使用されるアルダマーガディー(Amg)は、中期インド語の一つでありパーリ語とも類似性を持つ。Amgで書かれたテキストを実際に読み、必要な参考書を使い、音韻変化等になれる。</p>											
【到達目標】											
<p>アルダマーガディー(Amg)で書かれたテキストを読み、サンスクリットとは異なる、音韻変化や文法をもつ中期インド語の特徴を理解する。単語の意味や語形を調べるために必要な参考書類を使用するようになる。乞食に関わる規定の撰文を読むことで、命あるものとはどういう状態をいうか、受け取ってよい飲食物はどのようなものか等、Amgで書かれた経典を保持してきたジャイナ教の基本的な思想に触れる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目:アルダマーガディーに関する概説と辞書・参考書、および、Amgのテキストを伝承してきたジャイナ教白衣派の紹介  2回目:母音と子音の音韻変化  3回目:名詞変化  4回目:代名詞の変化  5回目:a語幹動詞、e語幹動詞の活用(現在形、未来形)  6回目:過去時制、分詞etc.  7回目~10回目:出家者の1日の過ごし方を述べる『ウッタラジャヤナ』第26章からの抜粋、日課を述べる『アーヴァッサヤ』第1章からの抜粋の読解  11回目~15回目:違反行為をした場合の滅罪に関わるテキストの紹介と撰文(主に『ウッタラジャヤナ』からの抜粋と、滅罪に言及するテキストからの抜粋)の読解とまとめ  テキストの読解に際しては、出席者のサンスクリットの知識を考慮して進める予定である。</p>											
【履修要件】											
初級サンスクリット文法を履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点:授業内での発言(和訳等含む)											
【教科書】											
<p>授業中に指示する  コピーを配布する  渡辺研二 「アルダ・マーガディー語文法入門(1)--(3)」 『ジャイナ教研究』第14-16号, 2008--2010.  F. van den Bossche. A Reference Manual of Middle Prakrit Grammar. Gent. 1999.</p>											
----- 仏教学(演習)(2)へ続く -----											

仏教学(演習)(2)

---

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：サンスクリット語文法の既習者は、同じ文法事項についてサンスクリット語の場合を確認する。

復習：各回、文法事項の確認

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
<p>We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.</p>											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
<p>Part I Background Knowledge (2 weeks)</p> <p>Week #01 Tools &amp; Tips</p> <p>1.1. Lexika, Handbooks, Tools</p> <p>1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic)</p> <p>1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher)</p> <p>Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;</p> <p>Week #02 Introduction to German Indology</p> <p>2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics</p> <p>2.2. Buddhist Studies</p> <p>2.3. Jaina Studies</p> <p>Reference: Bechert &amp; von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung</p> <p>Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Part II History of Scholarship (4 weeks)</p> <p>Week #03 Indology in German</p> <p>3.1. Important Scholars</p> <p>3.2. Representative Works</p> <p>3.3. Reading Exercise</p> <p>Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;</p> <p>Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;</p> <p>Week #04 Indology in German</p> <p>4.1. Important Scholars</p>											
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 仏教学(講読Ⅰ)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### 【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### 【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET14 31851 LJ36									
授業科目名 <英訳>		仏教学(講読Ⅰ) Buddhist Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定講師 Tao PAN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	英語
題目		German Reading in Indology and Buddhology									
【授業の概要・目的】											
We will read representative pieces of the German academic writing in the fields of Indology and Buddhology, in order to help the students develop abilities to read and understand academic German on their own. The purposes of the course include: (1) to introduce students into the disciplines of German Indology and Buddhology by means of the renowned academic works; (2) to familiarise them with the main stylistics of academic writings in German and with the features of German translations from Sanskrit; (3) to develop the students' abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【到達目標】											
Students will develop abilities to read and understand German academic writings on their own.											
【授業計画と内容】											
Part I Background Knowledge (2 weeks) Week #01 Tools & Tips 1.1. Lexika, Handbooks, Tools 1.2. Abbreviations (German, Latin, Bibliographic) 1.3. Conventions (Citation of Texts), Stylistics and Tones (e.g. wohl, vielleicht, nicht sicher) Reference: PW, pw, SWTF, EWAia, Goto 1987; Bechert 1990 Abkürzungsverzeichnis zum buddhistischen Literatur;  Week #02 Introduction to German Indology 2.1. Vedic Studies, Indic Linguistics 2.2. Buddhist Studies 2.3. Jaina Studies Reference: Bechert & von Simson 1993 Einführung in die Indologie; Windisch Geschichte der Sanskrit-Philologie und Indischen Altertumskunde; Vorwort in SWTF; Veröffentlichungen der Helmut von Glasenapp-Stiftung Website: <a href="https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml">https://www.harrassowitz-verlag.de/reihenwerk_249.shtml</a> ; <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;  Part II History of Scholarship (4 weeks) Week #03 Indology in German 3.1. Important Scholars 3.2. Representative Works 3.3. Reading Exercise Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen; Website: <a href="https://whowaswho-indology.info">https://whowaswho-indology.info</a> ;  Week #04 Indology in German 4.1. Important Scholars											
----- 仏教学(講読Ⅰ)(2)へ続く -----											

## 仏教学(講読Ⅰ)(2)

---

4.2. Representative Works

4.3. Reading Exercise

Reference: Rau Bilder der 135 deutschen Indologen;

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #05 Indic Linguistics in German

5.1. Important Scholars

5.2. Representative Works

5.3. Reading Exercise

Reference: EWAia

Website: <https://whowaswho-indology.info> ;

Week #06 Buddhist Studies in German

6.1. Important Scholars

6.2. Representative Works

6.3. Reading Exercise

Reference: SWTF

Part III Reading Materials from Students (8 weeks)

Week #07 to #14 Read, Exercise & Analyse

The choice of texts depends on the participants' interest and specialisation. Various periods and styles of German Indological and Buddhological literature will be read, from essays to excerpts from monographs.

Week #15

Feedback

### 【履修要件】

Basic knowledge of German (e.g. completion of College German) is required.

### 【成績評価の方法・観点】

Assessment will be based on class performance (50%) and final exam (50%)

### 【教科書】

授業中に指示する

### 【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

### 【授業外学修(予習・復習)等】

Preparation of reading materials to be discussed and analysed in class.

---

仏教学(講読Ⅰ)(3)へ続く

仏教学(講読Ⅰ)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29628 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（初級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
前期はチベット文字およびその読み方を習得し、チベット語の名詞の構造、文での使い方を理解する。											
【授業計画と内容】											
授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（1週）</li> <li>2. 文字と発音（4週）</li> <li>3. 名詞（4週）</li> <li>4. 形容詞（1週）</li> <li>5. 助動詞（3週）</li> <li>6. まとめ（1週）</li> <li>7. フィードバック（1週）</li> </ol> <p>「概要・目的」欄に書いたように、日本語話者にとってチベット語はとくに難しい言語ではない。授業は、文字の習得から始め、日本語と異なる特徴を示す点についてはできる限り丁寧に説明を加えながら、段階的に文法の複雑なレベルに進む。</p> <p>受講生は、理解できない点を積極的に質問することが期待される。</p>											
チベット語（初級）(語学)(2)へ続く											

## チベット語（初級）(語学)(2)

### 【履修要件】

特にないが、後期のチベット語（初級）をあわせて受講することが望ましい。

### 【成績評価の方法・観点】

成績は、平常点（100％）によって評価する。

### 【教科書】

プリントを配布する。

### 【参考書等】

（参考書）  
授業中に紹介する

### 【授業外学修（予習・復習）等】

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 29629 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語(初級)(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 宮崎 泉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語初級									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、とくに現代チベット文語の資料をもとにチベット語の初級文法を学ぶ。これによって、現代口語を理解することができるとともに、古典文法への橋渡しともなる。</p> <p>チベット語は日本語と類似した特徴もあり、日本人にとっては学びやすい言語であると言える。しかし、文字体系は複雑であり、また、動詞の屈折や助動詞の使い方には学習に困難な面もある。</p> <p>1年間の授業で簡単な読み物が読める程度の文法知識を身につけることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
後期は動詞の屈折を中心として学び、文の構造を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前期のチベット語(初級)に引き続き、チベット語初級文法を解説する。授業の際に配布するプリントに従って、おおよそ以下の順序で文法を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動詞(5週)</li> <li>2. 複文他(5週)</li> <li>3. チベット語テキスト演習(4週)</li> <li>4. フィードバック(1週)</li> </ol> <p>基本的な文法の解説を終えた後は、性格の異なる短い文章をできる限り読み、実践的なチベット語の習得を目指す。</p>											
【履修要件】											
前期のチベット語(初級)を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
成績は、平常点(100%)によって評価する。											
----- チベット語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

チベット語（初級）(語学)(2)

**[教科書]**

プリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

語学の授業であるので、受講生は予習・復習を行わなければ授業についていけなくなる。とくに、前期ではチベット文字、後期では動詞の屈折について何度も繰り返し復習する必要がある。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

東洋文化学系127

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組みうる程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけでなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
前期の授業は、テキストを丁寧に読みながら、文法事項を確認することで進められる。テキストは毎回1-2話ずつのペースで読む予定である。受講生は、内容を把握するだけでなく、文法事項についても理解することが求められる。助詞や助動詞の用法、また動詞の形態変化などの理解を深めることが目標の一つである。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- チベット語（中級）(語学)(2)へ続く -----											

手ペット語（中級）(語学)(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 39630 LJ48									
授業科目名 <英訳>		チベット語（中級）(語学) Tibetan				担当者所属・ 職名・氏名		愛知県立大学 外国語学部 教授 高橋 慶治			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2023・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		チベット語（中級）									
【授業の概要・目的】											
この授業では、チベット語初級を終えた学生が次の課題として取り組む程度の現代チベット語の物語を読む。現代チベット語の読み物を通して中級レベルのチベット語を学ぶ。また、チベット語の読解を通じて、初級文法の復習を行う。											
【到達目標】											
チベット語文法に対する理解を深め、現代チベット語を読解する能力を習得することを目的とする。											
【授業計画と内容】											
この授業で使用するテキストは、中国から出版された笑い話集である。同書は、比較的短い物語を集めており、文法的にも容易で読みやすい。同時に、チベット人が持つユーモアや皮肉を含んでおり、たんに文法を学ぶだけではなく、その精神世界の一部をかいま見ることができよう。											
後期の授業は、テキストを丁寧に読みつつ、前期よりもペースを上げて読む予定である。受講生は、文法事項を正確に把握しつつ、内容をより深く理解することが求められる。											
第1回 イン트로ダクション 第2～14回 チベット語テキストの輪読 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
チベット語初級文法を終えていること。後期のチベット語（中級）をあわせて受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当個所について十分に予習しているかどうか、また非担当個所についての担当者への質問など）。必要に応じて、学期末に試験を行うか、レポートの提出を求めることがある。											
【教科書】											
テキストは、プリントとして配布する。											
チベット語（中級）(語学)(2)へ続く											

チベット語（中級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当箇所について、十分に予習するとともに、担当箇所以外も予習をして内容についての議論に参加できるようにすること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。